言幸舎書入

源氏物語

通番 百七十八
類別
同書冊數 一冊ノ内
所有者 竹乃舎（三崎）
保管きの六

六。六 ウ下
冊内

九曜文庫

コノ頭書凡テ印ナキハ鈴屋大人ノ玉ノハヾキヨリ書トリタルナリ　ソノウチニ拾遺トアルハ契沖ノ源注拾遺ヲイヘリ　○ノアルハ真淵翁ノ新釋ノ説ナリコヽニハイカヾナルモオホク六文トリ　△ノアルハ鈴屋翁ノ書入ナリ

源氏生ル玉フ――――一
桐壺ノ更衣ウセタマフ――三
一ノ宮立坊――――四
源氏御文ハジメ――七
源氏元服シ玉フ――十二

△物語トハ実言虚言ヨトヒワキマヘズソノ語ルマヽ〳〵カキアツメタルヨシナリ今テイフ昔モノガタリ〳〵
伊勢ハアリシコヽノアラヌサマニカキナシ竹ハヨソノコヽロヨリコヽニ書ナシ空落ハ上ヲ大和今昔
宇治ハ人ノカタルマヽヲ書付タルヨシナリ栄花ハ実事ナリ

桐壺

○コレヲコノ巻ノ名トスルハ光源氏ノ御母ノ御息所ノ御局ヲ桐壺トイヒハタ
御息所ノコヽロヨリ云ヒ巻ナレバナリ

此巻乃名するけもの此巻ハ桐壺ノ更衣ノ住居ノ名なりと
いふる説とをとりて名付てるるりうまた光源氏の
君の母更衣の住居ノ名ニ入云一名ハ桐壺ノ
裁ぬ[十七オ]ぬ[十七ウ]のはるせんさのはりうるとと
ある説よりてなり此巻の中ハ源氏の君
誕生より十二歳の事まて見えたり此巻
の末の説ハ光なりなりなりてのちとあり其

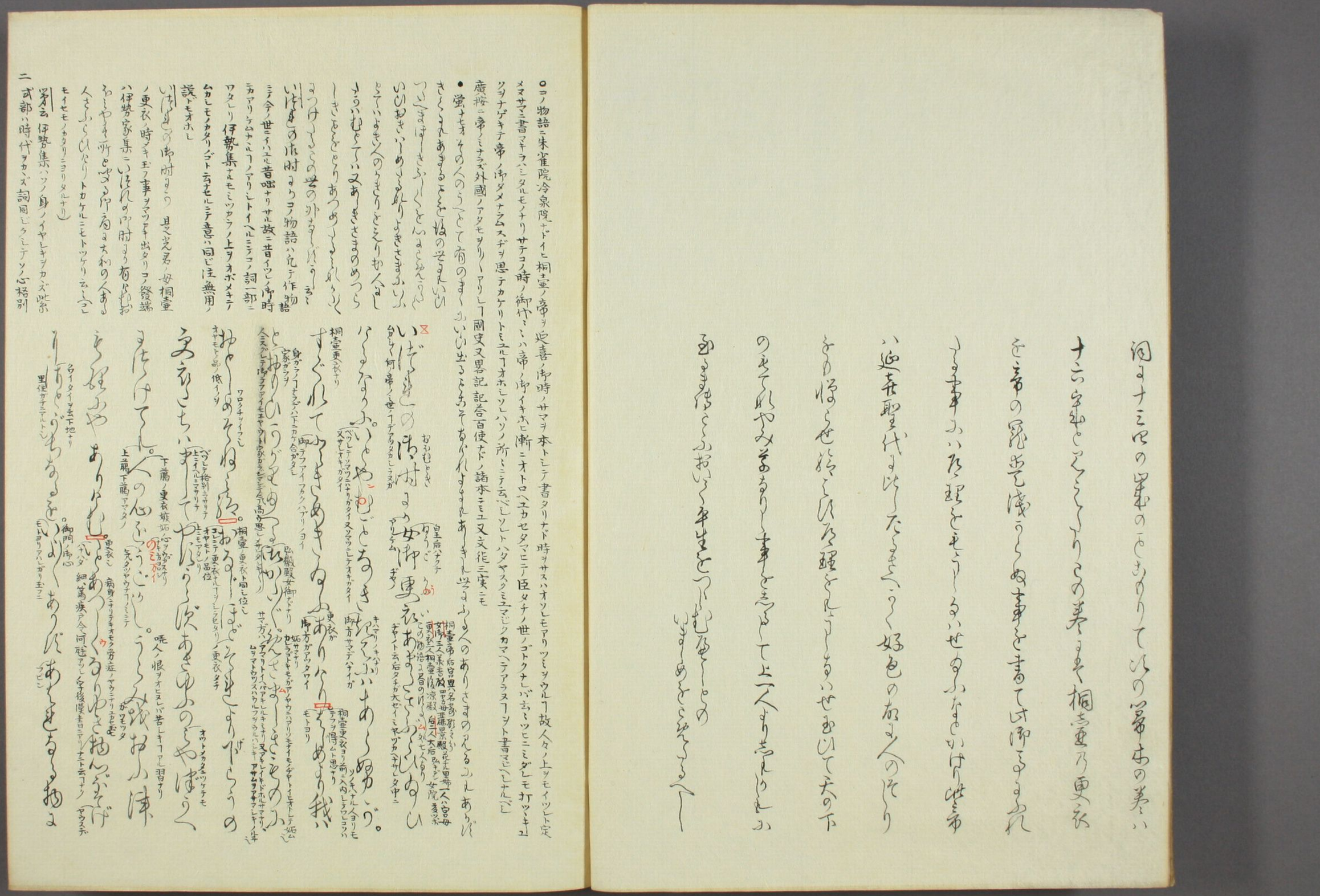
○コノ物語ニ朱雀院冷泉院ナドイヒ桐壺ノ帝ヲ延喜ノ御時ノサマヲ本トシテ書タリナド時ヲサスハオソレモアリツミヲウルフ故人々ノ上ヲモイツレト定メマサマニ書マキラハシタルモノナリサテコノ時ノ御代ニハ帝ノ御イキホヒ漸ニオトロヘユカセタマヒテ臣タチノ世ノゴトクナレバ云ミツヒニミダレモ打ツキユクヲナゲキテ帝ノ御タメナムスヂヲ思テカケリトミエフオホシソレハソノ所ニテ云ベシソレハダヤスクミユマジクカマヘテアラヌコト書マジケンビ廣梅ニ帝ノミナラズ外國ノアタモヨリ〳〵アリシフ國史又畧記記答百使ナドノ諸本ニミユ又文花三実ニモ

●螢ナモオソノ人のうとて有のまゝ〳〵ふいに出るあそばれすまれあきれ学るふる人のありさまのうれるふれあらばきくこれあるまるとを始のそまれいいつまはーきふーくをんまとんをふいひおきいめさる乱りよきさまふいふとていよもくのうきりとをりおくなしきういむとてハ又あきさまのめつらしきとをとりあつめてるもれらくあつけてるらの妻の外まゝ〳〵ふのるいけまの作時まうコノ物語ハ元テ作物語ニテ今ノ世ニハ云ヒ昔咄ナリサル故ニ昔イヒシ御時ニカアリケムナルフノアリシトイヘルニテコノ詞一部ニワタリ伊勢集ナルモミツカラノ上ヲオボメキテムカシモノカタリゴト云セルニテ意ハ同ジ注無用ノ説ドモオホシ

いけまの御時のこの　是ハ光君ノ母桐壺ノ更衣ノ時メキ玉フ事ヲマツヲキ出タリコノ發端ハ伊勢家集ニハ云ヒ昔ノ御時ニ有ケル御ミヤスドコロ所ヒロウ有ケルカノ人さふらひなりトカケルニモトツケリ云シコトモイセモノカタリニヨリタルナリ

冊子云　伊勢集ハソノ身ノイヤレキヲカゾ此ニ

二　式部ハ時代ヲカゾ詞同ジクミテソノ心格別



ナリ是作者彩骨ナリタトヘハ風ノ詩ニ漢王ノコヲ以テ唐ヲソヒルガゴトシ

•コノ詞イセ物語ノ昔男アリケリトイヘル書ヨハベルサマニオモハル

女御　后ニツケル女官ナリ周禮ニ天官ニ云ク女御者御妻也。女御堂ニ叙御子王之燕寢云々註女御則八十一御妻也。御猶進也侍也。曉花ニ女御無位已上二位三位ナリ雄略天皇七年稚媛吉備上道女為女御是始也又称名院ノ御説女御ノ数日本ニオホクナルハ文徳天皇ヨリ也〜

更衣　女御ヨリハ次ノ人ナリコノ局ニテ帝ノ御衣ヲメシカフル故更衣トイフナリ漢書淮夫傳彭師古注更改也久坐皆起更衣トイヘリ潮皇后傳ニモ帝起更衣子支侍尚衣トアリ本朝更衣ハ仁明天皇承和三年正五位上紀朝臣乙魚授従四位為更衣コレ始也河ニクハ便宜ノ御殿ニ彼フシカベキ上達部ノムスメナリ

•便殿ニサフラヒテ御衣ナドヌメシカヘサセ奉ル故ニ更衣トイフ古ノ嬪トイフニ当リ

•續後紀承和九年正月六戌日天皇朝覲太上天皇及太皇太后宮於嵯峨院云〜是日詔授従五位下秋篠朝臣康子正五位下无位山田宿祢近子従五位上并太上天皇更衣也

•いとやごとなきさま　花キハメテ上臈ノ品ヲイフ無止事トカク

•やむごとなき時ヲエタル意ハヤキヌ古雜下時ナリケル人ノ時ナクナリテゲクヲ見テ自ノ數モナクヨコヒモギヲ思テ清原深養父ニカリナキ谷ニハ春モヨソナレバサテトク千ルモノオモヒモナシ

ものすりたるいと注ニ桐壺ノ更衣ヨリサキニ入内シテトイヘルハサシタガヘドヨリハロモトヨリトイハムガ如シ

ものすきものふコノ詞巻々ニカズシテアズ　オホカルヲ思ワタシテ考ルニサハマルマジキコトヨリ思テ憤シル意ノ詞ナリ

人のもとうどのの〜　注ニ下ラフノ更衣云々トイヘルハイカヽ是ハ下ラフ上ラフヘテワタルベシ

あつ〜く　身ヨワク病マルヨイフ拾遺ニ病ノ重キヲ厚シトイフニヤト　イヘルハ物語ニハカナバズ凡テノ詞時付ヨリテ用ル意カハルコアバ物語ニハモノカタリニ用タル例ヲモテイブベキナリ　•羸弱　顕宗紀ニオ身モアツキナド云コアルトオナジク折々熟ナドノアルヨリイヘルナベシ又身オモクナルサマモ見ベシ厚子書集ナドヲモオモフベシ

いとあつくコノ詞数モナク多クアリソヽミワタシ合セテ考ルニ何ト云ヘルモナシコウナツケニ物スルコトナリコヽモソノ意ニテオノガ身ニカヽラヌ人ニテモ何トイフコトニ目ヲバカルナリ注ニ無愛シアヂキナキシナドイヘル皆カナバズ　○澪標四ウ母宮ハイミジウカタハ・ライタキコトニアイナ依ヲツクシ玉フ日ニウアイナクウシシキコヽロノアイナクカタ〜考合スベシ

やむごとなき　拾遺ニ日ノカヾヤク件マバユクテミガタキヤウノ意ナルベキニヤトイヘルゴトクナレテノ人ニ目ヲバカラル、是マバユキナリ

かゝるものおとり　カルトヨミテ事ノ起リトヨムベシカルコトノツヾケテミルハワロシオコリハ起ニテハジマリトイハムガ如シ驕トスルハヒガコトリあぢきなう　天下ノ人モアヂキナキニアザスルヨシナリ或抄ニ云初ニ女中ノネタミソシヒ涙ニカヒタナベウヘクトイヒコヽニ天下ニモトイヘリ

楊貴妃のもあ〜　細コノ巻ハ長恨哥ニテカク故ナリ　玄宗ノ寵愛故ニ安禄山ガ乱出来ルタメナルベシ

花やうの〻〻。　河海云〻文集ト引ヒタリ凡テコノ物語ノ内詞ノ注ニカヤウニ漢書又日本紀ノ文ヲヒカレタルヿタヽシソカ中ニハアタレルモ有テ一ツノ心得ニハ成ベキモアレドタダクハアタリガタクシテミダリナルヿモオホシサレバヒタブルニ注ノ文字スカルキハ詞ノ意ヲアヤマルヿナリ大方何モ〻注ノ文字ニハヨルベカラズコノ声花モ文集ニテハハナヤカトヨミテハカナフベケレドモサリトテハナヤカヲ声花ノ意トノミ心エテハイタクタガスベシサレバ声花ヲハナヤカトハ訓ベケレドハナヤカヲ声花ハ心ウベキニアラズ大方何ヒノ詞ノ註モコノマキマヘアルベキナリ

ゐのをれこみと

●玉ノヲ万五　生レ出タル白玉ノワガ子ハ古ハ云ミ空ス物語タヾコノ巻ニ白ヒカリカヾヤキタル男ノイヲカシゲナルヲウミ玉ヘリ　白居易詩ニ掌珠一顆児三歳

●古記上アカヒヲハヲサヘヒカレド白玉ノ君ガヨソヒシタフトカリケリ　万　タナギシルアガ子トバシツナドモ同ヒ

ふげひ　花ノニホヒ朝日ノニホヒナドイフ色ツヤナリ

よせ初の〻〻　続紀八ニ寄重ク殺霞シ文粹貞信公辞携政表揆重寄撞微身負大任於小材コレハ寄任ゼラルヽヿノ重キヲイハシキヱミトイヘル芯華カヾリアリケビバイトニホヒナシト云リ

万御時歌トカヒリ行シカトノミ待ワタルベキ六云ビノセルヽヿくミ用テ捨ニマナカヌルト云ニ同ジ

いはゐ　アクヾマチカネニ云ヒ肉サセテ

ちごの　オウマツキ

源氏君ノ侍ツ御祝ズシ

ものもちなり　未確略ナリ御兄ナリ

●弘徽殿ノ女御トアリ女御アマタアル中ニ右大臣ムスメノ女御ト云コトナリ

みこい　花ハ左ノ女御

○左大臣トヒキミテ女御ト云コトヲカクワンメイヘルコヽロ。帝ノ御ハカリニマウノ俗語ナリ

ものの　ヤウス

ものふ　もしい万

つきぬ　大切ニモテハヤシ

●桐壺ノ更衣ハサスカニ大納言ノムスメナレバオモ〻シキコヽロナリ

○コレハオレミマガルヿナレバ下ヨリイフ語ホヒ尊ニテカクモ用

ものの　ヤウス

源氏ナリ

おとこ　大切ニオボシメスバカリトシ

すてこ

のきみを

ものの　ウ

あらぎりきれば　ヤウス

ねぼうる

俗ニヒトホリト云意ニ

ものの　ウ

ふまい

●満君ニ東宮ニ参ラセタマフベキトモテシカシツキヌルナリ

園

ものの　ウ

ふまい

ものの　ウ

ふまい

ものの　ウ

ふまい

妻君ヲ后ニトオボシオキテタルヲミルベシ

●一のみこの女御ゝ 下廿五 ばかりオボシタルド限ヲアリケレト世ノヒトキヨエ女御モオチ給ヘリトアルニテラシミルベシ

心ぐるしう コノ詞ハ多ク今ノ世ノ俗言ニ気ノ毒ニオモフト云意ニイヘリ又コヽロニカヽリテ案ニルトイフ意ニモイヘリコヽハ弘徽殿オボス処ヲキノドクニオボシメスシヨタガヒ

コノマヽノヤウニカルクミエヌヤウニモナシ玉ハ

東宮坊 藏人今

弘徽殿ハ余ノ女御更衣タチヨリサキニ入内アリテ朱雀院ノ母弘徽殿ナリ

上ノウタガニサキ備君ト世ニ云トイフニアタレリ

朱雀院ノ母弘徽殿ナリ

源氏

不能 不善

●古大臣ノ女御トイヘル同ジヤウニドカシコハヨセウタガハシウオボシメシテヤヤレ

帝イボシビ

切ニオボシメスシ

弘徽殿ハ余ノ女御更衣タチヨリサキニ入内アリ

宮一品宮前弟宮ナドヲ御ハラ

弘徽殿ヨリノ更衣ノ嫉妬ヲ帝モムツカシク思ヒトナリ

ヒイトカ

是ヨリ更衣ノ心ヒ又更衣ハ

方ナシ

タヨリニ元ハオカゲヽミテ

更衣ノ病苦ナルナリ

ナガナキヲ見出サムトナキ悲シミテ

何トヤラタノミスクナク侍ヤウスミノ御殿受ノカイガカツテ物思ノタネトナルナリ

同所悪則洗垢 求其瀦痕 家語 吹毛求疵 漢書

後撰 ものをけをふきたびをふ
ごはりるき 高津内親王

呼桐はぐい清涼殿の艮也 河淑景舎を桐壺ゝ五舎の一つなり桐つぼいけもの御殿すい夏の方ゆあり弘徽殿宣耀殿などをもて馬乃ぼぐきなれぶあすゝの中のはりぶゝをそなさやるふくいあり

桐、梨、梅、蕨、雷鳴ノ五壺より壺壺ハコトナリ○壺ハ御坪ノウチニテ梅ツボ藤ツボナド云ハソノ御坪ノウチニテ草木ヲモテソコノ舎ノ異名ニシタルモノナリ壺ゝ字ナハ宮中ノ街謂之壺トアルコトナリ器ノ壺トハコトナリ ●字ハコトナリトモツボトイフ言ノモトハ一ツ意ナリ ツボミモオナジ畧言ナリ

淑景舎ハ五舎ノ一ツナリ ●御壺ニ桐ノウヱタルヨリ桐ツボト云

アフギ 世間ハヒヲウギモハヤスヘシ細詳馬

道ニテタイメンナルヒトアリ可考合

更衣ノ局ニ参オハシテ此カタクノマヘトホリタマフナリ

是ヨリ更衣ノ参ヘマヘリ玉フコトナリ

桐壺ヨリ清涼殿ヘ

カリソメニカケタル橋

更衣ノオハス局ナリ

御殿ヨリ局タチノワザトヲ

おもひをそめ 心ツクベ
こハツネ御殿ヨリ良ノ方ノウト末ノ此部屋ニテ
乃はりぶ
コヽデヤウニキツケテハオカタ数ナリ
帝ノ方ヘ入御ノヨキカヒニ切ニ言ヘバ
わ ノボネリ
ふ
ふ
とさ
さ
ぬ
ひ
ぼ
ぐ
ぬ
ふ
ふ
ぬ
ぬ
ぬ

ウ[illegible] ツネノ局ノ外ニ御坐所イカキアリ別ニ休息所ニマウケタル局ナリ　何タイ
イヤナモノ上殿ニ局ヲ玉フヲイフ又中宮ノマウ
ボネセ玉フヲリハ清涼殿ノ二間ヲウノ御局ニ
シツラフナリ日ノオマシノカタハラノ二間ヲ上ノ御局
ハ申スナリ

うつぼ[illegible]ふ　マウボリ玉フ時ニカリソメノ
休息ナドノ局ニタマフナリ又云中宮ノマウボ
ラセ玉フヲリハ清涼殿ノ御座カタハラノ一間ヲ
上御局ニ玉フ定マレルコトナリ又云弘徽殿藤
ツボノ外ニハ上局ヲ玉ハルコトナシ桐壺更衣ニ上
局タマフコト非例ナリコレ大臣記ノ天皇御ホ
ン親王ノ戦ノ功モナクテ帝位ヲ将軍ニムケテ
ノ類ナリクワトカムリノヒツリカヘシナリ可注
君ノ非例ヲアゲテ臣ノ非禮ヲバハヌハイカヾ
トカクオボシメシ深キ御息所ニ所サリキコエズ
カリテサゲシメマヰラスルカラハウヘツボネタマ
ハンコトヨリナリソノサリキコエハコモ臣ノ分
ママスル心ヨリ出タルモノニテ皇朝ニイニヘナキ例
シ云ヘ」弥キヂン藤原ノ外ニハ上ノ宮ネ無之

三歳

御[illegible]ぎ　三歳着袴ノ例河海ニエタリ皇子ナ三歳テ袴着ノ例冷泉院東宮時円融院親王時
[illegible]司をさめどの　内蔵寮　金銀珠玉宝器錦綾御服別勅ノ用物等ノコトツカサドルヨシ職員令ニアリ　納殿　後涼殿ニアリ諸
國ヨリノ進物ナドヲサムル処ナリ何ニテモヲサメオカル処ナリ　○累代ノ御物ハ宜陽殿ニ納ムナド西宮抄ニミユ

[illegible]ぎ　ユキモモドリモナフヌニハセ令
[illegible]ぶ　ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

ゑ〜〜て　古花とゝばゝサヘニブウリケル イロミハイ。テゞ人モコソし」

みしをぶゝ〜めをて　源氏ノ君モトモニ退出シ玉ヒシ人ノヨクシルべき故ニヒノカニ人ノシルマジキサマニテ更衣ノミ退出ナリソハ人ノヒゞこリテハネタメル人々ノシワザニテ恥ガアレキフナドモアラムカトテナリ

前モいとうつくしくなりゆきしトアリ又例ノヤウニニナリ玉ヘバし

（内裏ニテ）

（万代ノ）

（更衣ノ煩ノし）

（ブラ〜トオキオモゲニテウメリ帝ノ御ムしモアバ里ザラ祈禱ナドモサセテミタウヨリマスト）

（オユルし）

（イツカ ムユカ）

（菱窓申し）

（御ムしアリテノ用意ヲ）

（ムラ居看ヲマヅ云テノ時ノサマヲ次タニルス文ノ一ツナリ）

（更衣ノ心ヲ）

（上ニ云ヒシヌヌメワラハセタマフ人々タメハナリ）

（マダドヒ）

（ナヒテ）

（源氏ヲ桐壺トゾメオキテナリ）

（アラウモヒヒマニヨウテトナリ）

（日々ヌキヲ用意ヒタマフと故源氏アトヽメ玉マし別ヌタしマニ其ヒモソカギリアしバし）

（オキ）

（更衣退出ナリ）

（ファしこしナコヲ）

（オモキ御病体故御ムツニオボし歎キモフし）

（更衣ノ体ナリ）

（ヤ〜〜ト）

（ウタ〜と活字退ベし）

（キヤウス）

ずゝなどもいとゝゆゝゆゝふ　拾イニ目ヲアゲテ物ヲミル目ヲキナリトノミアルは注ハタラストイハリ又マバユキシトイヘルほモカナハズタユキハ俗ニダルキトイフコミテ目ツキノタルゲニミユル病者ノサマナリ

てぐるまのせんど　続後紀八承和六年四月壬子朔己卯女御後四位下藤原朝臣澤子卒故紀伊守従五位下總継之女也天皇納之談三皇子二皇女也寵愛之降獨冠後宮俄病而困篤載之輦出自禁中絶到里第便絶矣天皇聞之哀悼遣中使贈三位也トアリ桐壺ノ更衣イ是ニ擬テカケルベし似タルコオホし

（源氏）

（病ノ重サヌナリ）

（申上モセズ）

（病者ノサマオモヒヤラレ）

（更衣迄吾モエシ玉ハヌナリ）

（ダイヤウス）

（モトヨリツヨカラヌ御方ノ）

（若菜下五三　イカサマニナリユクフムトオホしノレマトハしし接ニ非しテタルマノセンニシトノクマハセタルニカナハズ夕負作七女君ワナギマトヒテ川カサマニセトオモヘリ云ヒ）

（セン）

（ナレトしタフコカラウト）

（御ツ心何トしテカ更衣ノ病ヲタスケムトし）

（御ツ心ナリ）

（アトサキモオボエズ●前後ト却ナリ）

（消ケオハしマスナリ）

（ナゴミモヒキイレバし）

（コトヲ略しテフクノテハツ言ナリ前後ニヨリテ意ハシルベキナリ）

（御ツ心ナリ）

（病者ノサマオモヒヤラレ）

（更衣ノ体ナリ）

（ヤ〜〜ト）

（目ツキ）

（孟母　紀ニアリ孟母ゆきし）

（古アマヒコノオトウレトブ今ハオモフワレカ）

（カトヒヨクトルヨニ）

（ウタ〜カタウタ〜カタ〜ヨリヨマサマし）

（ナレトしタフコカラウト）

（御ツ心何トしテカ更衣ノ病ヲタスケムトし）

（モトヨリツヨカラヌ御方ノ）

（病者ノサマオモヒヤラレ）

（ダイヤウス）

（更衣迄吾モエシ玉ハヌナリ）

（ずゝ）

（ずゝ）

（ずゝ

いのちまつ　拾イニイヘルゴトク生ミ行ヲカネタリ但行ク方ハタヾワカル道トイヘル縁ノミテ寄ノ意ハ生ナリ

○後拾　藤原唯矩越前ニテ病テシナレトスルトキ都ニモコヒシキコノアマタアレバナホコノタビハイカントヅオモフ

ちぎらせもあけるまと　ちりらもうもすてゝ　たゞし病気おりくとも言ヒとゝてゝ　果敢の果ハ　えゆ

えゆきやらじふこ　カギリアフレ道トイフヨリ出タリ

悲しくも奉れり

いとゞとて　○御門ノ御返事ニキハ御ノフタクマドハ心モフヲヒラヒタリ　更衣

ゆくすゑ　ばとい　知らえつ　何ヤラ申上タウナコハアヤウスナヒド

おくもありけ　更衣ノ心ノ中ヲ思ヒヤリテモクテモイキタウゾトヒマハ

いのちなりけ　ヌカクマデイミヒキ所ノ心ノ中ヲ思ヒヤリテモクテモイキタウゾトヒマハ

別るるきるれるべ七歳已前ノ人服忌ノ醍醐ノ帝代法ヲタテラルヽ両度改トリ是ハ七歳已前ノ人モ服ノ忌アルベシト有シ時ノ分ニカケルシ云〻

△源氏三歳時遭母喪事・文彦太子三歳時母時子女薨

●よろしきしるし　梅ノ枝ナ一明石姫君ノ宮衆着ノ口ヲ云ヘル下ニ「かゝる処ノ儀式ハヨシキ(方ナシ)ニイトコトオホクウルサキシカタハしバカリ例ノシドケナクマネバンモ中々ニヤトテコマカニカズ〻トアルニテモヨロシキトイフコノ意ヲこれ〻し

なきはてはるのはるのはるの

三位のくらゐ　贈宣位ノ例何海ニアリ清和
外祖母菊山城國愛宕墓贈従三位ノ
三位ヲミツノ位トイフハモトヨリノコナレド三位
ノクラヰトカキタレバ音ニテサンヰトヨマンゾ物
語ノ詞ツキナル
宣命　大臣勅ヲ奉リテ内記ニ命ジテツクラ
シムルヨシ延喜式ニアリ贈位ノムネシカキタル宣
命シ申ハ言コシヨム
●続後紀仁和三年云〻勅以更衣従五位上藤
原朝臣元善為女御中納言従三位山蔭女也

河　文武天皇四年三月道昭和尚迂化ス朝次芥自此時始
えてはて〻灰と化りしるむ時ぞ〻くとなりしのやまむぶるせあ
はかなりのみちをうんきて今いなきの人
一向に　心づよすの
ふるふ石なりあむと　ちうの法
きつうと
ほきど。くるほどよりおちぬ涙をうまらひすべ。
送リノ女房タチノカウイフコミアムト思ヒコトヨトシ
さあておりひつらしふこんで　ゆて　かいホウニ　あつかヒゆネタリ　コマリイルシ
関ゆ。　林ふゆ　ちより　元弁ホ　勅使ヒ　ケラルル　弔使あり。　ミサ　ツカヒ　三位のくらゐ
くるるふよう。　勅使きて　その　宣命　せむ　やう
ものしるき事なりけり。　女御　第子地　カギリギヤ
ずなりぬるゞ　ひうびくちをしうおぼさるれば。　万水　后ニハエセズトモ　コノ詞ニテ后ニモナラズ　恩ヲオカシ心ニエダルナリ
更衣ハ四位　女御ハ三位シ
今ひときざみの　位をぶに。　おくらせ給ふ　イキ　ナリモゼズニテ　オボシメシテ

すげもの　河ニ無人皇紀拾イ云日本紀ニヨノ言ナシ
今云タトヒアリトモノ字サニカナハズ
●因所気無　ヨスガ　ナ　ヨリカトリ明ニテ云也　万ニ家持
スガノ山スガナクノミヤコヒワタル云〻鶯ヲヤ云タルトキノ
長寿ナリ
うへの女房　スベテウヘハ帝ノ所アメリチカキ
ヲイヘリ　ウヘツボネ　ウミヤヅカヘ　ナドノ如シコレハ帝
ノ御前近クツカフマツル女房ヲイヘリ

なりかわ。　お　ふつかてもおくるるのふ人ど
おほうり。　物ノアハレヲシルナリ　カテノヨキナリ　ねおりの　ふもさあるもちるど
乃めでふ　愛甚有ニシ　更衣ノコト
すくふくみ　ヌノ上ニ　ケツノ敷ナリ　なぐらふ　紙や　メニミルニキスニカ　ムツクリトシタ　ナルナリ　ヌイナイ
しいぢる。　ちゆあーきぢ　ちてるーゆ　ゆ　ちう。
細ク　ソネム人心ヲソノマヽヨキタルナリ　ヤマリ甚シイ帝ノ御ナラウイ
すげるう　ヨリツキドコロモナイマウニ　そねみ　ひ　更衣ナリ　人　うちのあい　紙
●実ハきくんヲ云ニ云アスナリ
ふなもけ　フタリシ　ぱつ　ノミナズ　門ニ近ウツカ　神スネウバウシ　ぱ　を　うつの　女房なぐ
ぱ
有今六帖　奥入　カタアテコヒヤモトトワカレテ　ゾレル
ありのまゝ　なくてそくいくしひ　ありのまゝ　ありのまゝ　みくこりきど
ゑ　ゑ乃びあ　なくてそといくるをりふや
とくえてう。

いりくのとのゐ　女御更衣クチノ帝ハ此番ニヲサリ玉フナリ　栄花物語ニイフ宮ウセモテノチ何ニモオボシメサズユシヤマデミエサセ玉フコノホドハ女御ミヤス所ノ此トノヰモタエタリ

河　栄花ニ宮ウセ玉ヒテノチ何ゴトモオボシメサズユヽシキマテミエサセタマフコノホドハ女御ハ思所御トノヰモ絶タリ

秋

七日ヽノ法ちゑんべし

わさとなくうしなはりふとぬらもきるふぢ

本カノハ吉マデモナク

あるものふぜむうるうなるうるうおぐらさるぶ。

女御更衣ノ

ちりぬるぐちちとのゐなどもしらえてあるべ。

御つノ近サマシ

ひ[illegible]ふ[illegible]ちて　ヒタリテ　あうくらさせるだんきるる人

[illegible]ノ後ハ[illegible]

袖ノヌレル

[illegible]ぎ秋なりぬるあるまで人のむ[illegible]あく

悪后詞ヨリ　后ノ

駒のたてまきめし

[illegible]ぐりてとらる人乃ぢるんぐるのとぞ。ム[illegible]

更衣シ　后ノカヾト思マドフ意　オボシメシ

イヤヾト思マドフヲ他ヨリソシハアルマジキコトヽモドク意

なぐにん　[illegible]ゆるーなうの[illegible]。

マヘ外ヘアタリ

ツケテモ　后氏シ

マギレセズミカヘツテ

ぬるんきるるふふし。[illegible]ぬ[illegible]やの[illegible]意

第ノ心アヌクメニツカハセ玉フ女房シ

御息所ツカヒシ

[illegible]ぐ。[illegible]

ハタハマタノ意ニテマタサムクモアリト云意ノ詞ナリソノ秋ニナリテ大カタハマダ暑クテズミキカヽナヨキ頃俄ニアマリスヾシクナリテコヽチヨナガラハヌスコシモサムクモアル意シ今モサルフアルモノナリ其故ニコノ詞ハ必八月頃ノミイヘリ心ヲツクベシ几帳ナドニタカクテトアルモオナジ意ニテ大カタハアスハテ居ナガラヌスコシカクレモシダルサマニテ其ヲヨイヘリ拾イニ万葉ノ肌寒ヲ引テイフハガコトナリカノ肌寒ヘトハコトナルヲヤ

ゆぎゆしいの布帛　花報負トカキテ云ヒ報ハ矢ヲ入ルヒナヨイフ左右衛門ハ弓箭ヲ帯スル司ナルニヨリテゆぎゆしとイヘリ　何命婦ハ今ノ世ニ内侍ノ外織物ヲ着セヌ中鶴ヲ昔ハ命婦トヒセリ　殿上人以下ノムスメヽリ　細ゆぎゆしの布帛ハ衛門ノ命婦ナリ拾貴ノ詞ニモアリ命婦ハ物ヒテ禁中ニアルヲ内命婦トイフ私ノ妻ヲモ命婦トイフソレヲ外命婦トヒナリ当時モ禁中ニ侍フ女房中ニ内侍ヨリ次ニ御ヒ下トテサブラフノ中ニ命婦女蔵人トテアルナリ

五位ヒヒノ夫ヲ[illegible]

侍臣

五位ヒヒ

○周礼春官肆師ニ内外命男女註外命男六卿以出也内命男朝廷卿大夫士也其妻為外命婦内命女之三夫人以下命有爵命之義也

いとーたてるふて　玉フテノフモジ一本ニキヲ

十一用ベシ九ヲ玉ヒテトイヘリキヲ給フテト云類ハ音便ノ

女房氏ノ

をとめとーめ。[illegible]

[illegible]ぬとーいーつ。あるとさる

オクタリモシ　更衣ノ里ヘツカハシ玉フシ

機旋ナドハシヌハタヲヽハタドヲモ思フベシ

将ハタマタトヽヨリタカヒフトクベシ

[illegible]月九月頃シ

メイラスベシイガ心ヨイトオモヘバイガ心

枕草子ニモ出シイヨリハツマレクテ衛来丁ニハタカクレケルヲ云シ

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

中ニモ殊ニ正シカラズ成レル後世ノ云ザマナルアソビニ耳ナレル人ノ写ス時ニふもじハツヘタルモノトミエタリ
皆玉ヒテトヨムベキナリ
按ニ(ヲウ)トカキタルヲ(ホ)トアヤマレルナルベシ

みかぎしなれて　允テ人ノ家モ南面ヲ正トスル立ニ南オモテノ舎屋ヲ正面トスルカラ心ヒモ南オモテノ屋ニハアラズ此方角ハ何ヒニマレ正面ノ所ヲ南オモテトイヒナラヘルナリ内々ノ方ヲ北オモテトイフルモ同じ物語ノ中ニ多ナルナリ心エオクベシ　コレニツキテ思フニ北ノ方トイフ名モコノ意ナルベシ

て松ばさるゝ　ウ
○サダカニミエルヤウナレドモ
命婦　更衣ノ母ト
やうこそふ　ウ
ユキツキテ(絶ヘ)ユクベキヲ(ヒ)ユキツキ
やうでぼさて。
命婦ノ車ヨリ
動使ナレ
ばいこさいるより
奥入ニ同ジ　ヤウ　ヤウ　ヤウ

上ニユメノタリトモヘルヨリ出タリ

カヒ

ナゲキニシヅミ玉フニテハアルベケレドモ、ウキヲコヲヘテオモテムキハトモフ

母君ニ未内見トシ

源氏ノ

ハウキリトヤウスノワカフヨシ

キノドク

帝ノ

ソノ中デモ

自ニアタル

意アリ

ナニタ

ナニ

オボサレバトニモカノミトクツレマシテモ

モノ

ソノ中デモ

オマヘ

デアラウカ

コノ歌アタニ面白シ

ナニ

ナニ

ナニ

桧イミ類哥ヲモキノ宮城野ヲ宮中ニカクルマデハアルマジキカト云ベケレド猶宮中ノ意アルベシ東屋巻ニヤギくふ萩ガモトニシラマセバト云哥ニ宮城野トハ宮ノコトニイヘルタグヒナリ

古図サクモトアフノ小萩ッユヲ重ミ風ヲマツコト君ヲコソマテ　時分ガラ凡ヒタチヨサムニナツテ宮中ヲサヘサミダメツユノムスブヒアリナムニマヒテワカ宮ノマヒフヌアレタルヤドハイガアムトオモヒヤリタマヘ

法門ノ法哥ナリ

大ナヅカネタリ

ナミダ

荘子曰壽則多辱

目モミエ侍ラスニ当レリ

ソノ根落涙ノ侍ヲフクベシ

更衣母ノ詞ニ

オモヒアハサレ

六月ノツユ

ジンビマスビバ

今更

思侍ル

ナヌサラ

前ニ伝ヘアリシ事ニキコエタリ

右ノワケ数内タミモ参内ヲエ思ダツマジキトシ

源氏ニ

ドウオモヒシルニカモノサビシキ住居ニナレセ玉ハヌコトナレバ

ヨミヨロシウナイト

源イマダ三歳ナレバ

ヤウスナバ

ケニ有むト

ソヒエヲワ宮ノ侍ラヌカノコハタオ〳〵モ存ジヨリテアルヨシモ

ツンビマスルマウス

娘更衣ニ今ヒタフヒアセル

思ヒ侍ル

一トキリナラズフレマハセナカマウナ処ニオクハイマ〳〵シキ

ツイマハ〳〵シキニアヤカリアハソウクアト

モツクイナイ

思奉ナトイフク

コノケリ久シカリテ定ダルナリ

コノ説非ナリ

源氏ハ此後ヲカクルベシ

コヨリ命婦カ詞ニ地ヨリイフニアラズ

コノ説誤リ

命詞　源氏ヨリ

市使甲ノ外ニ

アノ市返ヲ帝ノマヘオハ井ムトシ

デアラウニ

更衣母詞ニ子ヲ思フ心ノ深キ人ノ死ノ心ヤ〳〵ヨリ

カヤリ用意ノ事ル

ゴノヤニ当シ

ハルカスタ

ハルケル

ヤウニモ

ノ市使ナレバソノ母ミハセテ

市勅使次ナラデ和モキタマヘトナリ

ヤウ〳〵ゑ〳〵ものくる　ハ更衣ノ母ノ思ヘルサマニテ上ノ命ナガ氏ノ云ヨリハ奉待ルトヲマデソノオモヘルサマニシサテコハ自ノ上ヲ云語ヒバ思玉ルサマトアルベキニ思玉ヘルトアルハ寓ヒ誤リ九テ思玉ヘルトハ他ノ上ヲ尊デイフコトニテ自ノ上ヲイフニハ思玉フルトヲコトナルヲ後ノ世ノ人カル詞ノケヂメヲワキマヘズナホザリニタベオボヒコノゴトオモヘルカラアヤマルナリコノ誤トコロ〳〵ニミエタリ

●云他ノ上ヲ云コニ思玉ヘルト云コアルベクモアラズ　ゴトナルベシ

私用シ

面伏ノ文ニテ面起ト同意

面目ノアルシ

文ヲモ言傳ヲモ云ヲリ

所文ノ使ニ

上ニ命長キオイタルヒトモ云タバ

コトハ、クルシモ

心ニカハスシ

其時シネハヨイニ

更衣ノ古文ヲ母ノ詞ニシ

更衣文ヲ

オモフ故アリラ宮仕ヲ

心ザシトヤリ

親ノ存ヨリノアツタ人ヲ

本意

大納言ノ心ヲ

近ヲ去ノキハマデシ

遺言ヲシ

屈シテ無コヤスト

前モ更衣ノ文ニヤリ

キツトシタ

カイマミノ類シ

四ム詞

ダイナツテアラウ

ツマアイハ

上ノ詞ニ答ルヲ

ノマヘニ答ヲ下ヲ取リ侍ヌヲ

テミシバカヘ

ツヒナキトイヘル定アヂアリ

ドチラモツカズシテクルシカルベキ

ナマビヒ

マトノガタキ

カハツテナンギ

故大納言遺言

思ヘバ

横死也

アマリニ寵甚シキ故ニ人ノ妬ナド

ツモリテウセヌレバ横死ヤウニ思ヘリ

正シキ病ニハ上ヲデモナク

揚貴妃ノ思ヒトウヾハテノハ

寵愛ハ必シモカヘリテハワヲヲ

近コロクナナコトナブフルウアリ

カミスバカヤウニハんイニト

万サシ

トナクテハイカヾ

トヰモコトワノナキ

ワケノナキ

世ゐさくらと　帝ノ心ヅカヒ殊勝也
後涼殿ノ更衣ノ曹子ヲウツサセ給ヒシコトナド
曲タルフナベし
コヒバカリノフハ何ノクルしカラム御門ヲ辞し奉
ルベキ道ニカナハデセマリスギタルし

ふかみのゆきふゆとまのうちより　人のゆくふなぢいとゆゆしくもさりとてのぬ　七侍ル　泪ニ　ミテロヒニスルカモ
夜フケ侍ヌベレトモ云ニ当ル　ゆくもふかけぬ。命婦ノ詞　さりなまく　わびぬいんあるら。
フケテハナラヌトイフメ　サヤウニ仰ラレ
あまぐもふかくもおぼろくぶりはぼさ　ぬし。
一ツニ　ハシ故デアシタイト思フニツケテモ　思フビンニ　ナギリノ
なぐかるはぐきなりと。合いたるりぶる
更衣トノ果短カルベキ故ニ人目ネトロクヒト思ロレコトナリ　ハシ故デアシタイト思フニツケテモ　思マハセバ・ナギリノカハし
人の帰ふもあるも　有呪　十九四可見合　ゆふいさらも人のらるき
デアツタイ
無理非道ナ　ぎくるふをあるとあるふ。だるの人
オボセド　更衣故ニ　の方
ふまて。ねまるいちるはぐきの人の恨をあり
サモアル
ねまるいこのもちをてら流て。ふをとえん
カウハ角シ更衣ノサキダチウセタルヲ云し　コヤウニ
コヤウニ
むるなるふ。ふぐ知るとろうかくなり
人メワロキ心し　頑ノ字　ヤワラカキ
ラウアイシタ時ヨリ　ミレンし　グチニテル

なりもつる。きぬのゆゆしうあるもぶち
万　イカニモ恐リ申ニチンジシリタイト　オクユカシウ　オボセメス　スベラ(カミ)
ぬてつ。
カヘスベ
ふかりて。つまやせば　命婦ノ侍し　仰ラレル
笑云　交前生後ノ名ノ　ヒロ(ヒ)ノ
なくく。ぬいふうあ
イヌギマ井ル(カルし)　夜モフケタト云ヨリスカノ云アウケタリ
めまる。ぬ。こるひすぐるとうるるせぬ。
イヌギマ井ル(カルし)
いそぎやすあるる。風をへるふのえるさるうすれ
上ニタ月夜トイフルソウケタリ　ソノ夜ノ侍し　命婦ノ出カクルニアタリ
夜フケタル空ノケしキノアハし　ソウ過テリカツヘタノ入し
ふ飛ふぬ風のすぐるく空て芝村のむ
ケ彩と催ラし
こるり
ナクネリ
ぬくき。草のえるなふ
ウ平モタクナリスヨモギフノツユウケイリト云ヲウケタリ　逢ガモトオナヒ用ハ
命婦ノ詞
もちのあるろのだりをたくしてもなぐ
ゴトク　ナウクシテモ〳〵モノ意

十六　同じ

ものぐさのふし　コノてもハツネニイフてもノ意
ニハアラズもモじハ俗言ニマアトイフニ当ル　一首ノ意ヲ
フクイフ詞ナリ　後京極殿ノ「里ハアレテ月ヤアラ
ヌトカコチてもタアサチフニ衣ウウラムナドノてもモ

[illegible] 首尾ナリ 前ニ車ヒキイル ハヨリトアリテコシニエモノヤヅトアリ悉ノ車トハイハデ余情ニテカケリ

いくゞ〜く云〜 花鳥舞殿ノ人〻ヲ男上カギラズ雲ノ上人ト云シトアレドモコハタヾ禁中ノ人ナルユヱニ云シ舞殿ノコトハカハラズ

河 後撰秋中母ノ服ニテ里ニ侍ケルニ前帝ノ御文玉ハリケル市返リ古文ニ近仁更衣 ヲミダレニヌレシ袖ニイトヾシク露オキソフル秋ノワビヒサトイヘルニ似タリ

市おくりとの 凡テオクリ物ト云ハ客ノカルヲ送ルトキニ贈ル物ヲ云テ送リモノトスルタヾナヾ贈ル物ニハアラズ

市ぐゝあげのてゝとめくあ 昔ハ女御更衣以下ツネ髪ヲアルコト本義シ依テカミアゲノ調度ドモヲ廣蓋ニ入ルヤリ鈦ヲミ釵ヲカザシ櫛ナド類ナンジ内ノ女房ハシノトキハカミアゲトテカンザシナドシテカミヲイタヾキヘアルナリ

かるゝゝとハ 更衣ノタナシモハ匂鍋内ワタリニトエザカリタルモ又一ワノモノオモヒトルシ内ワタリダハ歴モエカヒ更衣ノコトノカナニサモ思ヒマギレムトニヤ

さゝりぐゝく 格イニイヘルガ如シサテツヒゞト云モサビシキフルヲ同ジサビシキモツヒゞトサウゞゝシトハ意異アリツヒゞトハスベテマザノナクテヒニテサビシキヲイヘリコノ差別コヽロエオクベシ

上ノタキナニガタキトイヘルモコレ

東衣母 ソノウヘニ

ツユノオクニヨセヒカウ心シ 命婦シ動使ナバ車ニヨリ人心上ノ上ニ人ヒキ入ルト云モ同ジ

車ニ トヨシテ。イヤヒ子ルトイヘルニアラズ上ニモニモ車トイフ一イ子ルヒ文ノヲヨミタマヘルナリ

車ヲリヤハニ哥アイル習シコイヤヲアイダニ云カシ ナルベシ

ステヒ車ヲセテノリナドスル間ニ人レテカシヒヲ云出シナリ

自ノ心ノヤル方ナサヨハツテウフメイト云ヤウノコト

カヤウノ古文モヤト用意有シ

上下タ異シタルシ

調度 コレハツミタルベナレバカク云ルナルベシ

更衣ノカタミトテトヽ

更衣ノ住家東宮ノ唐衣張袴ナド一領ナルベシ

おさ方

を方

ニイフマデモナル

カヤウノ処ハモノゴト蕭々タリ

林ノ中ニスミナレシ意シ

地 此宮中モワカ宮ニツキタル人〻ヲ云ヘリ

源氏ノ母君モ若宮ヲ具シマヰラセテ母君ニトク参内シ玉ヘトソノカスリ

前ニシビテ公参ノ玉ハヤヌワカミヤノイトオボヤナクツユケキ中ニスケシ玉フモコログルシトオボサルヽヨトノ公参ノ玉ヘナドアリシフコニテコトワルナリ

母君ノ心

ヒニ母君ノ公参ノ玉ハヾリシハ

若宮ニ母ノソヒテム参内モ人ギ〻ワロヒラム又若宮バカリ公参内アラバコヽロモトナカラムト母君ノ思タマフヲ双子ニイヘリ

河 [illegible] 和名

清々神代紀

サハヤカニ思ハレヌシ

五リテオマヘニ出タレバ

主上ノ命ブノカリヲマヘテイマタ出ル程ナカルシ

待トハナシニ命ブノカリヲマタセ玉フシコモ人目ヲオボシサマシ

人目ヲオボシケルサマアハレフカシ

コノ詞ニテコノ巻ノ一名トセリ

何ニテオキテオイデアハバスト思ヘバ

鈴虫 虫ノ音キ玉フヤウニテ

コノ詞ハ後目漏トスルコトニテウレシロヌキノ処ヨリ俗言ニ云ハカヒナルトト云意シ

すりぐゝくゝと 凡テ文ニナリ〻リトイヘルハ上ノコノ由ヲ解釋シタル如キ語ノトヂメノ辞ナリコハ上ニ若人〻ニ云ミト云ヨリコレマデ帝ハ若宮ノ公参玉ハンコトヲ早クトヨミギオボシメスニ更衣ノ母ノスミヤカニモ奉玉ハヌハカヤウノ故ニトソノ故ヲ解釋シタルカ如シコノ次ニ河物語セサセ玉フヤリケリトイヘルモ亦ノマダオボトゴモラザルヨシヲ解釋シタル文ノトヂメシ皆コノ類ナリ

河 壺前栽 清涼殿東庭ナリ

西走朝餉ナリ 堂盤所ノマヘ

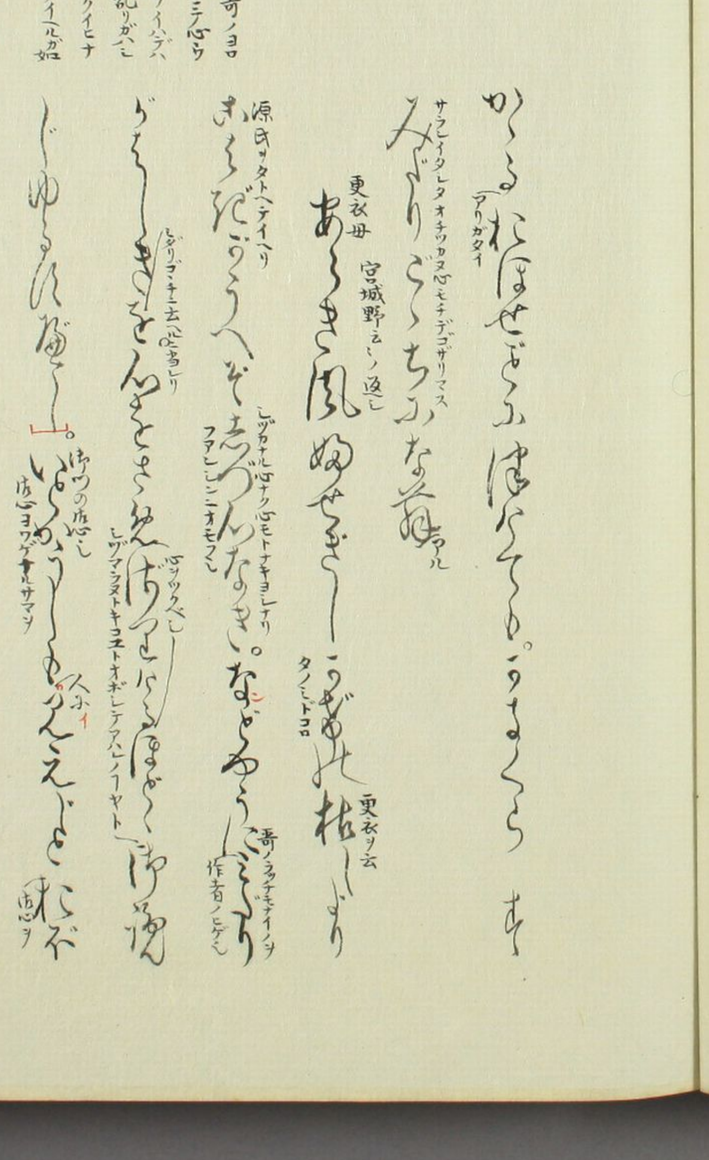
被 前栽ナリ 延喜元年卅ツヲ立木モ

尤右三門栽

単四本 公ハシルヘヨシ 河海ニアリ

長恨哥の依緒　更衣ノ別ヲ玄宗ノ貴妃ガナ
ゲキオボシメセルヲ聞テ即覧スルナンベシ前ノ揚
貴妃ノタメニモヒキイデツベウトアル首尾ナリ
亭子院　亭子院ハ七条以南油小路以東ノ町
延喜帝ノ御父宇多院ノ住ノコトナリ
伊勢家集云長恨哥ノ依屏風　亭子院ニ
セ玉ヲ其処ヲヨマセ玉ケル依テニテトテ
紅葉ノ色ニエウカデチルモノ物ヨモ秋ノミダナリケリ
又玉スダレヲ見テネニモノ夢ニモ見ト思ガキヤ
花鳥ニ長恨哥ノタモミチ童ノ色ニウロヘズノ首ハ
帝ノ依テニテカヘセ玉ヘルト伊勢集ニノセ侍レバ
亭子院ノ御年表ニテアルキニヤ今一首ノ玉スダレニ
ハ伊勢ガヨメルナリ母君ノ哥ハイマダ見イダシ侍ラ
ズ可尋之　長恨哥ノタハ家集ニ十首ホドア
リ母君之ヲ
長恨哥ニ云〻コノ繪ヲ亭子院御自看玉ヘル
ヤウニ聞ユ　ヒサアズヌ師ニ仰セテカヽセタマヘル
シサテ上ニ女房四五人侍ラハセ玉ヒテ依物語等
セ玉フトイヘルハ則コノ長恨哥ノ詞ノコヲ依物語
セサセ玉フナリ　タヾソノ筋ヲ枕言ニトイヘル即上
ノ依物語セサセ玉フヨシヲトルナリコノ所カヤウニ
ミザレバ長恨哥ノ一コミハヨミナシ

みぶりもなしきこゝろだりがハしキトハ哥ノヨロ
シカヾルナリナドヤウニト哥ヨリツヾキタルニテ心ウ
ベシモシ昏ザマノ一ナバ上ニノ昏ザマノ一ツイハデハ
ナドヤウニトハイフベクモアラズサテコノ哥実ニ乱リガハシ
キニハアラズ例ノ紫式部ガヒゲノ心ハシテカクイヒナ
セルモノシツノ一クルシクハ上ノ条ニ例ヲヒキテイヒルガ如
シ
●心ヲヤメザリケルハカレモ今心ヲヤメザルヨシヲ聞テ
玉フヨシノ詞ナリ心ヲヤメズシ一トホリナラバ心ヲヤメザ
ルトアルベキシ



時の君も初めつかた　暫時ものこしずりこゞえ　フカナカ
りしこ月頃　ハテモアルバアラルヨトノ心ナリ　古身ヲ
ウレトオモフニキエヌモノナレバカクテモヘヌル世ニコソアリ
ケレトイフ寄ノ心ナリ

盡日君王看不足　ヲカレサ是ヲ
ねぶりをすてゝ　ミヲハネベアルトニアリシヲ
ねぶりをすてゝ　○上ノ句　あるは　存ノ外ニ　アルヨリ
ねぶりをすてゝ　命アルハノオナシコ　命アルハノオナシコ
紫宮の遺言　あやまつまじ　者意
ふりくるあめ　停滯
ありしわすれ　ソモイマス
ふるこゑ　ナイフデアアト
なぶる　地
母君ノ命ヲサノイツクウナドイルヒキヌヲ
なぶる。　命ヲ奏スルノ
命ヲ　ヨダネナベナウトハオモハズ
命婦ヲ
東宮ノ命ヲ　東宮ニ成位ヲモユリ奏スベ
興皇太后ナドニスルヲ　ナルヒ
東宮ニ成人シ玉ビ
可然　ヲ東宮ニモトホシメス心ナルベシ
東宮ノ女御ノオクリモノ
命婦ノ
東宮ノ女御ノ　カナシクウチヲモシヒボウスキヲナ
命婦ノ　オメニカケ

なるまゝ人のすゝるを　見モ長恨寄ノ
コロナリ　臨邛ノ道士幻術ヲモテ蓬莱山ニタリ楊貴
妃ニアヒテ玄宗心ザシヲ傳ヘトキ楊貴妃ノカタミノ
物ヲ使者ニサツケシトキ金釵　細合ハサヲコアタツモ
ノヲオクヒキヲリテ　玉ヒヨヒ長恨寄ニモ侍リ
○アケク長恨寄ノヲ枕言ニセサセ玉ヲドナルカラ
マトコノ覚シメシヨルヨルヨシアルコトナリ
おもゝしのうんでゝ　命婦ガミセ奉ル所クシアゲノ
調度モカノ臨邛ノ道士ガ玄宗ニミセシゴトク更衣ヨ
リノカタミナラバセメテ心モナグサマムヲトナリ
大液の芙蓉未央の柳　長恨寄ニ云　大液芙
蓉未央柳芙蓉如面柳如眉コレ貴妃ノカホモ蓮
ヲタトヘマヒ柳ヲタトヘタリ　大液ハ池ノ名未央宮
殿名ナリ　芙蓉未央ノ意
ふるひしこゝろ　コノ御覚　繪ノ楊貴妃ノ芙
蓉柳ニモ実ニヨクタル形ヒアルヲ仕奉ノ唐ノ人
ハ見唐ニテハ美麗ナルヨウアリケメ　然レドモ吾朝風儀
ナラネバサシテナツカシトモミエズト含タル詞ナリ更衣ノカ
タチハ楊貴妃ノアリサマニモマサリタリトイムトナリ
かりあめしこゝろ　凡テウルハシトヲ詞ハ古書ニテハ
美麗ノ意ニ成物語ナドニイヘハ美麗ノ意ニアラヂ
俗言ニキツトヒテタイトイフ意　乱ズ正シキ意ニイヘリマハ
十九楊貴妃ノ唐ニキタルヨリハアマリキツトヒテカタクテタヾヤカ

人のきゝみ　奥人
なりまし　ヤウニ御息所ノヲヒフノオクリモノナレバ　セメテハナグサマシ
御門
ものゝ　イヅナツカシノ美ク
ものゝ　笑仕ノ
ものゝ　所
ものゝ　アウテホヒイコヨナア
ものゝ　ソヲヲザトスルヲ去
ものゝ　ヒヤウソヨリ
ものゝ　ヤウニ
ものゝ　ヒヤウ
ものゝ　スルタル繪師シ
ものゝ　ヒドイ上チナ
ものゝ　楊
ものゝ　アルニヨツテ
ものゝ　漢音いやしくナルヲ上ノびこいヒヤウ
ものゝ　ヒキアルハヲ書ナシ
ものゝ　長恨寄ニイハル如ク
ものゝ　ガ臭ヤ胥ニ
ものゝ　イカヲマ
ものゝ　ニカヨヒタルシ
ものゝ　ニヒアリタリトモ
ものゝ　ニヒアリタリトモ
ものゝ　ヒ
ものゝ　ヒ
ものゝ　ヒ

ニハアラザリケレトイヘルナリ

花鳥の心なりとも云ヘ　カ楊貴妃ノカタチハ美容柳ニモタトヘシノ更衣ノカタチニカタトフベキ物モナクスグレタリシトナリ　ほと集ニ后ニハリテ五百ノウチキミモオヒズハネモナラズテ何ヒカモナミダヘダテノ君ヲキクラム

長恨歌云　長恨歌云　長恨歌云　

狩あるべきなりと春霄苦短日高起猶是君王不早朝長恨三尭処処聞ヨリテシコハ更衣ノ作歌ニオコタラセ玉フリ云ヽ更衣在世ニハユウ〳〵ト御寝ナリシモノト思召ニツケテモ子トクオキ出サセ玉フコトヲ物ウクオボシメストナリ

あさぐろきぶ　朝餉二間也　後宮殿ノ事也

於此供之、朝餉ノ間トテ御膳ヨトヽフル処アリ或抄云陪膳ノ女房御サバトリハシヲタテヽ赤ヲ折カケ出スバカリシ何モ儀式バカリニ成テハ供御トテ御乳母ヲトヽ奉ル分ニテウルハシウモ度者ノ処ニテマヰルナリ

大床子ノ御ハカリ　禁中ニ大床子処トテアリ机ヲ二ツタテヽ〻クウヘニ御膳ヲスウルナリ陪膳ヲオモノトヨムナリツネノ陪膳ナリ大床子ヲオキテソノ上ニ陪膳ヲ奉ルナリ日御膳トヨフス朝カレハ女房ノ陪膳大床子ハ殿上人ノ陪膳ナリイヒヲモ御覧ニイレスリ

あせらるといふ　或抄云陪臣ノ女房ハサバトリヲヽトイトリコノ説ハ皆イト後世ノ類ニテコノ類ニカハズコノヤウハ大床子ノ御モハ外ザマ朝餉ハ内ミナリ大床子ノオモノナドハイトハルカニ思ヒシタヽバトイハルヽニテハ大床子ヲ常ノ御膳ナリトイハルモマギラハシ

△何　朝餉間清涼殿ノ二間ナリ

○後涼殿ノ朝餉トヲ云間ニテ供スル大御食ヲ云フコヽニ昔ハ朝タ二度供セトイヘリ大床子ノオモハ同ジ後涼殿ノ大殿ニ大床子ヲ二脚立テ供スルナリコレバ畫ノオモノトモ云フ昔ハ又二度供セシヲ後ニハ両様ニテ三度トナリフノ後ニハ二度ニ略セシト

禁秘抄ノ外ノ抄共ニモサマ〳〵説アリサテ右ノ抄トテモ朝餉ニハ近代ツネヒ玉ハテ女房サバカリヲトリヲヽ今フノ相畫ノ帝ハ物忌ノ時タニケシキバカリモヽ玉フト云ハヲ記者ノ時マデハナホ昔ノ儘ナリシヤ且大床子ノオモノヲイトハルカニオボシメストハ大御食ハ昔ハ正シクキコシメシツルト禁秘抄ニミユゲニ朝餉ハケシキバカリモヽ玉フトヲ云依ルニ大床子ハ必メスヿ故ニコノゴロキコシメシカヌルヨリナレバ中ニツキヤシ玉ハントウトマシクオボシ遠ザケラレ玉フト云ヘベシソノ上朝餉ハ女房ハビニテ御心サスク大床子ハ男ノ陪膳ニテキトルナレバ程ハウトマシクオモホスニモアルベシ　何藏人頭乙下四位侍従後送四位五位六位隨候有陪膳者

帝御寝ナル間ヽ清涼殿ニアリ

あぢふいとせ　ヒ　タ　ヒ　ヒ　ヒ

春

ホトヽあやうく　源氏君ヲ坊ニ立玉フコトヲアヤウクオボシメスナリ

うきよりとて　帝ノ源氏ノ君ヲサバリオボシメセドモ限リアリテ坊ニエタテ玉ハザリケルヨト世人申スナリ

御祖母なくちむくまる　前ニ帝ノ光ゲキ序モ有ナム命ナガクコソオモヒ念ゼメナドノ玉ヒシ祖母ノ間傳ヘテセヒサヤウニ源氏立坊ノ武モヤトタノミ玉ヒシカドモ一ノ宮坊ニサダマリ玉ヘバナゲサムカタナクトナリ

ウツクしゃ心より　カヾやヒノ一思ズし　源氏ノ女ノ明香し　源四歳　朱雀院ニエテ源氏ヲ坊ニセマホしウオボセドし　天子ヲサダノ玉フニモ　天子玉ヒワ皇ニナバ宮ニモ

兼リスマビキートし　カホツキニモ　後ハ宮ヲ冷泉院ノ東宮ヲトヲカヘトセし一ノ思ヒ　カツテ源氏ノタノ

光君ハ籠愛ニテマしマセドし　トイフコトハ

弘徽殿ノ心安堵注フし

更衣ノ母君源氏ノ祖母ナリ　源氏ノ東宮ニモタチタマハネバ

更衣ノ魂ノオハスルモ　黄泉ナリ

六歳

物ミはじめ　御讀書始也　源氏諸藝ニサトクマシマストナリ　河皇子七歳始ノ例　村上天皇親王時義平二年廿二日一條院寛和二年十二月八日　花　御書始　三御注孝經　玄宗ほ也　貞觀政要ヲヨミハジメ玉フ博士讀ニテ云御注孝經序五字ナ　尚復五化許　次尚復讀五字如先　是ヲヨマセ申ナリ　白主太子親王ノ書始イサヽカカハリモアルナリ

○親王皇子ノ書始ノ式ハイマダミズ　江次第ナドニミエル　紹帝ノ御書始ハカネテ御書ト博士ト尚復ト

七歳　ヲ定テソノ日ニ畫ノ御座ニ御書案ヲ立テ是ニツキマス時ニ博士御注孝經序アトヨミ申セバ即ソノ如クヨマセ玉フ御声ヲハバ尚復コヒマデト申テ御注孝經トナヘテ退クナリ　次ニ父食アリ　書孝經貞觀政要ナド時ノ定メヨリテナリサテ皇太子ハ是ニナラフナリ　凡テ親王ニハ事多シドモルサス書ハ專孝經ニテ博士ノサマモ相似タルベし只尚復ハナナラ

立坊ヨリ一年間ヲオキテ更衣逝去ノ四年し　涙ノ仮歌し

祖母ノコヽロし　駒　睦

何ノカ見ツシ尼オモヒヒシタヲズトアリ

祖母君ノ　コヒマデハ内ト里トニスグし玉ヘルヨリ　源氏ノオキアトニミオキタマフし　内裏

祖母君モオハしマサネバ

七歳し　コヒマデしヲヌトモニオナジ　御聰明ニ　ユヘしウオボしタリトアルニ同じ

大臣家督ノ書始ノ儀ハ江次第ニミエ是ヲアヒトリステズしテ大方ヲオモヒヤルベし

母君なくてだふ　母更衣ノ存世ナラネバ人ノ妬ミアルマジキトシ更衣イキテノ世ニハサモナクトモナキアトニダニ源氏ノ君ノイタハリ玉ヘトナリ

ゐるべく　或抄云〜師説女御更衣タチモ光君ニハカシズシテマヒエタマヘリトナリ前ニ弘徽殿ノ女御更衣タチハ供ニハトアルモトヨリ詞ニテ今ノ女御更衣タチハ供ニアオセシトシルベシ

ものぐるし　未朝ノ心ハ憑神天皇ノ廿八年ニ高麗王遣使朝貢ス　延喜ノ頃矣ニハ皆渤海国ノ使ニテ高麗ニハアラズサレド渤海モコマノ末ナル皇国ニテハモトイヒナシタルマニコマ人トイフリトシ渤海ノ使ノヲモ文徳実録ニ高麗国遣使ト記サレタリソノ時ニカ大使摘ノ清友ノ弱冠ニアルヲミテオドロキテ胥法非常ナ孫大貴カラムト相セシアリ（タ）ミテ嵯峨ノ皇太后ヲ生奉シリ

ものどもの　奥寛平遺誡ニ外番人必可召見者在簾中見之不可直對耳ト云ヒ又ハ必ノ字ノ心ハメサレデハカナフマジキトキノフリ是ニテヤチマカセテハメルマジキヨシハキコエ待ル寛平遺誡ニ召シトアルヲナラムサレド外番使人朝参ノ朝ハ天ナラハセラレ玉フナリ是ハ使ニノモ別ニ召ルヨノ玉フカ又ハオノカラまし韓人ナドヲノ玉フナルベシ　サテヲノ相人使カタゞましニモアレ皇子ノ玉フナルベシ

三三　御相ノ差ニスコモ右ノ誡ニ准ジテハリ玉フイフナルベ

ものぐるしう　元人心ハヅカシク思フシ

うはべうるはしくぞ　スクヒテオモシロヲカシキ処アルアソビアイニニハ

うちとけぬ　心オカレテ

なるべきさま　ヲ論ノ義シ　サアルベキモノニテ

ものへのぞふし　自然ノ姿アリテ

ぬぐべけれ　ヲ論ノ義シ　サアルベキモノニテ

人の御ものなりけり　高麗人シ　モノト

すまひまるるなりぬ　スクヒタ上手ナ

をきてし　相人シ　人ノ相ヲミテ吉凶ヲイフモノシ

うるはしみのどの御いまは　禁中シ　源ノミセサセウトオホセド

うはべうるはしくぞ　元人心ハヅカシク思フシ

うちとけぬ　心オカレテ

なるべきさま　ヲ論ノ義シ　サアルベキモノニテ

ものへのぞふし　自然ノ姿アリテ

ぬぐべけれ　ヲ論ノ義シ　サアルベキモノニテ

人の御ものなりけり　高麗人シ　モノト

すまひまるるなりぬ　スクヒタ上手ナ

をきてし　相人シ　人ノ相ヲミテ吉凶ヲイフモノシ

うるはしみのどの御いまは　禁中シ　源ノミセサセウトオホセド

鴻臚館 日本ノ玄番寮ナリ 河職員令云玄番寮ハ番客饗見蕃国使送及在京夷狄監當館舍事謂鴻臚官也 啊高麗人来朝スルヲオクル
処ナリ七条朱雀ニアリトカヤ 細 今ノ四塚トイフ処ノ邊
ナリ漢書應劭註鴻者也胡傳云戸嘆直云ヽ 花
鴻胡ハ声ヲツタフルトイフコトナリ異国人来朝ノ時通
事トイフ司アリテ両国ノ志ヲ傳ル故ナリ 同又胡
ハ腹ノ前ヲ云フ鴻ノ鳴ク時声ヲ出ス処ヲ故ニ鴻胡
ハ声ヲ傳ルトモ云フ意ナリ 孟鴻臚館ハ玄番寮
ニアリ依数寮ノ頭ヲ鴻胡卿トモヲス 河玄蕃ハ
玄遠ニ蕃ヲ蕃ニ遠蕃ヨリ来朝客ニ接ス
ル処ナリ此館廻唐迄都ノ始東西大宮被置之而
弘仁以東大宮為東寺賜弘法大師以西大宮為
西寺賜修同僧都其後七条朱雀立鴻胡館
置三韓館 下略 花 玄蕃寮ハ法師マロウドノ
ツカサト讀リ玄ハ僧也蕃ハ客也僧尼トイフモノ
ハ昔ハ百濟國ヨリ来朝セシ故ニオナジク此寮
ツカサドルナリ

くものゐやとぶりて 三代実録ニ仁明嘉祥三年
二渤海ノ客光孝天皇ノ親王ニヲオハスルヲシテ大
位ニオルベキ人ト相ニタルコトアリ同ノ親ハ国ノ氏ノ親
トイフコトナリ書経乾坤云曰天子作民父母以為天
下王云ヽ註曰者民之辞也謂之父母者指其恩育
而言親之意謂之王者指其君長而言尊之意矣
詩ハ雅樂ハ君子民父母トモイヘリ
源氏ノ局ツボネ天皇ノ御父ニテ太上天皇ノ尊号ヲウエ玉
ヒバ初ヨリ帝王ノ相オハセしナリ然ルニマサしク帝位ニハ登玉ハズ帝王ナリ玉ヒテハ乱ウしフルコナドモヤアラム又帝王ノ相ニサしカケタル処アルハモしクハ又摂政関白ニシテハソノ相カナハズ
クテアヤしミカタキヤマ思メグラスニモしクハ帝王ナリ玉ヒテハ乱ウしフル相ハタガヒテ吉タル処ノ有ヲウタガヒフモしサル

タガヒヌしトゾナリ乱し愁ルコトイフルハ帝王ノ相ニテ嗣タル処ノ有ヲウタガヒフモしサル
ソノ相タガヒヌしヲ輔佐ノ人臣ニテオハしマサバ乱ウヒフル相ハタガヒテ吉タル処ノ有ヲウタガヒフモしサル
○異國人ニ出會ハ事ヲ漢文ニ又容儀ナドアル人ヲ用ル大弁ソコロ多クハ学アルヲセニテ故ノ人ヲワカヤサレトイフニヤ
博士弘オノ人ライフ コノ人ト筆談セシニヤ

はるかなるかぜにあらはれていのちのながきためしにもなるべきかな

與

けふありてあすはなきかとつくりかねてこそあるべけれ

詩賦

高麗人ノ詩ノ心ヲ

あるべきものとおもへばこそ

光源氏ヲ恭ウ奉テ云ヘリ

人のたのみをかけてこそ

別ヲ惜ミ

しるべもなくなるべきかなとかなしみあへり

ハコリオモフ

あはれなるくものをはてにあるものを

白

をのぶりなくなくをはてにあるものを

感紀

源氏ノ作リ玉フ詩シ

みるはあはれなるくものをはてにあるものを

コヲ送リモノ梅カエニ

源氏君ノ鴻臚館ヨリカリ玉フ時ノコヲ人送リモノナリ

ものゝとゝ

源氏ノカリ玉フニ

はるかなるくものをはてにあるものを

コマヽニタマハスヽ

おのづからとひつゝ

乱

おのづからとひつゝ。

ものしきまにふるし　帝ノ御心ニコノ御子ヲモシ親王ニナズバ人疑ヒ出キテ丸リテ御為ニヨシカジト考ヘルニヲヤマト相トハイフレシ「カクコム物ニ我モ思キ心ムクフソマサシカリケル薄雲ニサカレヤ人ノウラミモ物トハセガドスルニモヲドアルモ心ニ考ルヲ心ノ石トイフル類ヲリヲアコノ高マノ相人ノ私シ怒ルコトヤアラヒト申セルガ御目オボシメシ考ル処ト見ル故ニ相人ハカシコカリケリト仰セラレシ　細流ダガリ裏ハ相人ニ見セ玉ルヨシハアラズモシ実ニ相人ノコトシテハカシコキ心ニトイフル用ナシ思ヒヨリニケルトモ云ルモ叶ハズ帝ノ御心ニ考ヘ玉フヲヤマト相トシモイフルハ高マノ相人ノコヲ云ル処ナル故シサテ相トイフアラオボセテモイフルナリ

やまとだましひ　細ニ和国相人ヒトヲ申シ玉ヒ藤原仲麻呂ガ光孝天皇ヲ相ニ奉リ俄別当豪ヲガ高明オボシ相セトカ皆ヤマト相ナリイフル皆コニハ不叶

無品親王の外戚のよもぎふのいやしげきもの　親王ニヲハ外セヤニ可然人ナケレバタヨリナカルベキオドニト心ナリ　親王ハ一品ヨリ四品マデハ有品ナリ五品ニアタルヲハ五品トイハズ無品トイフナリ　童体ノキ親王宣下アルハ必無品ナリ光臣氏ノマダ元服モセ玉ハズコニヨリテ無品親王トハ玉ヒリ又親王ナレ玉ハ天位ニウケ玉ハタメリ然ルニヤマト相ヲオボシアルテコノ君ヲハ親王ニモナセ玉ハヌナリ一ノ御子ハ右大臣女御ノ所ハフミテヨセモクウダガニナキヤウウケノキミトイフルニ對シテ源氏ノ君ハ外戚ノヨセキトハイフ一ノ伝母方ニヨセモキ人ナケレバ親王ニモナレ玉ハヌカシコキ心オキナトナリヨセナキハ無縁ノ義ナリ　○親王ハ儲ノ君トモ云テ皇太子ニ事アラム時ノマウケナレバイトオモクオハシテ品ニ叙シ玉フニ后腹ハ三品ダハ四品ヨリ立玉ヒリ又如キ中ニ親王宣下アルハ多クハ無品ナリ今ケ光君マダ元服モセ玉ハズ故ニカリニ無品ナキモノニテ事ヲ思シメグラスクシサテ古ヘ白主威ノサカリナルトキハ

親王臣下ト格別ニテ威光オハシルヲコノ近キ御代ニトナリテ臣下ニ威ウツリヌレバ外戚ニシカルベキ大臣ナドノアリテウシロミ申サヌ親王ハ何ニヘモツヨヤウニテオハセリサレド父帝ノ御代ニクバオシカラン光君威ニオハセムヲワガ御齢モ久シカラジトオボシメスハイヨヘサル親王ニテタヨハサジ臣トナリテ政ヲトラセムサラバ帝ノ御ナキモ

なほ。ゆくさきのあるべきことをおもひてこそ。

さぶらへ。いとうちとけざることをなほいさめ

せまほしき。際ハダサテ殊ニ段ナドニ云フベシ　無準行政如無燭夜行ノ句ヨリ心カケテミルベシ　政道ノ

あるべきことなりけれ。世ニ美ナキ光君ナレバ

惜アタラシキモノト

天子ノ位ヲダニ玉ハムト人ノオモフベキトシ

乃ちこれみちの人するむ。ぐへさせるふ。ある相人ト

しるあるまきば。源氏ふなーまるぐ。御心ノ

しるあるまきば。源氏ふなーまるぐ。御心ノ

おとをとれるーなぐきもやを

ものしてーこれ。手自ら抱テ　タヅヒタカツテ　ソハラヒノタメ　ソノ所ヲ

三代の宮ばら　細河海　光孝宇多醍醐カトアリ然ドモサセテ三代ニテナクトモ只久シクトイ公タメカ　寿同

コノ説イカヾ久シクトイハン為バカリニ三代トハイカデカ云ム河海ニ従フベシ光帝モ光孝天皇ニ当タルナルベシ

●コノ説リカヾカクテハ先帝ノ姫宮ハ帝ノ兄弟又ハサバトナルナリ

まもとゐと　前ニイトヨウ桐更衣ニオボエテトアルヲ此門ノ心ニマコトニサヤウナルカト思ヒトマリ体無ク仰ラルヽトナリ更衣ヲオボシメス心ヲイヨヽアハレタリ

桐更衣

きりつぼ　ものの　ぬし　ちゝ　ぜんだいぶ　ぶんぶ　ぶんぶ　ぶん

ふぢつぼ　飛香舎　禁中五事ノ一ツナリ勝懸
蝦手木　但非上古此木歟　建暦御記、禁秘抄

（藤壺ノ母后ノ父ヲ）オホシマサヌミナフズ
（御門ノ）わろ女みさちと（日別シ）あなづ
（オモヤウニト心シ）つふ　あさひ　ひさえむと。いとねむごろふき
こえさせるふ。（藤ツボニツヨ（マツル人ヘ）ちぎりなく人ニたちしろしめ
（藤ツボノ兄シ）たぜ　との　無（ヤウ）　神（ガミ）のみそ（ビ）。ひく（ウ）ぶほく
（光ノ上ノ父ナリ後ニ式アマナリ）
てあさ　まさ　（イヤビ方）　いうちぶ　（入内セサセマサフセムトオボシヨル心シ）せきさ
ひて。ぶ（ン）ぬ　なぐさ　ぬ　（ちん方）ぶ　なりて。ぎぬ
（御入内アノハサル人ヨカラウトリヤウケシツ定ンテ）
らせ　ぬ　ぬ　り。（藤壺）ゆ　ぢ　ぼ　ぶ　ゆ　ぶ　ぼ　ち
（内侍ノスケノ美セゴトクナルヌド）
情慎公集延喜御時飛香舎ニテ藤ノ宴アリしまて

サレサルフ（ツシミテ）

（思シ）ぶ　ぶ　ぶ　

ナゾテノ女御更衣タチモ源氏ニカクレ玉ハヌニシゲク
渡御アルヤウカタハマシテハヂアヘ玉ハズトナリ　藤ツ
ボナルベシ

前ハツカシゲニオハスレバ悪ス

女御タチシ

良形美ナルコシ

女御タチノオトナビ玉ハ中ニ藤ツボハウウウオビヤマスナリ

藤ツボ

源氏ニ

なつかしい　河海ニ昵近ニムツブコシトミヨ詞物語文ニミエタルハ皆コノ意ナリ万葉ニモタクミエタリヤカノ歌リドモニモミタル意ハイタク異ナリ思マガヒガラズ万葉ニテノ心ハ玉ガツマカラア丹ノ巻ニイリ上昵近ノ字ハ河海ナルヲ湖月抄ニ亜トシテ出シタルハ水ヲ母ズシテ末ヲトシルナリコノ類多シ心得オクベシ

神楽哥ニテクラニナラマシモノヲヌガヒノミテトコテナツサハマシヲ日本又拾イ

源氏ハ

源氏ノ母トモ

ヲ源氏ハ藤ツボニヨソヘテオボシタストモ

ヲ語ハ貴ベキ人ヲ手ヲスリタルサマニテ礼ナキヲ礼ハナヲモ用シナベテノ三用ヒ

源ノ母イヤシケレバ

藤壺ト源氏ト宮ト似玉ヒトウツクシキドナレバカヨヒテモ玉ワモ似ワタハシキホトモナヒノヤウトモ

メヅキ

似合ヌミヘアイトストシ

親子トイフモ

源氏シ

コヨリ恋ノキヂヒヲオコスベシ

御ハル去ワルナドノ時ニハモニ恋ニ恋ニ恋ニハアラズ濁ニヒガコトシ

マヅ藤ツボ奉リモノ

外女御更衣タチトハ格別ニマサリタル藤ツボハ源ノ心ヨリ奉ラシ

あやしくよれよれ　湖月抄イミジヤヒガコトシ或抄ニ藤壺ノ相ヌノ更衣ニヨク似タレバ源氏ノ御母モヨノヘイブンキコヘシタマフトミルヨロシ

いとうつくしげなり　ウセニシ更衣ムツブツキマミナドハコノ源氏ノ君トヨク似テ有シトヲ玉フリ湖月抄ノ説カナハズ似タリシノ一ツ心更衣ノナニテハカナハズ

ひきいてまゐる　カヨヒテハ是モ似テトヲ意ニテ藤壺ノ市ノ宮ハ源氏ノ君ト似テ玉フコシナリ

ほ。ウツクシドケヲシトイフモタガヘリ　オノレモ初ハヒカ思ヒワルヲ後ニオモヘバソノ意ハ通ヒテトイフモマニハ穏ナラズ又ミエタマフモ必藤壺ヘカヘリタル詞ト聞エタルニ藤壺ノ源氏ノ君ニイヒ通ヒテトミエ玉フトハ多マフビキ詞ニアズモシ又ミエ玉フノ源君ノカケテレンモ玉フトイフ一イカヾナリ藤壺ノタマフ詞ニ源氏ノ君ノヲ玉フトノタマハヿ例ニタガヘバナリ

ヨスヒテ母申シ子トイハニ似ゲナキニアラズトナリ上ニアヤシウヨヘ聞エヅキトアルヲ受テ然聞ユルナリ　サテヨノ外上ヨリノ女ノ意ヲ通ヒテイハバウセニシニツラツキマミナドコノ源君トイトヨク似テアリシカバ又藤ツボノ源氏ト似テミエ玉フ所モアヤシウ母子トモヨヘイブンキコヘノスレバシカヨヘテ母申

二八　シ子トイハニ似ワハシカラザルニアラズトノ玉ルナリ

藤壺ヲ源ヒ

ヲ源氏ハ藤ツボニヨソヘテオボシタストモ

ヲ語ハ貴ベキ人ヲ手ヲスリタルサマニテ礼ナキヲ礼ハナヲモ用シナベテノ三用ヒ

源ノ母イヤシケレバ

メヅキ

ハキヒヤカナハ

ヨノ源氏ニ更衣ノ

似合ヌミヘアイトストシ

親子トイフモ

源氏シ

コヨリ恋ノキヂヒヲオコスベシ

御ハル去ワルナドノ時ニハモニ恋ニ恋ニ恋ニハアラズ濁ニヒガコトシ

マヅ藤ツボ奉リモノ

外女御更衣タチトハ格別ニマサリタル藤ツボハ源ノ心ヨリ奉ラシ

光る君　東宮ノ子院ノ第四ノ皇子　誕慶ノ親王ノ子
王光宮ト好色不双之美人也　又光孝天皇ノ御子
式部卿ノ宮忠親王ハ心メハ源氏ニテ光源氏ノ中将言
トイフ　又明天皇ノ御子四三条ノ右大臣ヲトイフ　又
日野ノ系図トイフモノニ左大臣高明公ヲ光源
氏ト書ク　是ラヲ下ニフクミテ書ルナリ
高明公謫ニアヒテ左遷シ給ヒシ事ノ外ニモ多ク似
タルコトアリ　ヒヲウシテ書ケン　但狩ノ去ヲウヌ人ナクテモ
アルベキカ
やゝやゝ心の内　一条院ノ御時上東門院彰子
御入内アリテ藤壺ニ入セ給ヒシ
世人ガヤウ藤壺ト申侍リ　薄雲女院同殿ニ
マシマセシ故ニカヤウニヤト申侍リ当代ノヲヒ
コリキ　タルコトハ此物語ニテ　おきし　栄花物語
六ノ巻ヤウ藤壺ト云ヒシ

十二歳

十二月十七日　今上親王元服　一条院十二歳　長保五年二月廿日庚辰左大臣男元服宇治関白十二歳　二世源氏元服次第西宮抄ヲ引テ花鳥ニ入シ

言ノモトハ於イノ説ノゴトクナレシ
例ノ歌ニ上ニ出サレタリ
カトヒデタリ
源氏
今物ガアルヤウニ物シ
万豆
世ニモ
玉敷殿　藤ノ宮ヲ
藤壺
源氏君童形ニ
ヲ玉ハ
藤ノネタミソテ源ヲセニ玉フ
源氏

所ノ内　北山坊ニ所々公食膳　東王御殿女房
別納殿上　職人所　雨亮　諸大夫　二百膳　穀倉院　也
食五十具　廂別給　各二十具　乙上　庶和例ニ去ル
くらぶ　内蔵寮　公近衛南堀川西ニ所ニ
おくさ　抄　北北　穀倉院　二条南朱雀西
在大炊ノ西　納織内諸国　銅銭無主位職田及太宰
稲等諸庄物　勅年中宴有公卿及四位別当　預
職人等　或去朱雀門前ニ　續紀十二ト穀布
ヲモ収ルトミエ
此所ニハ五畿内諸国ノ銭無主ノ位職田役官ノ稲
納ヲ納ル年中ノ膳食賜ヲタヾシクツルナリ
おくやけ　東宮ノ御元服ノ時ハ只オヤケ
ザマノ定リノ儘ニツカマツリシカトモ
アラムト先ヲ只公ザマノハ定ニルコノ儘ニタガヒ
守ルベキコトニ心ヲイレシコトハナクコヤカナルコハキ物ニ
バシ御注サレタガリ
切ルベキ　清涼殿ナリ　中殿トモイフ　常ニ
帝ノオハマス故ニカイフ　清涼殿ニテノ元服ハ親王
一世ノ源氏ナドニ天皇ノ太子ハ紫震殿ナリ
二九

立ツ居ツナリ　起シ
帝ハ此ニマナキ御用ニトツクリ立路ツルセテモオハシマサズ市世話
ヤカセタマフナリ
タツキテ
子ネ又市好ノ色ニナリ加ハサセ玉フ
セニ子ニ
紫震殿　古ハ大極殿紫震殿
うるぶ
オトラスト
ヒヤウヒ
オリニクトドノル
別勅アリテ
上南殿ニヨリ
国造ニマヒル、ヨリ濁ル
公ザマノオツリ元服儀式ニス
ユキトガスコモヤ
ツネノ通ニテハ
アラウモレヌト先ヲ
アヤブム
善ツクシ美ツクシタルコ
一ニ御念ヲイレサセ玉
中殿ニ
法
万

御座ヲ撤シテ大床ナニ脚タテ、御ヲリ源氏ノ衣服
ニ殿上ノ御椅ナヲウツサルヽヨリ今モハ朝拜ナノ時
ハ六位ノ藏人二人殿上ノ御椅子ヲカキラコシタクルヲリ
[illegible]ノ冠考ヲメサセラルル人ナリモトヾ
リヲ入ル故ナリコノオトヾ奏ノ上ノ文左大臣ナリヨノ儀式
延喜七年二月十六日当代源ノ衣服ノ次第ヲヨウ
タリケリ奥ニクハシク

問ものゝ[illegible]ふか 市遥ニ云盛明記ニ天慶三
年三月十五日申ノ時ニ後院殿ノ東ノ廂ニテ作前ニ
オイテノ衣服ヲクハフ吠時刻程ノコトモ[illegible]ヲツケテミルベシ

先例ナニハタヾ

みつ〳〵ゆめなる 市花去ワラハ將来ノ時纏角
トテミヅラヲユフモノナリ 師ノ衣服ノ前ハ童形ニテ髮ヲ
玉ルし 河髮部トアルヲコノ二字ノ出処不知拾遺
大花マヽらくはこのうまろ 花諸說アリトイ
ヘドモ下ノ詞ニイトヨワナル市グシヲノグホドトアレバ理髮
ノヽヲイトキコエタリシカバ大花マトイフコロカワ 師
戒人頼ノ大戒ガカネタルヽ人ヽ則理髮ノ人ヽ
代々理髮ノ大戒ヽ例シ 河說同
大花マヽし こしハ大戒ノ理髮ノ位ヲツヲラ
マルトイフルナリ髮ニ当ル詞アルベキニナキハキヨエガタ
シサルバコハヽグシアゲト有ケヲクラントハ寫ノ誤
ルカ理髮ヲシヽグシアゲトヽ云ヽキモノンモシ又花鳥ノ
說ノ如ク大戒ノ理髮ニテ戒人頼ヲカネタルヨシナラバクラス
ノ下ニ理髮ヲヽ云ル詞アリシカ落タルカ何ニマシテノ詞ナクテ何ヲヲ仕奉トモ同エバ
[illegible]記ニ下侍東宮ノ同旋ニ帝ノ中ノ数ニ鋪二枚ト茵二枚今按ニ世ノ源氏ノ衣服ニモ下侍ヲ以テ休息ト云西宮抄ニ親王下侍改衣トエタリ下侍ト殿上ノ次ヲ云シ

天子ノ御コシヲケ三ツモノ 和名抄ニアリ 天子ノ御座ナリ

冠者ハ冠ニテ人間ノナキヲ云ヲ太郎ハ冠者カノ冠者ト下可思 冠者ヨリ元服スル人ヲ云ヲ初ウ冠ヲキル云ヲリ 初冠ノ人ヲ云ヲ俗ニ云元服シ

ゴゼニトヨムハ前駆ノ一シ

聖徳太子ノ像ニアリ児ノ姿シ

今ハヨツフサリ ツクツエヲ母ヲシ

スヾテリ云

御母方ニ有カ

理髮トテ髮ヲヽギテ童形ヲカラ[illegible]

キサヽミエボウ

[illegible]ノ誤ニテ[illegible]ヲ見シ

横ヲトルヨシノ名ハアヲルカ理髮ヲシヽトヨベシ

髮

東衣シ

西衣ニ直ノコロナリ

色ニモ出シ玉ヘヌし

源氏

元服シ後ノ姿束童ノ時ニカハル

[illegible]ノ詞ナクテ何ヲヲ仕奉トモ同エバ

[illegible]ノ詞アリシカ落タルカ

[illegible]ノ休処シ 冠者ノ休処シ 同康保三年月

●ゆるさみ所ふまでゆるして 今花鳥ヲ考ルニ茵一枚ノ下ニ為親王拙宅ニ所イフ女マデヒロデハコトタラズ畳ケルハイヤヾ 赤色ノ闕服ノ袍ヲ着ス殿上童ニモ赤色ナリ元服ノ後ハ源氏君ハ無位ナレバ闕服ノ黄ル袍ナレシ元服今無衣ハ黄袍ナリ西宮抄ニモ黄衣トエタリ

●ゆるさせたまふ 親王已下ノ元服時
拜舞ハ清涼殿ノ東庭ニテ御前ニ向テ拜舞
ノ御元服ハ南殿ニテ堂上ニテ拜アリ云ヽ堂下ヲ
えさのあつまもぐ 前ニネヒカヽシ玉フトア
リ[illegible]モコヽニハエヒノヒア玉ハヌナリ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゝ〇ぶし　北山抄皇太子加元服條事書ニ云息所ニ矣ル事寛平九年七月三日丙子皇太子内親王当夜參入延喜十六年十月廿七日甲辰故左大臣女入
用輦應和三年二月廿日辛亥昌子内親王宴ニ入侍
謂之副臣事
さぶらひすがたでる　殿上ノ侍ト云ハ公ニ西宮抄親
王元服ヲ考ルニ加冠ノ儀式ニ皆殿上ノ侍ト云ハ
冠者舞踏ナドアリテ後ニ引入ト理髪トヲ御前ヘシ
テ宣陽殿ノ西庇ニテ御食ヲ催サセラルコノ時ハ主殿ト御前
ノ孫庇候シテ酒肴ヲ主ニ舞樂ナドアルナリコレヲ以テ
見ヒコニ侍ニ退テ大臣酒ナドマヒルトヽ云ノ度ノ書ヲ
〇召酒録ハナクテ下侍シテ酒マヒルコトキコエタリ書ヲ
ミテノ酒録ハ有無不定トアルカハノ度ハナヲヨレルベ
シサテ下侍ミテノ杯酒ハ又例アルコトト見エ　或説ニテノ
侍ニ天子モオハシマシテノ食アルベクヲルハ誤シノ次ニ引
入ヲ内侍御所ノ召ストイヒ又光君ヘ左大臣ケキベ玉
フナドモ御前ニテノサマニアラズ　〇万水　サムラヒトハ
殿上ヲイフコトヨリテ殿上人ヲバサムラヒト寄コモヨメリ
又侍臣トモイフ
さぶらひ　御説　殿上ニテ各盃酌アルベシ源氏
元服時主上侍所ノ床倚子ニ付玉フ所ニ遊盃酒ナ
ドアリト西宮抄ニエタリ　抄　サフラヒニマカデ玉フテオホ
ミキマヒルトアレバ殿上ニテ御遊盃酒ハアリトエタリ末
ニ參リ玉フベキヲアレバトイフハコノ時ハ主ニシテメサレテ録
ゆ盃ナド又玉ハリ玉ハルナルベシ
〇みくしげのゐ　一世ノ源氏ノ位キハ臣ノ三位ノ下ニ
ツ　ツ　ル度ノナニヲトヽ度ノ普ニカシテ親王ノ下臣ノ上ニツクリニ書シトルベシ或説ニ本ノ部王記延長七年当代ノ源氏二人元服ノ時盃酒御遊ノアイダ源氏四品親王次ニ参有
玉ヲヨリテ無位ノ人ナレバ親王ノ次ニ必キイハヒキ故ニ別勅アリシサマニテカク書ルカト覚タリ考ルニ惣ジテ皇統ヲバ昔ニカリテ臣ヨリ上ニカハ後世臣公威ヲ憤シ記者ノ心用ヨリ

源氏ナドサナクオハシマセバヤ
ハツカしクスル意　ツムノウワリニ
ヒこりヤウ
殿上人
西宮記云源氏元服時殿上ニテ盃酒ニ仰ヨリテ源氏四位親王ノヲギニ着座ス
左大臣
万水ニ左大臣ノ源氏ニ菱ノ上ニヲキノメシ
玉フヲイヒリトイフルヨシ
左大臣ドクヲ
左大臣モトヨリサマウニ
ヒルナルベシ
御酒ハ絞ス御酒ドトルベシ
殿上人
女官ノ内侍ニテスベキハ蔵人奉勅ノ宣旨ヲ受ケ
内侍宣旨ヲ受ケ
大臣ハ殿上ヨリ清涼殿ニ參玉フナリ
源氏ノトタク返ス
源氏元服ノ時盃酒御遊ノアイダ源氏四品親王次ニ参有
玉フヲイヒ
両説アリ

三一　むすびつるゝ　三句ノ意モ結ヒノトフクタル意アリテソコヲハ結ヒノトフクタル意ハ紫ノ色シアセズバ仰ゴトクモト土ニ長キ笑ヲコメ奉ラレト云普ヲリカノゴトク見ザ

わらびけしきびみきこと　紫ノ色ハ依御親王ノ座次ニ玉ヲヨセ玉ヲヨセ
ニタツヲ大臣ノヒキバミ玉トイフニハアラズ今ヒキイレノ大臣聞ニトリ玉ヒキナリサテ五高ノ賞ニ申サルコト
ハ蔵人奉勅宣下シ爰ニ入ル大臣モ殿上ノ盃酒ノ座ニオハシマスヲ御前ノ一献ニメシタテラルヨシ内侍宣旨ウケ給ルトイフヲ藏人カタノ宣旨ヲバ宣旨トイフ
ヲバ　ヲ　ヲ　ヲ

るもじキコエガタシ●按ニヨン説イモカクテハモトユヒヲムスベザルサキヲトキユビガウ
東庭ニアル道アリ川人ノ大臣ナドモコノ階ヨリ下リテ作庭ノ辰巳ノ方ニテ作前ニ向テ舞蹈シ侍ルベシ

くくり人所のくくりなどして　鷹鳥飼ハ蔵人所ノ所管ナリ　也近衛ノ陣人ナドヲ人モ立鷹狩ニ補セラレ音出羽陸奥ヨリ鷹ヲ貢セシモ蔵人所ヨリ奏スルナリ　蔵人所ハ禁中仙洞執柄大臣家ニアリ殿上次間ニ布障子ヲ立テ、蔵人処ト云地下ノ者ノ候スル処ナリ　ヒキイノ大臣ノコロクニハ馬鷹ナドハヤキシ限リアルヲコトヲクテトイルコノ美カラの

献物し　或ハ竜物也玉鑑トモイフ　籠ックル薄根ヲトキテ菓ヲイレテ木ノ枝或ハ松ニツケルナリ　大臣已下ニヨトリ後ニハ膳部ニ主ヒテ調セラルベシナリ　五菓ハ柑橘栗柿梨　花献物ノ物忘ナリ　元服ノ人ノ奉ル物シ　ツ中ニ籠ニ入タルヲ竜物トヨマタ折櫃物ニモ花モアリ　親王元服ノ時ハ献物ヲリ王々是ヲトリ元服中ヲ立ス一世ノ源氏ノ元服ナレドモ親王ノ時ノ例ヲモテ献物ナド右大弁ノ方ヲ玉ハリテ用意スルヤ

○孟　屯食ハマヒイヒト訓テ下賜下ルコモシナドイド今考ルニ屯食ハ紙式具ト諸記ニシルシタビ器ニモリノモノニスヱタルヲ一具ト云シ且台記春日祭條ニ屯食幾十具果敢幾百顆トアレバ屯食ヲツミイヒト訓ムトアル説ハ誤シ屯食ハ今ノ世ニ三重ノ重トイフモノノ遺制ナラム　ム花ニ西宮物ニ屯食ハ元服ノ人ノ本家ヨリ諸陣ノ役者ニワタチ玉フモノヨリ禄辛櫃ハ親王已下ノ元服ニコヲタテズ東宮ノ御元服ノ時ノミ用ヒ侍ルベシ

○大鏡云寛和二年七月三条院親王ノ御時ニテ御元服ヤリテ法興院殿ノ姫君ヲヒメムコドリノサマハ江次第類聚雜要抄雅亮朝臣東抄ナドミユ

源氏のさうし　婚礼ノ左法　ムコイリセサセタマフ

東宮ノ他ハナキ例シ　ろくのうちのつぼ　カロウト　なほとところせきまでもあるかな　東　朱雀院

の内元服のをりは　オキ処モイボドオビタシウヒシ　元大臣　おとどの御さとう。　カフフ東宮ヨリ　東宮ハサダマリマシドコハ定リナケレバ　ヤリテヤギリナクケリ

もれくいられ　ゲニナウニムアリケル　その夜　セサセテフ

源氏のきこえ　ムコイリセサセタマフ　婚礼ノ左法

東宮の御元服ニカズアサリテイアメシウアリケルヨシヲノセタリ　ろくのうちのつぼ　禄ノ辛櫃、親王已下ノ膳

孟禄辛櫃其例ニアラズ尼事ソクナセ玉フナリ

（仍アリ）そなへ　源氏ノサマシ　ヒヨワイ

九アリ詞モトハ六番ヲトナヲ次ニウツリテまハすう〜

意ニ用タル中ニコハ源氏ヨナヘテナラスクヒテウツクシト

ナヒスナリユニキ大変ナドニ同ジ

そこなふ　其ニシライミシウニ同シ

左大臣ノ心ヨリ

おとどの御さとう。　元大臣

松葉賀　十四　四トセバカリカコヲカミ　四ツウ

奏上十六歳ニ源氏ニ歳ナレバ始終ヒオコセ玉フシ

源氏十二歳ナレバ子供ラしキ

奏上心　似合ザルナリ　ニアハズ心ヨワク久シ

ほうぶ。　あいらしう　たまつる

ものうし　奏上十六歳ニ源氏ニ歳ナレバ始終ヒオコセ玉フシ

ものうし　元大臣　関白タルベシ　イセイ

なほ　別ニテ　東宮の　ひろう　ねたう　きこえ　いとやさと

わたりたまへば　ドチラニツケテモ　ネヒキフ　ハツリキリ　ビビシキコトカカリ

うるさう　ものうし　ソンエニ　ものうし　ものうし　ものうし　朱雀院ニシ　東宮の

ものうし　関白職ヲモカケセ玉フベキ

ものうし　世中を　ものうし。

[illegible]人のかず　河内政息補藏人の得例情慎
公実親真信公一男母多宮皇女源頼子　更
喜十九年正月廿八日任左近衛権少将　延　四年二
月廿五日補藏人略

[illegible]　ヲノ上ニ詞タラズ脱タルニヤソノ故ハサウナラム人ヲト云ヨリ人トハミエヒト云マデハ源君ノ心ヲタヾニイヘル語心ニモツガヾ云ミハ物語ノ地ヨリイヘル語ナレバ心ノ堺ニ云ミトイフ詞ナクテハトノハザルハ後ノ人ノ寫ストテオトシタルモノカハタモトヨリ紫式部ガ[illegible]ハヅシテ誤レルモノカコノ類タルヿ巻ミニヨリ〳〵アリ

[illegible]

相壺ノ巻ハ源君十二ヲ元服マデノ志又書テ侍レドコノ詞ニ十二月ヨリ後ノヿヲフクマセテ申侍リ帚木ノ巻ヨリアハヒ十三ヨリ十五ノ年マデノ事ハカケタルヤウナレドコノ一段ニヨク詞ニモリ侍ルベシ　今コヽハ元服ヒ玉ヒシヿヲ云シ元服ノ前ハ童形ニテハ児ナレドモ元服ヒテハ成人ニナルベシ諸物ニヨリ詞ニ十二オヨリ十五オマデノヿヲコメタリト云ハ誤リコヽハヒテ帚木ノ巻ノ年齢ヲツヾケトスル故ナリコノ詞ハタヾ元服シテオトナニナリ玉フトカヽリ下ノ詞ハタヾ今ハヲサナキホドニツミ入シテト云リコヽノ證ナリサテコノ巻ニ十二オマデノヿミエテ十三四五オノヿ爾ダル故ニ不審アルベケレド是ハコノ巻ト帚木トツヾケテヒル故ニコノ疑アリ此巻ハ源氏誕生ヨリ元服マデヲ云テ其ノ始ヲイヒオクシサテ帚木ヨリシテ次ダニツヾケテミルベキナリ　桐木ノ発端ノ詞ヲ考ベシ下畧年五ノ条ニヒクベシ

[illegible]　モヤ密通ノヿアルサマニ

上花島ノ色ミモネミモヨクベキ方ソナキトアル当ラミルベシ　コヽ申テ

御ダイトシテミルギナリ　似タル人サアイホドニ

[illegible]　葵上ノ

[illegible]　地ノ源ノ心イラヌテリ

[illegible]　トオボスニツケテ

[illegible]　源氏ノ心ヲ直ニヘル語

[illegible]　オモヒノ切ルナリ

[illegible]　昔ノヤウニナキ

[illegible]　藤原ノ方ヘ源ヲイレ玉ハヌナリ

[illegible]　カル時ハヲニガハシテ笛ナドフク

[illegible]　藤原

[illegible]　ツアウマツラセモフ

[illegible]　コ密通ノサマリ

[illegible]　キクノセメテノ心

源ノ藤ツボヲ恋シク思ヒマツリ
うちぎぬのまへうあこえ男。右衛門督ハ左大臣ノ子
らひのひて。ちはやぶるどのふ二三は左大臣ノ子
ゐまつ。でのかいをとりかはすほどで
あちこちかくれ。左大臣ノ心ミ
き風をうらふきたれば。世の中ふ
ありなべてのあをとえりとてのもとをりて
さぶらせ。源ノ心ミイル、キーナリ
を。あはれ。ナドラと相思ハシクトモ
ふ。ゴキゲンヲトフセマツエカハ若ツボニカケ玉フ
ちはやぶる。源氏ノオホシマスカタ
叔景舎ニ
ふて。更衣ノ所の所

叔景舎 桐壺ノ口ニ舎ハ殿ノ次ナリ庶人ノ家ニモ寝殿雨舎トイフガゴトシ

池のこゝろ 河白集樓額題鶏鶴池心鶴冷鳳凰鶏鶴ハ樓ノ名ニ又朗詠苔生石面軽衣短蔵出池心小蓋疎 郎ツネヨリヌトモカケヨヤシヒガ有ノハナ池ノ心ゾアルカヒモナキ

○いゝ〜〜知るとも〜 コノ語勢ステニムスビノサマアリカテヌ光ル君去ト去ラ前ノ文コマウドヲ川カケ又次ノ美ノ書出ニツヽクヤウニシテムスビタルサマイハカタナク面白シコノ結タルヤウ漢文ニテハ左傳ノ七月史辛章。藏氷之道 孟子ノ能言距楊墨ナドニヨク似タリスベテコ書ノ美タノムスビ皆心ヒタリ味フベシ

○ものうるきみかな〜 マヘニ世ノ人光ル君トイフハソノモト高麗ノ相人ガメデ奉テ名ヲツケ申セシヨリ去トノ意ヲコニテアヤスナリ語ヲ前後ニシテ去モ文ノ一

ツナリ両説アリト去ノ註ハ文ヲ心エヌ人ノサタナリ

更衣ノ為ト母ノ里トニツカヘシ人トヲイヘルカ モトヨリサブラフ人々ナルベシ
かしづくのみにてまうでちらばさぶらはせ
まほしけれどもとまりたまふ 修理職 内匠殿舎ヲ修理スル官ナリ
空蟬巻末ニ條院トアリ
更衣ノ里ニ後ニ条院トモ
宣旨くだりて。なほあるべきつかさ
くだしてなほ。無上 ヒタスラ コヒヨシ 物ノ上ニモノナクト云マウノ心カ
ふるまひとのの本ぶもしるしあるべきわざを
ものうきまでとりなすなる。池ノ蔵ヲモ又中ヲモ云詩哥ニモ同シ
ヲモ廣クトモ云キニトリツヽシ
なほ。源氏ノ心ヨリ
なてでてくつくりたてまつる所 サワグ 紫ノ上ノ初ナリ
ふるまひ。コミテハ藤ツボヤウナラムヤウナラムヤウナラムノヤウナラムノヤウナラムノ

世ノ人光君トキヨエルトテ云ヘル当ア
こんじゃく

キノツル

源氏中將十七歲夏

●按ニ夫学問ヲモマトモニスルヿヨリ去オコレラ書ノ取出シ手ヨリ去起シテ艶書ニ去ツクシソヒヨリ女ノ品ヲイヒソヒヨリ心ヲイヒワキマフルニイタルオモムキ末下ニアノメタル意ヲモ考ヘシ

帚木

欲をもて差の若とる源氏十六(ヒイ)歳中將と申す、
時のをとゝり宮紙去世差殘帚木と号たるを、
源氏の君中門のやどりへ方ゝをゝふなをゝ〳〵くれは
しまゝうちふす妻の所のほれもなくなをてそまたゝ〳〵
物〳〵い帚木のんもたゝ侍そ方ふのをふあやなく
まどひたるを見給ふ安(五十)ふ生る若の
うちふあるをふしたゝでなをゝ過てふてそまたり

●解ニ意アクメタル例
帚木ハウステヲキ物ヲバ同下ニモウカガヒ侍シモヤ
ウテ同下ニウアヤ〻ク心ガヒキトテ同下ニ式心ボソヤリ
ケバ同下ニ日ナデシコノ花ヲ折テオコセタリシ同下ニ九ウス
クセノヒクカタ侍ルメレバ同下ニ四ウ小ヅコノ

寄ふて付けるる名をりられ板上是則が（新古今）その名やふせ
やふ生る事本のありといふことをてあいぬ君らるといつる
（源氏ノ女ヲ藤原想ヒ王フ始ハヲノ名ツセミノ君ニヒトしバ名トセヒニヤ）
寄とふ結るる也（ヒトハコノ系ノイトスエニテコノ事トミエルハ西夜ノ物語ニコフアルヲイタクルル説ニヨリテ思フニ九コノ物ヨタリ始終ノサマヤノ品定ニコモしリしかしいキリツカノ美ヒい系譜ノコトしヲ品定ニ序ノ如クニテ系譜ニヤヽク品サダメノ中ノ一事巻ノ名ニ見スカラズサレバ）
ことあめややふ所ふあ系也（ヒトハ）をとてみれぞ
事をとてなるやふふて返てるれぞそれ侍
る本しもるし（ヒトハ）
（コヨリ下ノ説ハ物ノ例ニハ多ハ子ヒヽダリニ故アリガマしキエ文ヲナヒ、モノミヲ侍ルルテコノモノガタリノ系ニノタドヒイトハカキ一コヽロツアタルヲコノ系ナドハ一ツノ名ニ〻しつカキ意アシカラハ古キ文トモノ名ノヤマモミナヤメラタニノ〻、書モ太和モアリルヲオモフしス儒仙ノ書ヲ引テイフナドハ御ノイフモタラヌワルフイト）
ぱ侍る此事の名をれどし此物語をも十巻帖ふおよ
（ヒアリケ言ニ古言ニヨトルナドノ説ハ皆ヨスタル意ヒアリモトヨリノコノ文ノ意ハカルモノヲ事ヲトしテ書ルニハマヽヲノ別ニ歌御ケノしタリ所ヒキヲイヒ乃ブ上ノ人ノ御心ヲトヽし女ノ心ヒし用意ナドノタメニトテカレハ記者ノ心ニハ侍ルベキ）
ぱ侍るり その有ハ此物語い作りそふて時き
ちふて有れど又昔ありしをどもを世をげふ
してうまりされば五十巻帖し悪くいるるもうとみれ
ばなくもきもうとそれば有るものれば此事本
一部の名ふなる物るり天台四門の中ふて非有
非空亦有亦空門此物語ふ当ち是細流ふ相当
乃美くを序分まで入てこそ此事本の美物語の
序分とそこりれ荘子が胡蝶の悪夢の詞し此
有事ふ因ドうるでし世界の有様と見ふ事本ふ

ひいらぎ源氏なるもとりくゝり　何名ノコトクシテト讀キルモヨシ云ヘ　別紙云名ノミ云ヘ光ル源氏トイフ名ハイカヾシテト譽タル詞ヽ　花マハキリ壺ノ巻ノ終ノ詞ニアル君トイフ名ハ高麗人ノメデキヨエヲ付奉ルトイフル詞ヲ請テイフルナリ

ひかるゝ　源氏君ノ元テノ好色ノトガミテ世ノ人ノソノ振舞ヲアシキヿニ言消シ光ト云ヘケレトイフルオノヅカラ文ノ示ヒナリ

ひかるれ　源氏君ノ元テノ好色ノトガ多キニソノ中ニモコトニイタク忍ヒタマフカウヘゴトヲサヘシイトヾトイヒヲヘトイフルヲ思フシカルトイフル詞ハソノカタヘゴトヲシ玉フ時ニミヅカラオボセル心ヲイフ語シヽ物語ノ地ヨリ云ハアラズカルスキゴトヽ云ヨリ名ヲヤナガサムト云マデハソノ時ニ源君ノ自ラオボセル心ヲイフシ宗祇ナドカルスギゴトトカヲ物語ノ地ノ詞トシエタルカラ云ケレ玉フ耕ヲ好色ノヿニアザルサマニイフルハヒガゴトヽスキゴトノ類ヲ河海ニ遠数奇ナド注セラタルハヒガコトナレヿ拾イニヲキマタルゴトシ

なるひかるゝ　ヒカルヽキヿヽいるくて　賞ニヲカシキヿナレトニアラズ是ハカタヽ少將ノ如キモテ出テタハタルヽ人ノミテ笑フカタノ心ヨリイフルナリ

○コレハ巻々アル哥ヲオトシメテイフルト同ジ意ニテ源君ノヿヲカク云ハ即作者自下ニテコノ物カタリノ作リザマノタナゴヽカシラヲヨシヲ下ニコトワタルナリカタヽ少將ノモカタリ又伊勢物語ナドノフリトハハヒルヨシナリサレバハ心アリテアザトシアツリタルモノニテ物ノアハレヲカクシテ見ル人ノ珠ニ感スルヤウニセム為ナレヿハ櫛ノ初ノ大ムネニトカヒタルガ如シ

ひかる源氏　ヒカルヽ源氏ヲシ　コノ語ハミルニ心得アルベキヤウアルナリ　先コノ帚木ノ巻ハ細流ニルサヒタル如ク此物語一部ノ序ノ如クナルヲコノ巻端ノ語モ又一部ニカタリテ序ノ如クニテ源君ノ壮年ノホドノヿヲ先取スベテ一ツニ詳シタルモノヽ此巻ノ初ノ項ノ意ニアラズ去ケレ玉フトガノタキトヲモヒタルスキゴト、云モ皆是ヨリ後ノ巻々アルヿモヲサシテ云ヘシ是ヨリ先桐壺ノ巻ニハイマダサルヿナクカタリ次ヘケムトヲル則コノ物語コノ後々ノ支ヘシカクテマダ中將ナドニ物シ玉ヒシ時トヲヨリソノ初ヘ立カヘリテ其有シヤウヲツギ〳〵カタルヨシナリ

ひかるの少將　物語ノ名ヽ桃草紙ニモ見エタリ

紙注光君ハ下ノ心ハ好色ニシテ上ニ賢ヲ立ルオトニナヒビカル処ノナキヲ好色ノ本意ニアラズト文野ノサ將ハウ公ト作者ガ思ヒテカケルナリ作リモノカタリニテ作リ物語ハ人ニ對スルコト面白クカケルナリ　コヽマデ一巻ノ序ナリ

すぐれたるなかにも　上ノ光源語ノ元テノ語ヲウケテソノ初ツカタヨリノヿモヲ是ヨリカタリ出ルナリ

マダトヲモフノ初ヘタチヨリテ去故ニ　ナドトヲフモ初ツカタヨリロク去ル詞ヽ玉ヒシノヽモヒハ元テムカシアリシヿヲ語ルヨシナレバナリシカルニコノ過去ノ志モシラタガヒ名ハイカヾ

うちつけのもの〳〵しうもまもりやるる〳〵　コレマデノ文中將ナドヲ物シ給ヒシコロノサマヲヒロクイフルナリコノ巻ノ時ニハカギラス

さるる源氏。なのみ　大ソウニ　てるもとくくきくべし　ひかるるさとくくし　ひかるるふ。

○コトガヲ師ノ好色ノガト闕ヒタルイヤ好色ノ外ノトガナルベシカノ頃ハ流サレ玉フ時ノ風流モ好色ノ外ノトガナシ　ノトガトヒテ下ノイトヾトイフコトバキコエカタシ

ものうらめしき　ムツカシ　ものうるふ　ものうるふ　ものうるふ

ちぶのこれやと　内裏ニテイカナルニダ心モアルラムト袴ノ上ガクミニオモヒウタカフトナリ

春日野の若紫のすりぎ衣しのぶのみだれかぎりしられず

さしもあだめき　祇　カヤウニ人ノ疑思トカヒ光君ノ御心ニナビキヤスキ人ニ心トヅタマフコトモ御本性ある心ヲスリサモナカリケリトイフ義ナリ

さるすべきものをもるるまい　我ニナビキガタキ人ノ心ニウモレロク見スヨリツツカタミテアルマビキ振舞モアリ名ノタツコトモアリヌベし

物のけものいみ　コレハ怪カマシキコトヲドアルトキハ物忌トイフ字ヲ書テ簾ドニ付テアルキナドモセデ慎ムコトナリ

物忌ハ鬼神ノ名ナリ物忌ノ間ハ内ニアルナリ儀軌曰義淨三藏夫以迦毗羅衛国中有世界名胡其国中有桃林東西南北三十六丁也其内有桃木高三十五丈也若枝方々三十五丈也其平々磐如鏡面其下有一大鬼王号物忌其鬼王邊他鬼神不令来入但書時読咒書之時尋得於陽霊験之師書吾名令持人如影可守護陰陽家偽作翠ナリ

大鬼神王無言頭利益六趣有情貴持吾名号者若人宅物怪屋現悪夢頻示可畏書之時尋得於陽霊験之師書吾名令持人如影可守護陰陽家偽作翠ナリ

ものはやぐるもの　ダミ詞ニ四ノ君ノスミカトイフ心ヌ俗意ナリ頭中将ノスミカヒ田ノ女ノ許ニ通フヲスムトイヒテコヌスミカハヨヒ処トウラミヲセヒイタハリカシヅキ手ラトモ頭中将ヨナリ

をぢ〳〵まゐりくんだく　カクサマニツカヒタル物ブサ
ツメテタニカハイハズ大タタニ定テ云詞ナリ於イニ大タタ
トカニ似タリトカルニヨク当リコニモサシツメテタニアニ
タチオクレズトニアラズ大體オトラヌ意ナリサレバ俗
言ニアマリトイフ言ニヨク当リアマリユオクシ　セ
ヌナリコ次ノ文ニ殿上モヲサク人ズクナニトアルハイ
サカイニザマハリタレドモ意同ジ　ニテ殿上ニアリ
人モアイト云意シ但治定ノ意ドリニ或ハモハラノ
意シナドイハサニ叶ハズ又花鳥ニ漸又頗ナド
イフガゴトシトアルモカナハズ

ゆのつら〳〵のゝ〳〵ぬりを　ダテナムツビ玉ヲ敬ニ
オブカフ礼義ヲモ忘テ伴ニ玉フ是則品定ノモノ
カタリドウチトケルフノ心ノミカケンゲンシ

• 大臣ノ君達ト世源氏ト後世ハイトコトナラヌサマナ
ドヲ文頃マデクダ世ノ源氏ハ尊クアリウラムガ
中ニ既ニ元服ノ宴帝ノ座ニ大臣ノ上ニ源氏ヲキモ
コトニ書タビツノ君達ハカシコマルギガコトワナヲムウ
マビキ出ス文ビツアトイドムナルシサビドワニ源氏ニハ
物ゴトニオトシル意ヲ未タシモカケリ

• 於河　ゆりふ〳〵て　何トコフ　めゝゝゝ人ゝゝゝ

万ニアフサワト云言アルソト意同シク同エビセトハアフサワナリケヒヲサワフ例ノ音便ニサワトイヒツヒニアフヲモオホト書セルナルベシ音便ニ言ルコト多クヌ假字ヲガヒノ乱リガハシクナルヨリカヘル類タル

是ハ必シモ王フニトアルベキ語ナリソ故ハ上ノエビズビバトイルコトニカヘルコトナニ見ルニトイヒテハエビズビノカヘリ処ナクテトノハズヨリモビモ次ノ語ニカヘサビバリエビズビバトイヒステタルナクサビタスケテイル説アルドヒガコトナリ

（コヽニテ出シ王フコトヲアラメタリ）

大切ニオボシメシ秘蔵シ王フキ文ヲイフベシ

（オヤソノ細カオホヤリドノオホナルベシ）大物シ細カ伏梧ナリ少女ニシテ大ソノ宮仕ノスチニ五〜

（大マワトトリシマラタ人ノ近イ相木ナオ相木煩ノ物ニラ頃ハ何ヨトモオボヒデオボヒフ所ヒフヒヒソフリケル）

（ビラウクビ）（コノ文トモハナリ）

今五三目シ宿木ハ九ウ二ノ町モ上ウトヲ作タチツキトモ、コトナルコトニモヒザノド去ト

次ノ町シ

為町ニテ町ニテ町ニテ去リ

（コレバトイヒコトリ出アルラトリ出アルラ）

（ハ中将ノカノ文ヲ感ジタル詞ナリ）

（ハ中将ノカノ文ヲ感ジタル詞ナリ）

万イ同

旦ナリハ中将ノ艶書ヲ

（ビ方）

（ビ方）

（ハ中将ノ）

（ハ中将ノ）

（ハ中将ノ

引用ムそなる去　コレハ上ノウバヘタリノ名ノ類ナル女ニタクアルコヅト去ナリ別ニ一種ニアラズ

切ひさきこもれる去　住ニ窓ノウチニコメテシダル意ナリト去ルトイフハコモヒルトアルヲ窓ノウチニコモレトオモフルニヤヒガコトニオヒテキコヒルトハ年若クテ行サキノオホク長キヲイフ若人ヲコモヒルト去モ同ジサテコモヒルト去テ窓ノ内トマケイフ自ノ文ノ三ヒニサテ窓ノ内トイフ長恨哥ノ語ニヨリテ人ノムスメノオヤノ家ニアルヲドヲ去詞ニ実ニ窓ノ内ニスメルヨシニ去ニアラズ

切ひさきこもれる色の肉　尖苗　長恨哥楊家有女初長成養在深窓人未識　今嫁ヲゴヒンソウト去ハコヨリウツルナルベシ

ことゝもゆ　琴ヲモヨミ琴ヲモヒキ手カクナド一フシニ出ルコトノアルヲイヽ傳ルニ允此品定ハ誰トナリ皆せニアリトアル人人アリサマヲイヒリサルドモサニハ皆コノモノガタリ中ニアル人ノ性ニ川合テシルナリコヽ末摘花ノ琴ナドヒキ玉フトキニテ源ノ心ヲトメ玉フ類ナリ

はるゝき　オホドク　オエドカ　オイフカナド皆オナジウル意ニシテソノ内ニオヒリ〳〵聊カヨリアリ

○ひとゆゑ　百ニ故縁トイフハソノ意ルヌ女ノ故ツキクヲイルニコノ文ニゆゑ〳〵アリテ此ノ如クヲイフ

つゞけて〳〵ありて　ドイフハ字ニハ故縁由ニテ物ノ故事由来アリケルヲ去ル物拙キ私ノ好ニテ出タルハソノ情イヤシケナルヲ故人ノアトニツキテカツ古ハ凡流ノ心得置テスルコトハ必シモ古ハノ形ナラデモ心ノ本ニ故由有テ凡流ニエルモノニ物ゴトニカルサマナルヲ去リ是今ノ人モ能心エテアルベキコトナルヲイヤシキモノヽメヅラカニセシコトニ心ヤリテワロキヲカシ

何ニテ一種ニ分ルヲ大体ニ仕出シタニ詞ニエヅケテ改タルハワロシコヽハ皆マナビテユヱヲソノ人意ヲ尽ドイフキ意アモテ言ノモトヲトケルハコノ物語ナドニハ叶ハヌコト多シタヾコノ物ガタリノ此ノヤウヲモアトクベキナリ立ヱトモコモ此ノモノ語ガニテハ必モ故ノ字ニ由ノ字ノ意ニモアラズタヾ巧ニ能ニモアル心オキテニモアシフルマヒニモアレトモヒキフシノマルヲユヱアリトセヨシアリトモイヘリ

まもるゝ　ライアカヌ

をば　トリツクロヒヨシナニ

彼媒ノ詞ナリフニ言トソラニ推量ニガタキ

ふいるぶね　クヲニ

ものひとこと　クヲニヒヲ

ゆくふえおとり　世間ニ可然女ハナキヲトウダキタルヲ

やめやいるくるる　ソレナラソヲ

四君ノサマヲフニ言ニフツニヌヲナモフニ中ハニコヽ君ノガトキタリトハヲホルベシ

あるべきこと　四君ノ一ヲククモタルヽ

源氏ニ中将ノモノ語ヲククルホヒシアルニマアネドナリ

まもるべくいひしかくるゝ　ソレニテモナイケレ

ものいふ　我ハ如ヲ

あいする　ソレニテモナイケレ

ものいふ　我ハ如ヲ

ものいふ　我ハ如ヲ

ものいふ　我ハ如ヲ

人の子孫ゾクくゾクなれぬれば云ニカヤウノオヒキノ娘君ハ人モテカシヅキシハタノメノトノ女房ノアマタ隨身ニテ年ヲ孫ニ衆モ皆公家衆ノ女デソウイフ孫ガアダツキソウテ年ヲ孫ニ故一整ニ能モスキブシヨシ〻ヲ孫ニナリ又生ヒタマヒノキリデモワレイ処ノ見エヌヤシニハダカラコヒシヲヘテタテル故オノガカラアヤマツ水ギハタツトナリ

なぞらへてわかるべきなり　六ヒラヨレアヒノミエワル〻コトナリ上ノ文ニ上品ノ人カクルコトモ多クトイフニ對ヘテ云ヒンガシ

耳さびしく　耳ニモタヒネヅトリアル事モナクスカサヒヨラムヤウモナシトノコヽロナリ

くまの　曲隈熊笹、熊持、熊襲ナドヲル事ヲミル〻ベシ　くまのゝ〻ハカヒタル処ナキナリ隈田ナドカケリモトハガリコミタル処ヨリウツリテクロキ〻クロキケモノゾヨリウツリテイキホヒヲキ〻ニウツリ

優ニホメタル詞ナリ　今優美ト云ニ同ジ

なぐ　コノ人タノミブカヒ玉フタリミテ

ロをしさもなくとぞいふなるとねばめでたり

三品ヲコトワラル中ニマヅ種姓タキ上ノ品ノ人ハ大臣タチノヒメ君ヲ云ナリヨイフナリ

高位　高官

すぐれたる人。　共ニスクナキトイフコトナリ

ダトヒツヽノアヒヤコトモヤクルトシ

ユエツクルノミテフベシフチノアヌヲコモオボツラニヌスシ

もつやう品ヲ論ズキ　下ガマナリ

うるはしき人乃　是ヨリ上中下ノ可貴ノ

中ノ品ノ人ノ　コレハ大数言以下宰相以上ノヒメ君ヒコノ位ノ人ニナリ〻ス

上ニアル一ケイ一能ノコトデモ又ハ人ノ心ダテヨリアルヨリ　アヤヤカニユルトナリメ貴ノトリ出テイフニ

アヤくトサモマメくトヒサモ

ものもむきもいえて。　上ノ上品ノ人ハカクルコトモダクトアルニテアルヒリ

わかうどきさの。　ヨシアノ　ナニウニツケテ

ぐまのわかうどきさの。　イデアフウ

高もの　上ノ品ノ人ノ領國等　下臈ノ種姓ヲイフニ

きさ。　コレハ受領ノ國等

ふきいふまで。　人タノ品ヲクモリモナクワキマヘルヲルベキモノウユキワタリテ切者ニスカトイフ原氏ユヒヒタ思ヒカリ

ものしさ。　中將

ものしさてそのきるくやいのふ　四段原氏詞三ツ品ニシナトワスキトトヒ玉フナリ

花　上中下ノ大名ネノ人ノ許ノ物語ニテアリ上ガイヤ下ノ三ニ種姓ナル人ヲ上ノ品ニキキテ心ヨリ次ノ中下品ニ三ニワスレギトトヒメマフナリ

いとうとしメ処ヨ

なるこの三のきるふ　捉　サダメテ

てらわくこ。　上品ノ人ノ身ヨモテ　サヅクルヲヒナリ

元東宮ノ乳母ノヨク大臣ニモ昇ニ家ナレト

ものさ。　時ヲヒヲバオトシメラレトオチブレ居ヒリ

阿位昇ニ選叙令

なるこ。　人ノ人ト思ハレズアナドアルヒナリ　美又一種ニ何真人種姓不貴人ニ

俗ニイフ難ノキキト云意ナリ

ものぐりする。　ナリアヒヲモ故アナドラヒトトシ

我無　ムヒナクテトモ思フヒヒマニガホニテ

ヨトニスクヒタリト

ものぐりする。　ヨトニスクヒタリト

ものぐりする。　ナリアヒヲモ故アナドラヒトトシ

なりのぶ卿　左馬以申し前ニ二品ヲ評スルナリ惟光ガムスメ藤内侍ノスケナドニテタヒ

ふくきぶんなる　細　是ハ種姓ヨキ人ノオトロヘカヲイフナリ末摘ニアタレリ

やはらかなるき　コノコトハモトハホヤリシニガタキ意ヲ云テモダシガタレトオナヒクテ無止事也高キ人ヲイフモホヤリシニガタキ意ヲ出タリダシ詞ニ脳事ナキヲリトイフハガコナリ

ろうたくあるまじき事ども　ミハマヒキコトハ思ヒカラ事ナラヌニカサレテ偽ヲイヒコヒツフナリ甚シクイヒ貧ノ盗ノ意ナリ

とりぐふ　左馬　ヨ意ニアズ

ワリテ彼二品ヲ皆中品トイフナリ

とくとくこそ　ヨトワリテナリ

ヨクヨクニヨトワリテナリ

ぶ卿やうといひて　受領トハ諸国ノ守ヲイフ国衛在国ノコトヲトリ行フモノナリ細国ノ守ハ在四ヶ年ヲ一ヒテカハルヲヲテ人ノ国ノコトハイフナリ東宮ヲツカヒ人ナルヒ国ノ守ニテ参議ノ意ヲトイフハ権ナリ

きどりありて　師　受領ヨリ宰相マデナリノボリシ惟光ノ女ノ兄ヲ内大臣ノ家ニテ受領シオトロヘシ明石ノ入道ノ女ノ兄ヲ皆中ノ品ヲ指ダク指出ヲ当時受領ノ女ニ可然ガオボキヨシナリトアリシトヒヲ受領トイヒ

ぎもく　ホドラヒトナリ　前ノニノ中品ヲクラベコトワル詞ナリ　但コヽハ上ナリトアルハ当時受領ノ女ニ可然ガオボキヨシナリトアリシトヒヲ受領トイヒテト云ヨリ前ト別段ニキノニヤニ

コノ説マギラハシスベシ

当時ノ人ノ上ヲイフ故ニナリ　笑止ナリ

ふくきぶんなる

花是ヲ大内若菜二段馬ノ頭ノ詞　源氏ノ内玉フナリ上ノ方ノ評シ

なりのぶ卿　惟光ナリシトモヒヒキ人ナリシ我ヲ思ヒ下モ世ノ人ニルサマニ

ざうあるもの　惟光女ノ兄内侍ナド

ものきたなくぶちなる

世のくのおもてる　我ヲガホニ家角ブカリトイフニ当ル

ものきたなくぶちなる

やはらかなるきさまもぢなれど　君ガアリ又ハ方モ父威勢アルト代ノ皆リヒナド

世ふるるもさまかり　勝手ムキモフマハリニテ昔ノエイ名モトキ世ニヒテウリカハリ

ものろう　ハキカヌマウニテ

ものしんぶくろして　昔ノ時メキシマノ心トシテキタビヒヒハナケヒド鬱タシクハヌガナデ

人の国のこふ　ソノ二ヒカリイトナモノウリシ　任国ノ二カリ今ヒンラルニテツトル身ベシトテモ

ふうつくしう　イトナモノウリシ

ものしるもの　格別ノ身進モナク京宮ヨリハヤシムルモノナド

ものゆふ　中ノ品トイフモ假々アリ

ものきたなげなる　ソウ

ものしるもの　中ノ品ヲ指ダク指出ヲ当時受領ノ女ニ可然ガオボキヨシナリトアリシトヒヲ受領トイヒ

ものしるもの

明石　空蟬ノ類　ワルウハアラヌ　今夜ノ詩論ニ

ものぬしり出　ホドラヒ　コロアヒ

ものの空位ものの　アリアリデヤワイ　アンタチニ

ものおぼえ　三位ノ　ヨ方ヨシ

ものしり　イマダ参議ナラヌ　蔵人ノ方ハカニ非参議ノ品位ノ　非参議ノ品位ノ下ニクシイ　三四位ニ肝要ナル政官ノ政務ニアリサラフハイ

ものしるもの　種姓ヨキコトナリ　細明石入道ニカナリ　公卿ニテアレバ方ニ心ヤスキナリ

ものおぼえ

ものしり　横笛ノチイトハカアルンガナドノ玉フ　細さいやうるるんし

ものしるもの　明石　空蟬

ものしるもの　明石上ノダヒナル

ものしるもの　明石上ノ女ノ玉フ

ものしるもの　明石上ノ女ノ玉フ

ものしるもの　明石上ノ女ノ玉フ

セウハオ

引人のいくむ　今馬ノ仏ノ去ルハサウニミギハシレヤ
ヲヨシト去ニアラザル物ヲソノ意得ズシテ仰ラルルト中
将ノ源氏ノ君イフナリ源君ハソノ意ヲエタマヘバキナルニ
心モエヌ人ノイムヤウニトナリ
さうすいくび　コノ詞ウチアヒテスグレタラムモ云ヒ
心モオドロクマジトアル下ノ心得ベシサマウノ品ノ
人ハ何ニモウチアヒテスグレタラムモ有ヨリ悪ビキー
ヒビメツラシヲヌヨマシテオクレタラムハサフニモイヒズ
イフカヒナクオホユベシトシ　●螢　オクレタル女ノオホカル
ハ何ヲシテヲシツキケムト親ノヒワザヘオモヒアラルヽコ
ソクチヲシケレ
うちあひてをぐれたるも　又モノ品時代ノ
覚ウチアヒテ其上ニチモヨク心モオシエバヨヅスグ
レタラムモ充ト思フボトノ上ノ鵜ノ名トナリ
うちあいてをぐ　コノウチアヒハソノ女ノ身ノチドニ
アヒタヒテ何ヲモスグレタルヲ云上ノウチアヒトハ指ス
処ヨトナリサラ是モモトノ品時世ノ覚ヲシノウチノ女
ノ一ナリ別ニ種ニハアラズ注タガリ又上ニ云ル条々
ハ或ハモトノ品ハヨケレモ時ヨノオボエナク或ハトキセノ
ボエハアレドモトノ品ワロキナドヲ云ルヲ是ハトモニウチ
アヒテ能キヲイフルニテ是モ本中ノ品ノ一種ナリ上ガ
上ノ品ヲ云ルニアラズ思フベクハナルモトノ品トヌガ
ラノ能ヲ云ナリモトノ云心ヲクヾシテゴトナキトモ
モトノ品時代ノ覚トウチアヒタルヲ云ナリ上ガ上ヨリニハ非ズ
なほどれ　ヨロヲヌ人ノヨロヅスグレタラムヲソメヅラシカラメ是ハ勿論ノ一ト心モオドロクマジキトナリ
ものがしら　九ヲ自ラクヲ何ガシト云ハソノ時宮ニ何ガシト云シヨシニハアラズ古ハ名ヲイフル

ノ名ヲバツクラズシテ名ヲ云ベキ処ヲ何某ト書ルナリナニガシノ院ナニガシノ寺ナニガシ僧都ナドイフル類モソノ名ヲ云ベキヲカヽ云リ空ボナドハ作リ物ガタリ
ながら　皆人々ノ名ヲモツケシリ故ニ人ニ向テ云処ニモ皆名ヲイフルゾカシ
ツムガ上ハ　先ヲノ品定ハ初ヨリ終マデ九テ皆モハラ中品ノ女ノ一ナリサテコノ語ハ上ノ件ノ条々ヲ受テ云
ミテヌコヨリ下ノ段々供マデノモオノヅカラワカル語ナリサレバコノ語ヲ以テコノ品定ハミナ中品ノ事ニシテ上ガ上ト下ガ下トハアヅカラザルヲヲシ初ニ中将ノ
詞ニ人ノ品高ク生ヒヌレバ云ヘ下ノキザミト云キハニナレバ云ヘノ語ノヤウヲオモフニ専ラ中ノ品ヲ論ズベキ下ガマヘニ書ルモノシカシテ中将品ノ一ヲイフウチ
ニオヅカラ上ト下ノ心バヘモコモリテアルナリサテ又上ノ条ナリノボレモ有ヨリモトノ品時ヨノ覚ヲシノ一ト心モオドロクマジキトナリ
下ノ条々ハソノ女ノ心掟フルマヒノ品々ヲ云テコヨリ上トコヨリ下トハ品定ノ段ト繕トノゴトシ大カタコレラノ一ニモ心ヲツケテヨマカニ糸ヘ味ヒシ
こしらへ作者ノサバリ心ヲイシタルホイナキヅザリカシ
さてよりありと　是ヨリカノメヅラカナルヲト心モオドロカヌホドノ人ノ九馬仏ガオヨバヌ処ハサシオキテ下品ノ中ニマメメヅラカニコヽロトマルヲアル類ヲ
イフルナリ

めづらしくいはなえめ　前ノウチアヒテスグレタル又ノブツカケルコト、心モオトロヌトイヘルヲウケテイヘルナリ

おもひぶりがほる　伊勢物語ニオモヒエズ古即ニイトハレタチテアリケレバコヽニチマドヒニケリトアルタグヒナリ

父のとゝ様　コヽモオモヒノ外ニ心ノトマルタグヒノヲヽルナリ式アガ身上ヲウチアテヽヨソノヲノヤウニ馬ワムガ申スナリ

むぐらの宿イ　阿百合ヲサヲヲニトヒギヘヽオモヒエズヤムダレテ門サセリケム

のどちるを　薄ノトイフカラフカク出ルカケ合セトヒヲコヲフレテ居

くゝもはぐえるを　或物ヲレカルベキ女ノ何トヲカヤウノ処ニハアルゾトヽ

いらぐくそるかりもと　オモヒノ外ナル四ナリ

たぶすりた　カヘツアルマイト

ぐるとなむ　思フヨリタガハルトヨミツヾクベシ

ちやまるわざなるき　四段　女父ヲイヲ

ちいぐ　トトヲ思ヲ外ニ心トトル美ノヲヲイフヲ

細ヲ段ハ種姓サセル人ヲフス人ナカニモ高物タクヽコレヲ四段トタテタリ花ヽ下ノ我妹ドモトヒヽヲ四段トセリ

乃ぢ　トヒヽヲ四段

おいものむつ　ムサボナル可ナリ

ふやりぼぎせ　兄人

うらふくぶぬふ　外ヨリモモヲヨリハオクユカレデモ

ひやりとれふとれふま　父兄ノニクゲナル故ナリ

ヨヤヨヲヘヘヲヤヤ妹ナヽドトチヲニレテモ

うちふ　マドノウチト云ヒヽ

ふとく　身ヲケタカク思アガリ居ヽ

おひあらぬ　例ノ一振二能ナリ

ふるはぎ　手カキ琴ヲヨミ琴アドヒノヲナリ

ゆ　ジヲヽ身ヲケタカク思アガリ居ヽ

ゆ　ジヲチルヽ切

ゆ　コノ住カハズウチスグレクルヽカリ

ゆ　細ヲ段ハ一段所ヽ

ゆ　トリドコロアルヽ

ゆ　故ノナキニハアラズヽ

ゆ　外ヒワヅヽニコヲノタドアフヽニテモテリヽヽクワヲヲヽ父兄ニ不相應ナリ

いぐ　ヽトマルヽ

ゆ　サヅカレイデアラウ

ままでふ紀あそぶとて　ダ詞ニをでノ下ニホエリイヅキモナリト云詞ヲカニテ心ヲセタレドソノ意ハアヌヒカ一ナリ

いでや　イデハ発語ノ辞ナガ中ニ日本紀万葉ニモ既ノ字ヲヨミタレバコヽロアリテアタリテ去同ナリサテコヽ記者ノ原ヲヲオシカリテ去シ暗ニ葵ノ上ダニ恨心ニウカヌヲ思テ去ナンシ

いでやゝ〜の君と聞りめるる　言去前ニウケアヒテスグタラムハサビギコト覚テ心モオドロマジト馬ノ及ノイヘドワガ葵ノ上父ハ左大臣母宮ハ帝ノ妹ナレバナビナキ上品ニダニ心ニカヽハカゲナルセヲト源氏ノ君ノ恨心ニ葵ノ上ノカヲヌヲオボシメスナリ君ハイヘルハウナニ心ヲツクシ

おろかきものども　ミソトハ服ヲスデイドコヽハ下着ノ単褐ナドノ白キヲ云ヘリ一条院ノヨヨリハ小袖トイフモノ出コトイドナヨカナルトアルカハ小袖ニアラズ

なほ〜ごりと　盃下ガサネヲヌギテ直衣バカリシメシ乱体ナリ白衣ニスヽマシマサビト直盃院説ニ云シ細夜陰ニ心智ノ中ニテ指貫ヲ略シテ直衣バカリ引カケルコト勿論ナレヨシ禁裏ノ説ナリ也ニ直衣ニ心下ニキヌヲカサヌルモノナリコヽニキヌヲカサネ元ヲ又ニバカリトハイフカ指貫ヲ略スル説ハアリナルカ

下ガサネヲヌギテ単ドノ上ニ直衣ヽ看玉ニヲヲイフ

ナムサシヌキヲモクラナド云ハイカヾシ赤ニ右大臣殿ヘオハスルトキ直衣ニ下襲ノシリ長クリテアリシヲオモ男姿トハイヘリコノ時ヽミナスヽツネニモ御門ノ前ヘ出玉フ時ドツネノ直衣ニ下襲ヲ長クシテ下ガサネナムサラバ下ガサネヲ略シタル直衣バカリト云シ

女房　サミヽヽ

紙　サミヽヽ

下ニ心ノ君ノ子チアリテ云ヒ　ヲ

柳葉ヲ藤壺ノ東宮ノ御ハ

紅葉ヲ男ヲ

非ヽ

紅葉賀ハ源氏ノ物ヽ

源氏ノ物ヽ

上ノ方ニアヒテトイフ極上々シシ及バズモ

或抄十分ニハケレドモステテシセヲトシ

源氏頭中将ナドノエラビニヨリ及バサラメトナリ

中品ニリテ〜ト云意ナリスベテキズナキ品ニトイヲリツギテタルヲモテサトルベシ

式アツ見ヤリタルハカルイヤシキ方ノ上ナル方ノ上ヲ上ニヤスナ

式アガイラヘモスベトテナルベシ

馬ノ及ノ恨ニテイルニテトナリ

於六条ノ御ハ

於六条ノ御ハ

馬ノ及ノ恨ニテイルニテトナリ

倍ニイヤモウト云ヨウニコヽロ

万水源氏ノ恨ノ馬ノ及ノ及ハカリテ恨ニテ或抄源氏心ヲ世ヨリイフヲ

上品ノ方ノ打合ヲ中分ノイイヌチニテヘカモニヤト思フアリカタキ世ニ物ヲト思スベシ地ナリ

マニテ中ニ品ハヲヅアラレト

直衣ハ内ノウツクシトナ牛装束トイフエボシ用ユ又冠直衣ヲ用ル故モアリ

キヲトノカヲニドロモドロンドヌアラケナイノナイナリ

アフム　モドク意ナリ

地ヨリ

藤式アガ慢ノ人カ

源氏心

モケンシテ丹ニ

源氏アリサマイフナリ

ヒト

身ニシテ

身ニシテ

ヤヽトシタルニ

ヤヽトシタルニ

ヲヲ

ヲヲ

ヲヲ

かゝい下ふ[illegible]

河上舎人徳以遇其下下懐忠信以事其上下史記ニイル心ヨリ師此段ノタ上心ハ摂政聞白ニ諸司ニタスケラルゴトク女モ一人ニ万支具足スル人アルマジケレバ女ニ不足アリトモ男ノカヲヌテ押ナシカニシ[illegible]トナリ

天下ノ政事ヲイヒリ

師説イタクタガヒリコ段ハ花鳥ニ天下ヒヒトイヘドモ諸人ナカラヲ合セテ治ヒ中々ヤ和ヤリセバギ家ノ中ノハムヒ一人ノカラニもいユル力クニテ大事ヲ成ル意ナリコノアルヒ分ヒロヒノヲ去ベシトアルゾヨロシ

三公諸司ニタスケラレ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まさきやりふもと　細

ヌト文唇ドホカナトイフ三對ニテイヘリイフ意文ナドバカリニテオボツカナユキテアル公トスレバスベナクマタセテ日ヲク出ニモアハデ出ニテ物ヲオモハスル体ナリ

又文ノホカナビサヤカモハマトマツ心ニヤ

いとすくとてうくに　文ヲカケド去ミワツカナルキノニツヲ合セテイフリサヤウ女ハ身ノオクレテタスヌ処ヲヨクタクシテ男ニアラハサヌナリ俗ニ云ガヲヒヒヌト去意ナリサテナリケリトイフ意ハ凡テ世ノ中ノ女ハオクレテタスハス雖ムガオボカモノムヲ右ノ如ノムガソレヲヨクモテカリスコヅヤトイフ意ナリ

やりはぐあるとく　コノ処イヒザマムツカシクシテ不得ニクシテ凡テノ意ヲヨク得テサトルベシ先ヲダクトハアダナサマニミユルヲイヒテ口ニアダナリト去トハ異ナリサラ物ヤラカニ女ラシキ女ゾトミレバサヤウ女ハ必心ヨワクシテアタリナサケニ口コメラルヽ物ハ故ニオノヅカラトリナスキハアダナルニトリナルニサマナル物ゾトカモ

はぐいめの殺とはべ　右ノ雖ハコヲ世ニ多アルモノハ故ニ女ハ先是ヲマシヒギコヅト去意ニテイヘルナリオノ雖トイヤウニ聞ユレドサハアラズトリナセバアダダクト去ハダニアダシト去ニアラザレバ外ノ雖トハ去ベクモアラザレバ

とうがはふかなるあるあるかぎ　細

此段進ヲ

とうゾケ退クヌスムナリ　所前ニアグヌヲ難トイヒテコニハウヒロニノカタヲモトニテ実ヲノダテイヘリ次マヽニキヌヂカタトイフヨリヒトヘニウチトケタル後見ヾカリヲヒラ実ノ過ダルヲイヒタラヽ又サヤウナルモクチヒキトハイヘリ且定過不及ヲイマヒメテ中道ヲタツトムコロナルベシ

注ノ意ヲ叶ハヾコトガ中ニ去ヲキヱヌヨクアヌベシ

とら中ふまし　コノ処昔ヨリヨミアヤマレルカラ意モタガヘリコヒハノメアヤビキトヨミテ人ヲウヒロニスルヲ云夫ノウヒロニスル方ノ一ハ

うなるほどのあのがさらもちりもつらじとなをしてあり。文をうけどゆくとうふ

自身ヲ去テ咲白ルトヨリ　下ザマニ咲ヲモセヘ高ルナリ　タレナムヽ

ちりふんをうれくゆかさせつ。ますさやうふもえてし

モノヽドヘヨリスヒヨイト　アカスヽ　ハウキヤ　ミタイモノヤト

ぐるとはぐなくやすをせ。わづらはるとをきくばかりいひ

コヲヲモアヤカニキセヌナリ　ヨリ十ウ　是ヨリ木枯ノ女ノタヒシ　ヒヤカシタヤウ　ヒヤ　ヒヤ　ヒヤ

ねんやけしてうき　オガ身ニアヅカラヌ人上ノコヲ傍ヨリ見間テ服ダシト思フコヽロヲホヤケ俗賤シキコニ身ニアヅカラヌ人ノ上ノコヲ妬スルヲ法界リキト云法界ノ意ニアタリ

枕草子ノ五アサマしウおホヤケ服ダチアケンゾノコヽチモ心クルシユベレド身ノ上ニハツユ心グルシキヲ思シラヌヨ紫日記下ノ三スベロニ心ヤマしウオホヤケバラトいヨヒラヌ人ノ上ヤウニクコソオモヒタマヘフしカ茅花物語ニハテヌ夢ニテケニオホヤケバフダシド見エタリアナキトハ我ガ身ニアヅカラヌコヲ服ダツヲモテイルナリ

ねやい出ラレ　アリシコヲ心ノウチニ思出シテ笠ヲ

ライフコハ心ヒトウニ思アマルコノナカニワラヘギコヲ思イダシテ笑セルナリ思余ルニ必モウチカヘキコナドニハガキヲアヒキコヲシキコナドモ心ニアマリテ人ニタラホヒキコハアルナリ　ねひもすがら　ロヲシク思フ相手ナドヲ何条ヒガオモヒテ空ニ天スルコヲアルナリ　ヒガコトナリ

あいなしうちひとり言　哀ガ身ナベテド速懐スルコヲ習ナリサヤウニ思ハヾ女心ニモ大タニアラビト深急入テ男ヲモ恃ナドスギコナレド心モナクテコハゾナドアツくしクイヒタヘヅツチヲヒルギナリ

ヒガトナリ　何ヲサシテ去キニアラズ

いづ　ひしふるふる　根コハ天性心タテノ思侍ルハアルクモナケレバカヤウニ又一段ヲカケルナリ

とゑきて　大ヤウルヲイフ花鳥ニヲサガマシキ意ナリトミエダミ詞ニムスメノ子メキテナリトイルヨロ親ニタガヒテオヤノ侭ニ大ヤウニテアル意ナリ　○紫式アリ日記ニサ将ノ君ノヲ心バヘタモワガ心ハオモトハ方モナキサマニ物マミシレイトヨハヂウヒアマリ見ルニキマデアメイ玉ハリハチタナキ人アしサマニモテナニ去ツル人アラバザテソレニ思イリテ身ヲウしナウシクアエタニワリナキ処ツイ玉ハリアマリ心ロメタケルカ、是ニヨリテイト

ものらむふ　タリアハセバナヲサマニキヲト思ヒナリ

ものをせば　タイモタナヤ

まきるみどり　オガ身ニアヅカラヌ人ノ上ノコヲアルハヨリ見間テ服ダシト思ヒナリ　公方ノ三ツキテ脇立事ナリ

ちぐみ　ワケモナイ

あやなきぬ　ヨロシウ思ヒナリ　公方ノ三ツキテ脇立事ナリ

らだ〳〵う　アルコトナド

うるを　此ノ女ハオヒクビキヲセテ何カハト思フ故男ガウチソムクキカセテモセンタナケレバ

ふらい　ヒガ身ニアヅカラヌ人ノ上ノコヲアルハヨリ見間テ公方ノ三ツキテ脇立事ナリ

ひきつくろひても　男ヲサヲ去見ドモ

ゆきなすなる　ウチ仰イキ居タニテアハツタルサマニイフ

ヨソメニモ　ヨソメニモ去ヒタ去ヒタ似タリ

ふるふる　何事ヲサヲ去ヒ

ものをば　ヒガ身ニアヅカラヌ人ノ上ノコヲアルハヨリ見間テ公方ノ三ツキテ脇立事ナリ

ものをうちもとも　モト、資向ナリ

ものを　己ハ思アルコヒヤ、シト歎息スベキコヲ思ヒ、タンソクスルナリ　サラヘくしヌトイヒヒトリゴ

人ものをぬ　思アルコノウチニ

ものを出わ　旧モサビダミノ反

あいなくもせられ

ものとり　コトセラルナリ

ものぐさ　サテ何ニ去ハ、ワ合イフナリ

ものいひあきまるさ　ワヒ

なほ　ヒキコ悲キコ、ダフヒキコ何テモ人カメスハホヒキコアルモナリ

ものもいはで　モト資向ナリ

ものをば　己ハ思アルコヒヤ、シト歎息スベキコヲ思ヒ、タンソクスルナリ　サラヘくしヌトイヒヒトリゴ

ものをば　タスハヲコヒ思アル

さしをうつて　ラウタキ人モタチナシテハ男ノタメニ至リナキコモアリ又カクゾ〳〵シキ人モ出ズスルコモアレバイヅレソコトモ定メガタキトサダメカネタルなもてぐちなるもよろし　花人タダ心ムケヲ本トスベシ品モカタチモイラヌトイフベシナリ

三界唯一心

万法唯誠心より源氏一部ノ肝心ココニアリ　弄モ同じ　イタクタガルコナリトモスベシヨシナキコヲ人出セルハイカニゾヤ

祝ぢけりすゑ　コノ詞葵ニ斬ニミエタルヲ合セテ考ルニ人心モアレ形ニモアレシワザニモアレムベキマニ直カラズシテワロクマガレル意ナリ俗言ニ物ノマガレルヲネヂケタリト云トモト同言ニテ意モ同リ

あすりのゆゑす　暁　故ハ種姓ナドニヤ由トハヨセアルコトカオナジコトナガラサシカハルベキカ心バセハソノ外ナベシ　師此段モノマメヤカニシヅカナル処ヲ本ライベ故由ヨリノアマリトイフナリ（非ナリ カクマメヤカニ静ナル上ニ故由アリテ心バセモウチソヒテアラズ堪忍スベシ）サシノ難アラムハシヒテイハジノ心ナルベシ　イタクタガルリコヨロヒニ思ヒテト云詞ヲ行ト心得タルニカ

○上ノ物マメヤカニシヅカナル心ナリコノウシロヤスクノドケキ処ダニヨクベト云ヲ或説ニ葵紫ノ上ナドヲアテタレド葵ハサモ似テ心ホコリテ物ノナサケナキヨシ葵系ナドニモ書タレバ右ノ詞ハアタラズ紫ハサシテネタミ玉フコハアレドヨキホドニテオハセバ折ステヌタノミモアリテクネくしカラヌハ皆コミアヌレバ又明石花散玉萱ナドモコノ中ニコモルベシ

イキトバイタ弁者モノシリ　哥ヨミノ類ノ合ニ言ナリ　上ノ件ノサマ〳〵ナラヌ人ヲ何シヲヨシトモ定メカヌルナリ　ヨリ大意アルベシ

いひもさだめぬ人ぞ　位ヲイフナリ上中下品ナリ

直クアラズシテマガレルニ俗ノネヂレタリト云意ナリ

ねぢけ者　オモシ

カケメノアルベシ

くもゐ　イチヂニ

葵上紫ヨリ人本ニシテ皆イフベシ

ものやおもふ　カヨヒスムヲイフナリ　本事ナリ

カヨヒスムヲイフナリ

ものをこそ　カヒベシク動カヌ意ナリ　ネチツイタ

ソノアリニユヲノヒクヨシアルナリ

ゆゑ　松ノミニロイ物ノ意ナリトイヒジヒ詞ニマウケモイト云ホドノ詞ト云カコトシ

ゆゑ　キヅカイイナリ　ウシロメタイノ又ナリ

葵上紫ヨリ人本ニシテ皆イフベシ

ものをこそ　ウシロメタイノ又ナリ

ものをこそ　ウシロメタイノ又ナリ

ものをこそ　ウシロメタイノ又ナリ

いとりろく〜 女イフ心ヲヤトリタル詞ナリカク作リコトメキタルシマザトナリ

侍し。今は昔ふよいとくのぐ〜ぐ コトニ作リ出タル心ナリ ワザトガマシイ

まふよりり。是ヨリコトサビタルヲ細ノ方ニカタルナリ

んぎ〜 浜ふ〜むとと 我ぬ知てゐるめの 巴折此段伊勢物語ニ当リ

男ノマネヲ深キ心ザシヲ ヒヲ物ノヤウニサヒタリテ当座ヲ〜ママ〜アリ ヒヒ

まくにつ〜さとと ありとと。人のの心をみ〜〜めや

ヒヒヲ〜ベキコトニツネ〜〜

うふにぎゆうくまてく〜とやどり。 男ノ心ヲミトスルナリ んぎもんむと

すると程ふ。なぐ紀せるとのゆのひよふる。 サヤウノ〜ニ依テ終ニ離別スルコトモアルヨイ(リ コトヒアルモ

あをとるる。 心ヒロキ女ノ人ホルムニツフドテ尼ニモナルトナリ

きぬ〜ん。めのしぐ。 初ニ心ヒトウニ思アルルコノイヨ〜スムナリ

ぎたほぐとも いとんすめるやうふて せふ〜りまん

ぎくも ぬ。 孟是ハ花ヒシル人ノキトマヒニテ此女ニイフ詞ナリ

ホヒドモ 女ノ方ニ旬ヒヒヒトヨマヒ〜ヒヒモ〜ウノ文ノサマヒ

妙子ごしち

同 後漢書註鄭玄曰礼記云后之言後言在夫之後 故以女謂後達 ○故以下六字漢書ノ注ニナシコノ説イフ人ノカキソヘナリ 本朝文粹三古〜女ヲ貴テ御トイヒシコアリ女御ノ御ノ謂ナリサルヲソノ語モカヒキテソノ家ニはル女房ノ中ニヨヨヒコキ老女ナドヲ御ダチト云コトハナリヌ

川ぶりみびりきさぐ〜て 昔尼ハタヒアマトイヒテ頭髪ヲ鳴食ナドヤウニハサムナリサルニヨリテヒタヒガミシカイサグルトハ云し ○古〜ソギアマトテ髪ノ末ヲソギタリ額カミヲコトニ短カクソグ故ニ云トイヒコロニ短クセミコオボツカナし是ハクヤしキ時頭カくルトイフコトヲ本ニテカノヲギタル髪ノやしサヲ思ハセテタクカケんノミんべりオボユ

みりふなるよなどやうふ。あひ志まる人まとふ

らひ。 ○又尼キリテモ猶十南ホリ女オモモハレサル世ニ非ズ 上ニ心モヒムトリし如ノコ女男ヲヒスフニウレト思ハレタルニ非ズ

ふ〜しふ。ゆひとせ。 女ノ

つけて。浜ぬてせぞ。つふ人ぬるぐてもちなぐど 古キ女房達ヲ 尼ニナリしヨシ キ〜ツケテナリ カノモトヒキテ 男ノ方ニ 光御等

コノ女男ヲ イヒルナリ

ぬ乃 浜んと 男ノカク尼ニナリし 悲ヒコヲ女ノモトヒキテカタルナリ

ぬどふふ。みづ。うらえんぐうとをかさやぐりて。 女後悔スルケキナリ アタラ髪ヲソギスラルコトヒ後悔ノサマナリ

ぬ。 アタラ身ヲヤツと玉ルコトヒナリ あてら法をを

ぬどふふ。 女後悔スルケキナリ

こ〜ぬぐてけ。 浜ひキタヒヒヒ

やがてあいそのてそのもぎ云ふ　一本ニヤガテノ下ニアヒソヒテト云五文カナアルゾヨシキヨノ詞ナクテハヤガテトイフコトキコユズ　湖月本ニコノ言キハ同じ言ノ下ニモアル故ニウヅラハレトオモヒテサカシラニハブケルニヤ又一本ニモ思出トイフヨリアシクモヨクモト云マデ正七字ノナキハアヒフヒテト云詞ノニツアルニ依テソノ中間ノ語ヲ見落シテオチタルモ此語ニモナクテハキコエズヤガテアヒソヒテトハ一タビソムキシ後男ノ心ノナゴミギフモナクテソムキシマニテマタカヘリテアヒソフナリソノ思イデハサキニソムキシ家ヲ出シニヲ男イヅルヲ云

○尼法師トナリテ道ニイル間ニ児ヨリウカミ出ニタトフルヲモテコニハ尼トナリテ又間ヲ思フ故ニナマウカミトイヒサテハ中有ニシテマヨヒタドヨヒベキトイヘリ　尼ニナリテ後悔ニウヒ入ヲイフニ

まぢでよひめざくぞはぢゆふ　後ぬきてくせあさ

（タヒ又中ノ縁アナカテ尼ニモイマダナラデ取カシテ）

（モトノナリ）

うゝでいうまたしなまでうづ　（タツネトリトイルニマヒソヒテノ意アリ）　やがて

（ソセフ）

（方アリ）あいそのて　一名家ヲ出テ白クシタル女ヒ

（初ノマヽニテコトモナシ）

○コノ以下ハセヤナクスハコトワリナシ

アシクトモヨクトモ堪忍シテアヒソヒテハ

くもよくも　あしそもて　（万ナシ）

。。。。。

兎角ノコトヲヒヤカニ見シテ夫婦ノ中コフアルヒナラメトシ

まぢぐをもみまてぐ　たゝむ中とそ　ちぎりふう

くあとそ　我ひんとうとうゑ　（タレニテモノ意ノ所考）　（コヒモトナキナリ）

まてやらじ。　（ケシキ出シテウフシロクシ是ヌアシカラムトナリ）　ぬふなりあふうつろふうさあむ人を　（ヨタタ）

うゝみゝ。　（ヒテ外シ）

妻ヲ真目ニ思ハデ斜目ニシテ他ノ方ノ男ノソウロフヲイフシ

「ぬきてとそ　ぬきてとそ　ぬきてとそ　

[illegible] 女ノ心ヲヨリ男ノ心モヲサマルベキヲアマリニ思ベシハナダバツガヌ舟ノ浮テタヨヲゴトク男ノ心モヲサマデアレカムトナリ

故こけふあやあ〜しハイルナリ 文選鵩鳥賦云 溺[illegible]者若不繫之舟

河海ニ 文選ヲ引タルハ本ナリ 尓ドモコヽ白氏文集 **共偶吟詩** 無情水任方圓器不繫舟隨去住 爪トイルヨトリテ書ルナリ サラけつあや〜〜〜〜〜〜 本文カリテイ〜リ

さ〜あるりてをら〜〜〜〜〜〜 コヽハノタ負ノ君ノオダヒクノミヱタルニ中将ノ心ヤスクテ心ニタヒヒナケレドドダエタタリシヲ女ノ内々ニ疑テアルヲ四ノ君ノ方ノアラキ爪ノ便ニケテウヒニゲカクレタリコレ男ノ心ニアヤマチアラネバ女今ヒヽヒヒビテアラザル方ニミニナレテ長ノミルヤウアラヌヲ我タメノミナラズ女ノミイカニサスラフラムトカヲヲ中将ノ心ニ思フ故ニノ語ハ出タルナリ

サラクノ眼ヲ見忍テアルハワガ妹君ナリト思ナリセドヒヽ北ヲハイデケキニ且心ニ弟ヲ意ヒレバ中々ニウラミイフニハマサヒリ中将モ妹トイドヲノ間中ノ[illegible]ラネバ一タリノオモテノ理ヲノミ思テコノ定メニカナリ思フナルベシカク書タレド記者ノ意ヲヌヲヽ下ノ条々ニヱタルヲ此語ニヌヽニテカクイフベキヒヤ

ものもしげなきうらぶり 女アタニテ他ヲアルヤウノ疑ハニキ有ヲイフダニ詞ニアマリ男ヲ北ニテタノモヒゲナキ花ハタカリ又タ自ノ上ニ当タルモアタシヌ又拾イ集ニ哥ヲコヽリタルモ[illegible]ヌヲ哥撰伸ガリタルベシ

うらぶりうらうあやまちル 女ノ外ニ[illegible]ケカクレルヤウノタヽスクナイヤウナル

なるなれ。 女 **わゞんあやまちなくてみさぐ** 男ノ方ニウツフ ヲ心ヤリ

ぐてとなどうえざるもとあばそて 男ノ心ヲ

れもの。 男 **とものうれ。** 孟 是ハ女ヲ男ノタヒヒルコアルヲハラダチ恐ヒテ見サヤウニハアヒヒトナリ

ふ 孟

ふ 孟

ふ 孟

[illegible] 細 [illegible]本道ニ[illegible]ザリ此タトヘ人ニ
[illegible]ズ公戯ニテ好人ナリ 宗本ノ道ノ[illegible]ザ実サラ
ヌモノズ宮ツカ人ナドニタトヘイフナリ 俗言ニモ[illegible]ル
ト云ニナリ ほトモミナタガリ又河海ニヨノタト[illegible]ヲ人ニ
トズ人ニタバ[illegible]ヲ好ム人ナリトミエ宗祇抄ニ宮仕
人ニタトヘイフナリトイフモ皆俗言也コレハウヅノ爪流
メキナサケダチテ実ナキ女ノタトヘナリ

大事〳〵て去 細 人ノ本意ニ[illegible]ベキ人ザ
[illegible]タリナドヒタル人ハ叶フマジキニ世ニアリガタキモノナリ
祇[illegible]ヒキ人ノ調度ノカザリヲズ人ノ家アルジトイハ
ルベキ女ノアダニタトヘイフナリ

[illegible]ヒキ人 [illegible]ヒキ調度カクリテ人
[illegible]ズ人ノ[illegible]ヒキ調度ト云詞ニタダ詞ニ[illegible]ヒ
キ人トミフヨキ人ナリト云ハダガリヌヨノラカドヲ花
鳥ニ香壺ノ箱奉ノ皆アドシトアルモカ何タト、
ハサシテ去ベキニアラズヌヨノ辭言ヲ人ノ本意ニ[illegible]ベキ人ハ
去ミトアルホモタガリソノ意ニアラズタダコレ無[illegible]ナ女
ノタトヘナルヲヤ

[illegible] ヨカク処ナリ西宮抄去書所在式乾
門内東脇御書所南有別當五位藏人預ニ
[illegible]ベキ 彩色ヲスルコトニ對ニテタダ繪ヲカク
ヲ云ル名目ナリ古ハ繪ヲカキテ彩色ヲバ別ニ別人
ニセサスルコトアリシ故ニ今ハウケテ黒ガキツクリヲ去
リツクリ繪トハ彩色スルヲイフスミヲ彩色ヲトニ云コトニアラズ唐ノ美ヨノ項ノ上ニ[illegible]ニスル子枝ツネノリナドヲメシテツクリヲカフマツフセバヤトアルモ河海ニ
ツクリヲトハ墨ガキノ上ヲ彩色スルヲイフ源氏ノカシタル繪ヲ彼事ニ色ドラセバヤトナリトアル説ヨシ 春花細流ノ説ハヒガ[illegible]ナリ

[illegible]ふの山あ[illegible]ふのいなる 細 後漢書
張衡傳ニモ畫工恶図犬馬而好作鬼魅誠
以実事難形而虛偽不窮也トイフニオモシロシ

[illegible]の山の [illegible]マニ[illegible]ル繪ノヤマハ其ハモ
トモナキ女ニタトヘ 細 是ハ人ノ本妻タルベキ人ノサマニ

もゝくまもる〜 嶮嵒ナラヌミト云ル佳ヨシ河海ニ徒ダミ詞ニスデナラヌ山トアル皆ロヒサテコミ嶮嵒ナラヌ山ヲコトニイフ嶮嵒ナル山ハヨニカクシケレキアリテカキヤスキヲナダフアル山ハカキニクキ故ナリ

わさとなくとなる〜 コノヲモシ下ニ受タルコトナリ穂ナズノキヨヒコトニカクヲト云言ヲ加テ心ヲシテ泣

ものさわがしるゝ 紫日記 和泉式アトヲ云人コソオモシロウキカシケルサレド和泉ハケシカラヌ方ソアレ打トケテフミハシリガキタルニソノ方ノサエアル人ハカナイ詞ニモ工侍メリ

なほすものはぢを 梅ガ枝ナミ宮御手ソマヤカニヲカシケレドカドヤオクレタル榊 御手コマヤカニハアラネドラウ〜シウ草ナドヲカシウナリシタリ 細唐稽京尚筆法 榊ハ権曰心正則筆正筆正乃可法矣

ほうさなどを。 ナウアシヒヤワフヒタル對ナリ 嶮嵒ナラヌナリ ナヒトリトヒタル

ものはなる。 墨ノ濃ヒヤヲモ遠近ハヲアラハスナリ

ものはなる。 ケフアルハヒヲヒクヒヤリテクラヤヤヤスキヲナダラカナルハヤヤコクキ故

ものはなる。 前栽ナリ

ものはなる。 タリ 人デナキ

ものはなる。 ソコノ心ヒクリナヒ定リタル世ドリクマドラ ヒヤヤヤ サミナダメ

ものはなる。 下チライフナリ カクノミジュク

ものはなる。 ソコモナクケヒキアリテ香マギフハシタルナリ

ものはなる。 今俗ニイツカドナド云カドシ字ナリモキツトメイテ

ものはなる。 見事ニユヒド器用ハ必ズ言ナセルハ

ものはなる。 ドコヤ能言メイタルド

ものはなる。 タシヒヤ筆法ヲイフナリ

ものはなる。 ソコトモナクケヒキアリテ香マギフハシタルナリ

ものはなる。 ソコノ心ヒクリナヒ定リタル世ドリクマドラ ヒヤヤヤ サミナダメ

ものはなる。 下チライフナリ カクノミジュク

ものはなる。 前栽ナリ

ものはなる。 タリ 人デナキ

ものはなる

ハなくもげるとは　ありてふぐらふ。此女馬以ニヒビクシ　万端美心ニ随順心深キ
そてのくふなどきて。　女心馬ノ以ニヒビキ表ヲ又
ナヨビ行ナリコノ女初ニヌヨシカリ〳〵シクナツカシカラヌサマ
すりしヲ男ニ隨フヲフカキ故ニ次女ヲナヨビカニナシヒヨヲ
身ヲツクロヒツルナリ次ノ詞ドモミテミルベシ　笑万端
美ノ心ニ隨順心深キナリナヨビハ和ルベシ　モ
トキ笑クナル方ノ女ナレバ馬以ニヲユミヲモ心ニ多ハシト
思フマニ〳〵ヨリ次ノ詞ニナヨビユクナリ
うるきくふ　外人不見見應笑文集
他人ニスガタヲミエバ男ノオモヒブセザラムトナリ　後撰春
ヲカセドモ老カクレヌコノ春ハ花ノオモテセフセヅラナリ

なくもたつくらひ。　外人ナリ
おもてぶせ　ソノ方ノ
ふぐりとぞて。　容貌ニ
みさをぶふとそつた　身ヲモチヲスナリテ

ふんもんくび　ホメル詞ニ
ふくさとうなむ。　ワルウモアラズ
ふをそ　上ニ出ギサメルハヤウナン　侍ニアル三應ズ下モ女モヲ
ぞの　馬以ガオヲカガヒナリ
あちぐるふ　ヒヒト
ぢとるひとなる。　何トゾ
うで　徴ニ　女ノコルホドノコトナリ
ぢそて　コリルクラヲ

ぢりるくし　ダニ詞ノ説モ語ニカヽズ物語ニテハ
只ツテサガナキニテ俗言ニチヤカマシイトカヽリサテコノ方モ
サガナサモトイフルニツノ如ノ間ユメビドモカヽズサガナキ嫉妬
ヒテサガナキヤビツヲ〻ニ嫉妬モナノメニテテサガナサノヤウ
サテヤヤヒト思ヒヤムベクセヒト思ヒナリ
ずとふ〻〻るぞ　笑　此女嫉妬深クテ忍ビ心ク
ツロギモナキ故偽テ退出心ヲセヒ女ノ心ヲ改テ嫉妬ヲ
モヤメムカ夏夫ニ肖カヌ間見ヲモ肖ガヒナリ　女ヲ
コヲサムタメニツクリテスルコトナルヲ実ニウレシト思ヒコトク見
セテノ意ナリコノ処ダニ詞ノ説イビキヒガコトリ

ぢがとふ〻　引　形遠文選傳ハ四九ウ　古語拾遺
こそ鈴女命　古語天乃於須女其神強悍猛固故
以吾名今俗強女謂之於須志此縁ナリ　久露
ニ人間モタテオズマレカヒヲツサリ　東屋物ツミセ
ズハヤリカヒオツキ人ニテ深冊ニヲシヒオズカンヒキコヲ思
ヨルナリケムカしだとナ女ノコニテ右ノ意ナリ
かぎりとなりもく　かり嫉妬ヤマヒ中メヒビ
我ト中ノコヒヲトオモヒテ中絶ムトオモハヒ嫉妬ヲ
トヒナリ

人なみ〳〵ふるまひ　孟宗　オトナビントハ官位モ昇進シテ人々ヒトモナミ〳〵イヨ〳〵アヒオモフベキト女ノ心ヲトル儀ナリ

いひそし　言毀也イヒコヽロヤスシ殺ノ字詩ニモ愁殺惱殺ナド作リ　紫家集ニカヽリ思ソヒヌベキ身ヲトイタウ上手メクカナト去ケル人ヲ聞テ「ワリナシヤ人コソ人トイハヾカラメ自身ヲヤ思スツベキコヽロ思オトシメルトイフ意ニキコユ可考　宿木三ハ　ヒキタガ（心エヌマデヨノミソし）玉ハルカト

ゝ〳〵しくおくゆかしげなるさま　人ナラヌコヒナリトイヒシ前ノ詞ヲウケテ去リ更ニ人ナラ〳〵ナルベキヲマツニハヤキトナリイツカ実法ニナルベキトマツニサハアルマジキナラバ別ルベキトナリ

おとゝひなりて。　嫉妬心ニヒタヒ　たらせるぶ。いあれと

なあ[illegible]ふるまひ。　（人ガラシタ身ノ昇進ヒナリ）

なびすふろうて。　（邪ノ人トモカクモ）

（仮ニ賢ク女ノ人ノ花ヲラメルル意ナリ）

（細ツヨノイヒスゴスナリ）

（去長ズルナリ）

（官位ハオリノトモ必ズ）

（心ヲツヾし）

（思ワヅラフニ同じ）

（カニシテ）

（好色心ノ）

（匂ヒ）

（馬ノ）

（アラム）

（ユク末遠キヿニテソノ方ヿハサノミ切ニモオモヒレザルヨシナリ）

（落ル花心シタヲ、歌詩ニ）

（隠ル石ナシ）

（イ有）

（義ヲヨミイナリ）

（ソヒヒマシテ）

（女詞）

（ニガワラヒ）

（其方ヲ待ヿ心ヤマシヤスズナリ）

（見ヒ）

（見トヾムト）

年月をつもりぬ。　（細注ダガリ）

なもあるぬ。　（キカレバ）

みふるまあるを。　（アテドモシヒタクミミヲヤブ）

ゆなりて。ぬ[illegible]ふ。　（ネクマシゲニ）

しはるふ。　（可用シ）

（マコトニウクウ）

（馬頭　細前ニコノ馬ハウ馬ヲタマアリシヤマミヤ実ニ立馬スルニ）

（コリナシトカネテ思ヒニタガハル故ニ）

時節至ル

ツノフセ

ろをひきすせてくひて待を。　（馬以ギヤウサンニ）

しゝゆうちて。　（カヤウニ片嶋ヲナビヨブヒヲナトシ）

（モトヨリ下道ハ）

（イヒシガナシテ）

（タラ）

朝夜ノ交ヒ

いよくまちひをすぬきふしあるべきをろし

（外ヒシヒシ）

（恥辱ヲアタラシトト）

（上ニミダレナクモノゲナキホトヨヒシト）

（女ノイルニアタリテイフナリ）

ゆんるふ。　（見モゲナキ身ノ疲サヘ付ニスベイト官位モ人ノクマジキトナリ）

つうを位いとゝ〳〵なふにつなて

（心ヲツヾし）

（ヒトシ）

（ナホサラ）

あいおぶみ　凡テコノ詞ヾイヤニアラヒヒリガタキ行末ノヨソウキマ（モナクタノミオモフナリ　ダシ詞ノ説イヒヒガコトナリ　又　弄花　細流　ニヒヒ　頼トアルモタガヒリ　桜ニあえるく　あえう　ハリモノナイ、キツトヒヲ、キツトメカヌ、ハリノナイ、あやうく　コモ同じあいるく　あいるく　ハリ　ミモコヒリ　又去　アヤナダノミニアヤナハイトアヤルフアヤ、事アリゲニハツキリトセヌナリ

くるみふそむきぬ。　前ニチギリフカクトモタエテ又ヒヒカヾリトオモハヾナドヽイヒシヲウケテイフヽ我モ嫉妬ヲエヤムマジケヒヾタガヒニワルベキヾミヾヅトナリ

およびしをろ　和名抄　指由比俗云於よ比サテ五ツノ指ゴトニ何ノオヨビトイヒコトニ手子指　古於よ比アルカラハ凡テノ指ヲオヨビトハイフナリイヾヒノ指ヲクヒヒモアルベし

五文字ハ詞ガキノヨビツヾメラトイフニカケテこんでし寄心ニテ折テ達てし中ノヤキブしヲガツフバコレノミナラズサマ〳〵ナリしトんカ伊勢物語ニナヲトイヒマヨウハ「こケリ」ノ下ノヲ文タルナリちゝ

ハハ只ヤノ意シヤトカヾギヲヤハトイフ例多シ君ガマキフしハ女ノ馬ノ仏ヲウヒトオモフギキフしナリ一首ノ意ハ指ヲ折テ逢ミソメシヨリコナタノ年月ヲカゾヘテソ間ノフヲ思フ君ガ我ヲウルオモフギキフハ只此度ノフしノミコソハアラメホカニハナシトナリ次ノ言ニカラミジトイフモコノ意ニテコソメしカナ注ハアヤマリナリモし四ノ句コしノナラズノ意ナバコレヒトツカハトコソアんベしヤハトカヾギ語ニハアラズ古人ノ寄ニサヲノウタヲキフハナキナリ・此ノ説モ必ナビガタシ

於カラキヤワヒハクメノハじブクアケユクホドハモノヲコソオモフコノヤハニオブじ

按ニ串ニ四句コしノナラズノ意ナバゴヒトツカハトコソアんベしヤハトイフベキ語ニアラズトイフハ五四ト句ノ折カしテヤ心ニシテルル誤ナリニテトマリテ下ニ意ノアム格トミルトキハヤハニテ能調ノリタナキフナし

何ニヨリテ人ナラヽニナラムトナリ

万水 今ハトセイスルヨリ外ハアラジトオボシテ云ルナリ

出ル波ハ世ニそむさめるあさ汐なあり出ル波ハ世ニそむさめるあさ汐なあり

カタミニソムキヌベキトカヒニヨコリ世ヲソムルベシバナリ

女ノモトヨリ出タルナリ

ナヲ

ソ外ガクアリノ意ナリ

今ハ女モエウフニヒト馬仏ガイヒシナリ

ナヲ

ナヲ

ソカヾモチニアラーメバ

馬仏ガ心ヘ

ナヲ

ハヒ

ソンジラマタ故

ヤウス

カヤウノ事ハ恪ミウヤラト志ビナリ

ヒタル体ナリ

ハツカシクチモナブタ

ミシナ

ヨモヤ

ミジトヒ

花賀茂臨時祭調樂十月十日於北陣構假屋有儀式有饗膳初不参 祇臨時ノ祭トハ北マツリノコトニ十日四日ナリ調樂ハ十ノ日ナリ

大内ニアルコトナリ

笑字多天皇ノ御代ノ年コノ儀アリしカバコノ物語ニ立代ノ祭ナリ仍テコノモカダリニスルモナリ殊ニ延喜四年十二月廿三日因而雪着深履之ヒノ物カダリニイミじウミゾレフル夜トイフルコノトキノオモヒデナリ コノ説例ノヒガ一ナリコノ文ノ中ニ神変佛事イトオボシ皆字多延喜ノ時ハジマレイフハイトクオロカナルコトナリ

そぐらはもくや コヨヒノサムキニケしキバし肌流ルアタリハトケガタクテゾロハしリオムカムトナリ

ゆくすゑ思ふと サムキ夜ハ心安クオトケテヌル処コヨヒケし思フカ女ノ恋しク思ハルカフケキヲミガテラ行ナリ

ふるさとで 兼花文ニカギラズ詞ニテイフヲモ悄息トイフ

せくそこもつうらうらびあくがれすりありく 自ユタヌガリカ

調樂 奥ナラヒナリ

「ふるさとで」ふるさとのふるのでらのかく

方ヘノ女ノ詩ニ過ニアリシ〳〵アリガレトハカヨハトオモハヌヨリ離レシガヒナリ

馬仏ヨトマルキヨヌカ処キナリ

子供ノハツアガリ年アリノアガリ

五遍出ス 同分散

ソ夜サマ余情アんベし

ふるさと。

ものもんじのふるのでらのかく

ものもんじのふるのでらのかく

ものもんじのふるのでらのかく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いくつなびきて　細　女ヲコラセトテ馬ノ
熊ノヒキテヨリツカヌ人ナリ　於　ヒキヨセバダミ
ヨラデハルコマノツナヒキ　スルヅナハタツトイフコ奇ミテヤク
ナリ

馬ノ心モトノマニタノモしカラズバ堪忍スベキナリ
ありくんなづ　エ　ソイハテマイ
馬ノアダ心ヒギヲ改メリ　方ヘウツスベキヤラシダミオナツクラ
ほどふねのひなづ　市目ニカクラウ
さるぐいひ　モノソ　マツイフタリトモ
馬ノ主人ステシ思ヒジオナツコラサレトテ改メトモハサリシ
えはのひまるみどとはし　ヒカ
むもいくべ　トオモフソ
古引ヤコムアヤユヤム　ヒツリアフ
万引しクムユミトモアリ　ダミ詞ニスバリアフ体ヘトカルヨシ
うば　ヒヤタクヒモアコトニナリテ身ソサムルトカ如ク
コラサツノカリコトニスギテヒヒクナリ
女　導　ヒツリ
示古引りめ　ツ　ヒ　ヒ
ヒキ　ヒ
ヒ　ヒ
ヒ　ヒ
ヒ

世の廿二オ

意ハキコユルナリサテソノ會ノタル意ヲ受テナルヨリト云ルリカタキセヅトハ妻トスベキ女ハ何ゴモタヾハデアシカルベキワザナルヨリテサヤウノ女ハアリガタキ世ノ中ニテ定メカネタリトヽヨノ外湖月ダミ詞ナドルナテ意ヲアヤマルニヨリテヒガ〻多シカ女早クウセテ契ノ短カリシヿヲ難トシテ云ルモダガリスアル註ニ嫉妬ノ深アリシヲ難トシテ云ルモノカリコハカ女ノハモハラホメタル外ニテ難ノ方ヲ云ル外ニテスベテ定メカネタリト云ハカノ女ノ如ク大方何事モタラヒタルハ有ガタキセイ中ナル故ニ定メカネタルヨシナリ次ノ詞ニ云ハシ玉フトアルヲ以カノ女ヲボモハラホメタルニテ難ノ〻ヲ云ルニハアラザルヿヲシルベシサテ又湖月ニ世ニ定メガタキモノトイルモイミジキヒガ〻シ定メダタキハ女ノ〻ニヲアレセノ〻ニアラズツヒノヨルベトモ定メガキ女ハ有ガタキ世ノ中ル故ニサダメガタキトハイヘリ

○秀ルニクタキ世ヅトハ云ミトイルヲ思ヒカルル心モアルモノ故ソウウタ女ノアリニクイ世ハ定メカネタルヲイトハ云ルニテソレナ女ニタヅネアリタキヨシナンベシ

みきゝ初りは待き　見ハヨミタル哥ヲキキタルホトヽヲミルヿ間ニ琴ヲヒキタルヿヲキクンコレラウザタヾ〻シトラザルサマニ馬頭ノ見首ニテ手月ッワタリコレト云ナリ

このさぶろうの　或云ル子ノトヲヾキヲ

このトイルヿタシ心得オヾシ哥ニコレヤコノトヨメルモミナコレヤカノナリ　後ニコレラ皆コノ云ミ辞ノカケ処ノクヾシカラヌヨリ出タル説ニテ

さるうてはりてゝきいさらゝ　師ナヤヨヨキ女ミヤキヒリヨヤエヒミヤハヤクセモシブ世ハサダメタキ

世ハ世でくるとぶ　世ニテ

ヨノ女ヲ〻

サヤウニウロフタ女ハアリニクイ　ツヒノヨルベトタル女ナ

土段　馬ウ詞ニ又物語ヲツヨキ出スシ木枯ノ女ノ〻

アハレヲ人ヨ玉フナリ　馬ウヨイヒヤシ催シ玉フナリ

コノ方ニハヨヲアラスルナリ

本妻ヨリ種姓モ勝レタルヽ

人ミシニヨトニ疑アルヤトミエ　ヨキヤマナリシトナリ

ゆゑありと

琴　哥ヲ　琴ヲ　ヒクヿナリ

哥ヲ　琴ヲ　ヒクヿナリ

琴ヲ　ヒクヿナリ

歌　哥子　琴　聞　見

ワチゲナル相應シ

○万ニ事無吾妹トヨメルニ同ジ

ヨヨツワタルベシメタヤモヨシキ

ナンセナ外ノ

細　指クヒタリシ女ヲ本　墨ヲ引ナリ

指クヒイフ

ヨヨヤキ処ニテ

ヨヨツ道ノタヨリヒバヒ

ツヒヒ

ヨヨ道ノタヨリヒバヒ

ヨヨ道ノタヨリヒバヒ

ヨヨ道ノタヨリヒバ

この女の家ちかく　タヽいもマタヽ大納言家ニユクミヨノ女ノ家モマタ通ル道ナレバトヽ大納言ノ家ニトマリフトヽ女ノ家ノ女ヲヽトマク語ノヘコヒリ

いなばぬる　孟古「吹ル」ニアウラヘツクルモノナラバヨノ一ホハヨギヨトイハマシ　万十ノ三　崗前タヽメ道ヲ人ナカヨヒソアリウモ君ガキサム曲道ニセム　万七ノ廿　神前アリツモミエズナニタチヌイウツユカムラ　月ガ出ヤラム　何　於イ「ヒラ井ニモ」アヒタラスヌ月ダミワガヤドスギテユクトキナシ　伊勢集　参議玄上ガ妻ノ月ノアキ夜門ノ前ヲワタルトテ消息イレテ侍ケレバト詞書アリ

はりはぬる　馬以車ヨリオルナリモシ上ノヨヒモミノ語ヲ殿上人ノ語トシテ〳〵ヨコヘカケテ殿上人ノオルコトヘ上ヨリツヾキカナハズ

[illegible]　何　催馬樂ニアスカ井ニヤドリハヘシヒヒカゲモヨシミモヒモスヾシミマクサモヨシ　花　アスカ井哥ノカゲモヨシ水ノ上ノ蔭シミモヒモ見ルミマクサ馬ニカ馬柵ナリ　[一説飛鳥井ハ京ニアル清水ナリ二条万里小路ニアリトイヘリ]　イガ、大和四飛鳥ニアルニカケロウ日記ニ見エ　カゲモヨシ水カゲノナルヲ月カゲニトリナシタルニ又花説ノコトクニテハ殿上人ハイツオリタルニカオボツカナシ　モシハ主水ノモノニテ呑水ナリ

木枯女ヨリ

女の家　モマタ串　大納言ノ家ニユクニ

[illegible]　伊セ物語　童ノミアケタルツイヒノ崩ヨリヨヒヒケリ

[illegible]　女ニアイモヤテヒキレド　イカニテモヨヒクテ

[illegible]　馬頭ヨリ　車ヨリ

[illegible]　トコロガヲ殿上人カサキ行テ

男いくもり　四ツヒロミサリテ　アヒシタル作ナリ

ねふさまを　腰カケテトヌヒ

[illegible]　ツヒロミサリテ　無端

[illegible]　絳ノヒナラズ　ヒハヒトイフヒヒ

[illegible]　万ニ時ヲヒトヘニ去ル夕シサテ時トテハスコヒナラネドソ始年月ニ三ヒテ一時ノ短キヲ去ヒコリ後世暫時トイフ如クイトヒヒアリホドナキヲ三年リ　今モ時ノ間ニ三ヒ、ナトイヘリ

[illegible]　厳上人　ウスノ体ヲミテ馬ヒヒヒ哀ナリ

みぶまたなど　ウスノ体ヲミテ馬ヒヒヒ哀ナリ

[illegible]　厳上人ノ笛フク

[illegible]　コノアスカ井ハタヲフヒヤドリハヘシノコロ　アトルナリ

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

殿上人

琴乃とる

示雑面人ハエヤハヒキトメ玉ハルカヤウノヲリフシヒトヨコヨタヅネ参タルトナリ

つれもきく人をひきややらんとら。わろをりもがい

琴ヲ所望ヘエナリ

ひて。琴ヲ所望ヘエナリ

ひきたくろひて

なのらいめ。そもそもなど。いくらうわるきなり

殿上人ミブタフノコシ

ヒキタマヘキハヤサズヒル人ニカハ云ん

五サビビナリ タハレヒルン

ヒヤラウキ

ごえいごう カイ

木枯女

男ハコト人ノ上ヲ云ハヲコノ殿上人ヲコヒトマル、ヒキトメム調モナシトトリナシタル口ヲキタドクシヒラスナリ

木枯ニ比ブベキ世モナシト云詞ノヒタテナリ

ヤウス

琴ノ無用

ことの

琴乃とぢ

琴ノ無用

琴乃とぢ

琴ノ無用

琴乃とぢ

琴ノ無用

問のまゝふ　細　頭中将ドノ心ノマヽナラバアヤウノアダナ立ヌヨウノ面白ク思シメサメトシ　ヲ説給リ

[illegible]世のマ数　示　川寄ニヨヨバスタベアダナ心ヒンデシ只心ハウクシクヤヅウヨワ〳〵トスルサマノ人ヲバ心ニハオボシメサムノ心ナリ　河海ニ立ヲリテシバ落ビシヌベキアキハギノ枝モトヨク〳〵オケル白露ヲ孟円コミ今ノ着ヒケル何ニアルカトソヒガクシ

なゝ[illegible]ヲリのほゝふ　馬以源氏ヨリモ七年バカリ兄トイフ義カ只七八大数ヲノゲテ今チト年モヨサナリテ思シリ玉ブキヨシ櫟樟ノ七年トイヒテ久ノ木ハ七年ニシバ材ニナルヲ儒者ノ秀才ノタトヘイリ万ノ〻限アルバ三年トモ七年トモイフナリ

[illegible]　好色スギビキヤスリアダ〳〵シキ女シタワメルハ心ツヨカラナリ

あ[illegible]ちしてゝ[illegible]人の　武州アヤマチヒシトハ女ノアルマジキアルマヒシテ世ヒミ人ノ名ヲモタヌベキモノナリトイヘリ

[illegible]ぐ[illegible]ばゝ[illegible]ばゝ[illegible]ぐ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

みしぬやうにてー　細　タノムシツケテ恨ムベキコトヲモウラミデコリアレ　怨所アルナリ

ゆめのよ　ハイツモクノ意ナリ

もてはやしむ　心ハウラメシト思ヲタフマシミテソノ色ヲアラハサズマウエオシハカルナリサル故心ノルシキナリ

くるしかりしかば　細　コノタ負ノ上ハトダエノルヲモ恨ルヤウニモナリシヲシヒ、結句コロガレシキ。也　ウハウラハカクイツモノゴトクアレシヲドモ何トヤラム隔心アラムトオモフカラ中将モ心グルシキトナリ

細　女モトユリマニラナタノムトナリ

さぶらふなるべう　ちらるるさしそえをき。

（紙イ）

（万）

（万）

（万

[illegible]

夕顔 [illegible]

[illegible]

夕顔 [illegible]

[illegible]

頭中将 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

あまとこのタひつる　馬ひに對してイル詞シエ
ミモハヂとテ恨イズギコヲモミレラヌサマニシビテノナドイビレ
コトシ　打立ベ見ハナチタルモネ　ツガヌ舟ノウヤタルタメ
シモネ　是等ヲ云ナリ

つまとろうてけ〳〵しと　細色ニハミセズシテ女
ムツビシトオモフワヒシテアスシト思ヒ蓋ヤカタ思ヒ

あく〳〵ぞ〳〵ぞり〳〵　タエザリシモトイフコオ
ダヤカナズキエメレドムラズ上ノ女ニミエタル如ククシテ後
マデモアシト思フリタエザリシヨシ下ニ今ヤツムビテネニトアルベシ

やうなるゝ〳〵ゆかし　コノ片思心エアリ実ニ片思ナニヨリテイフニハアラズコハ我ヲバ源ク恨テカクシウセヌルホドノ女ヲコノ方ニハナホタエズアシト思フ是モタダ思ト云モノナリケリト一種ノ片思ニツクリテ云ル詞シ次ノミニモヒハタエシモ云ハトアルヨモテ実ニ片思ト云ハアフガルリ　こんでし

あまびこ　或物流浪
あまびこ　遠境ノ流離
ツヨリ　オチブレル
ふ　細ワガシノトダエオクモ恨ルヒヤナラバオヲヲフサルノオダヒサキクアノ向ベキトナリ
ツキヤ　マリサクシタヒ恨ルコロナリ
ふ　カヤウニウシ出ルヤウニハスマヒキトシ
ふ　ツキマトウ
ふ　タ負ヲ以中ノ思心ヨリ
ふ　ツキ
ふ　ツキ
ふ　ツキ

[illegible] 花見ハトリナズ見ルニイヅレモ心ニ所ヲ得ズバクヅクシキトナリ 弄 世上ハダ
コヲタカナタ心ニカナハヌトン
終すべきうたいのすがたなく 師方〜品定人
ハジメ女ノコヽロニモト難ツクマジキハタラクニ有ルトイフ道理
去禅天女 帝釋ノムスメ端嚴ノ天女ニ最勝
王経ニアリ示世間ノ女ノイヅレモ心ニカナフウチニハ吉
禅天女コヽカキリナク待フメト思バ又佛法メキテクヽ
タルカタニハ又モ又心カナフマヒキヨヒヲイリ
異霊記ニ聖武天皇ノ御代ニ信濃国ノウバウヨガ
和泉国ノ血原ノ上山寺ニキタリスメルガソノ寺ニ吉
禅天女ノ像ヲ見テ愛恋心ヲ生ジケルガ天女ノ容
ノ如ナル好色ヲアラ〜玉ハト毎日六時ニ願ヒケルホドン
アル夜当寺ノ天女ノ像ト交合ストシケルガアル日
ノ像ヲ見シバ裾腰淫精ニケガレ玉ハリトヲコアリ 又
狭衣物語 一上五ハオ又ヲルコハナヲリツルモノヲイカ
バカリ九吉禅女ナラム
ほ〜げづき 寛松中納言ノ物語ニ色カラブ
メナドアマタカサネテヤワヒ玉ハイウ〜シヤウブキタ
ラムヨリモナマメカシノサマカハリホケツキタウトゲニ
ヽ

とりアさも 中上ムトイフホドノコナリコノ物語ニモ
他ノモノガタリニモ所々ニエタル皆ソノ意ナリイタク
シヤマヒタル処ナレドモイヅレ浮舟サオ女房ニ物トリ申
サムトイハセタレバトアリ
すぐれたるの生ふ 師況 藤式部ヲリシ
時ノコヽヲタル詞ナリ文章ノ生トハ大学子儒ニテ学子
問スルモノナリ三十人アルヨシ職員令ニエタリ 巴物
式ア省ハ入テ文章生ニ九儒者初学ナリ地下ヨリ
ウリテ学ブ者ヲ〜〜〜〜 細 前ニ朝夕ノ出
入ニウケテモ公私ノ人ノタヾズマヒヨキアシキコノヽモ耳
ニモトマルアリサマヲウトキ人ニ態ヲチマネバヤハトイヒ
ヤウニナリ
さえの弘 ザエハ才ヲナノ音ナレドモ物語ニハ戈智ノ意ニハアラズ俗ニ学ナ問ノアル学子問ノナキナド
イフ学子問ノコナリきハ分際ニテ学子問ノホドヽイハム
ガコトシ

真実ニ ソヤクフジメナオソクサイフガアルモノカト云意
ハヤクタリ申セトヽ
ドレナコトアルモノカ
全ニ人ハトイフモトウリアヨヤニ人心ヨトリニ
何ナトトリ出テ申ナトヽ式部ガ心
ミケヒキルナドイトルニテ恰言ニ何コ
トヲ御意ニテレマセウソトイフ意
十六段藤式アカ物語
女のさえ 功者テ
功者ニ
ヨウキトヾキ
ノ玉ハルトイハヌニヨクヽシ公達ニアヲシとこバし
ウヤウムトイルニカヒこんぬ
是ヨリカ女ノマリサマヲイフナリ
馬頭の 上ノ玉フヤトヽウムトイルニカヒこんぬ
ノ玉ハルトイハヌニヨクヽシ公達ニアヲシとこバし
学子有
モノヒリ
学子問ノホド
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド
学子有
モノヒリ
ナマジケノ
ヨウキトヾキ
功者テ
スヒデエク
ノタテヤウ
学子問ノホド

ほぶ。あるごとのおもはぬごとおぼうりと思さ
まして。たちるきつひでめいひりて行をゆや
（チヨウトシタ）
師是モカノ文集ニ主人會良媒置酒滿玉臺トイヒシ詞ニカヽ
こゝはあてさうづきそてゆて。両道ヲウナ文集ノ詞サリ
ゐこゝふをおけとなゆをえこちたゝ
（イヒタリシトイフヲリ）（テエルヒニ）
をこゝちとゆてもまゝこゝのゝ物ナ習フ師ル故ニ親ニウハンドシ
アヒマリ
はぐかりて。さ
（サウハヒツヤウシテ）
ユリサウシテ
あゝをふゆをひさしろをぬぎゆんのかさらひも
女ノ式アヲ後見タルナリ
多乃ごえつよ。ゆゆやゆふつふゆつるゝきれゝ
しきを祝をしゝゝ。假ナリマジ文章ノ名ノミアルヤウニ又續シ
（假ナリ）

おゝをれゝ　花ハ詩ノ心ヲ作文トイフモ詩
作ルコトナリ玉屑ニ折腰体トイハヨキ詩ノ体シ今ノ
コトニアヲルベシ哥ノミモコヒヲレウタト云アリ　細コヒヲレ
哥トイフガ如シ折腰体マデハユカヌコヽ哥ニコヒヲレ哥ト
イフハワロキヲイフヲ文ニモイヒシナルベシコヽ文ハ詩ヲ云ヒ
詩ニ蜂腰体トイハ哥ニイフコヒヲレヒヲ哥ニコヒヲ
レトイフモモトヨノ蜂腰ヨリ出ルコトナリ紫式日記ニコヒ
ハナヒヌバカリヲヒガメタル哥ヲヨミイデヽトアリ
さゝ　妻子ニテコハダ妻ノヲイヒリ古今ノ
哥ニ世ノ中ヲイフ山ベ草木ヤ花トヨメルモ世ノ
花ハ水ナヲ草木トイルト曰ヒルキノ言ヒダヒ詞ニ
ハ九ヲイフ詞ヲトヲルハ心得ヲ
假ナリ川ヲ音便ニ川トイフヒ川トヨブハ川ヲ渡ルヒ
（万ナシ）
ゆをとゝ
ゆをとゝ
ゆをとゝ

もりたゞ〜くちぶり〜とうつら〜も　女ハキ智ナクテ心ヒラヌユエヲイフナリ愚痴ナル女ヲハタナシロヲトカツ〜ミガフモロハツノミメカタチノワガミツキ縁ニヒレテナドアヒソフフモアルナレバトイヒラ女ノキ学ナハイラヌ心ヲアクメタルシ去トコノ下ヘ女ハサノミ学ナ問ナドハナクテモアルベキ物ゾト云意ヲアクメタル證ナリソノ上ニハガ〜シクシタタカナル御ウシロミハ何ヲハセサセ玉ハントヲルニテシカキユエ

たの〜〜しなるし　男ニモ子細ナクヲ大ヤウナル物アルモノヲ女ハマシテ文学ナイラヌモノブト心ヲリ子細ハ物ノコマカナル心ナリ子細ナキトハ大ヤウナル一ナリ

紙　男ホドヨキモノハ侍ラズ心ナリ　細　女ハ或ハタシロヲシナドヲモヘド宿世ニマカセテアヒ男ハ子細キモノトシ云ヘ　大方男子ハヤスキモノナリトヲシ　五男ハ身ガ持ヨキトシ　箕　此段ハ思惟スベキヨシアリ

子細ナキトイフ心得ガタキヲ上ヨリノツヾキノ辭ヲ以テ能考ルニ何ノ一節モナキヨシニテコハ学ナ問ナドナキヨシサアルテ意ハ世中ニハ男ニテスラ学ナ問キモノハ侍ルシト云ミテマシテ女ハ学ナ問ナクトモナデフ〜ウアラムノ意シ　諸說ミナ子細トイフ〜ニナヴル大カタノ心ニアハズ

ちゝのわりゝゝと　俳優メキタル貌シテ

西宮記ニ右近衛内藏富継長尾末継善散樂合人大咲鳴呼者也〇もじニゴルモワロシ

〇必ずぶる　え真庄ウ　詞音ニ久シクコヅストテアスベテ出ヌ人ニ真木柱ニ　ニクゲニアスベウラミナドシテトアリ

（アレク去ナセドモ実ハ思ヒマキタルカマサル）

すくせ（イニエニ）のいくうゝ　侍るあめ　（サマヤアルモノニカヤリアルセテセワニカテ子ヲ子ヲ子ヲ

コトタラヌノイシヘヤトオモヒケヤトリ

式アハヤミゲラユクスヱニコヒダクノイヒテヨクキカセムトスルナリ

「ワカセガグヤヨヒナリヤガニノクモノフルマヒカネテシルシモ」細コノ香ラセナ時トイフヨトガテイルナリ我ガギヨヒトモマタスシテ此香ウセテノチアルハ若アラマクワケーモヤ有トイヒクルシ蒜ヲ重ヨセタリ示同

いうるるこつけ　表題或日ソ、ボケテイカルカコウケゴトモルマスグセト宣ブトイヒステ逃ルナリ

細不断立フ中ニテアラバ昼間ヲマテトモイハスアフヘキヲクマサカル故コカヤウルトナリ面白歌ニ夜ヲ中ニアラバ昼間ノタイメモ蒜ノ香ノスル間モ何ヲオモフハユノハヲカシカラムザバヤリオモハレヌ中ナレバタクハツマシトナリ

細コノ香ラセナ時

万ナ

ヒヤナニマシメトガリ出テナリ

女サビナリヤ

コトノタラヌヤウニア

女ノ詞ナリ

藤式アタラヌヤウニ

ヒヤナニマシメトガリ出テナリ

イメルノイヤシキドクデ

只ニモ心ニカケザルニシテ香ヲスソヒケムハヨウ〳〵ウルサクテトナリ

イフトカリ

ハツトシタ

廉

モノゴシヨギタル歌

セニクタクテ

シカタガナウテ

ミデマヨコナリテノ心トメニテハトノ心ニナリ

シルザクラニデヒタクナメツキ

藤式アマツノ

ツレガキヤウナ

蒜元魚用

ヒルノ肉

五曲モナキリ

セツカキテヒモナイヤウスヤツイ

古ハルノ夜ノヒヤナレノアキリ

追テアトヨリ人ニ追カケセテコノ歌ノルシダシ詞ニノ女オ出ラトスルハヒカ一ナリオモテハ自ルナンデモアトヨリ物スルヲ例ヌヨヤ

女返哥

夜

蒜

昼

細

医学ナドハヤクセヒトシ

モシカリテトルニモタエバオノニモタヌ

弟式中ナドヒルヒルコトハ

アウムンベナリ

ハツトシタ

細

上ノカタバハノハニテ実ハ世ニシ

タタリ出クルナシ上ノ景ノアタリ

ヨシトハ見分スベシ

オチイタ息ア

ヒヒヤウニ

ツヅアラウ

アラウ

七段

サマアル女ヨモアラジトナリ

ヌ

アラタヅネテムモ又ヒトリ

列ナリ

ノ列ノ

ノ列ノ

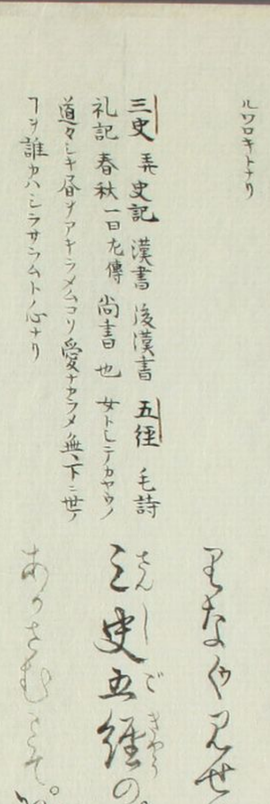
ノ列ノ

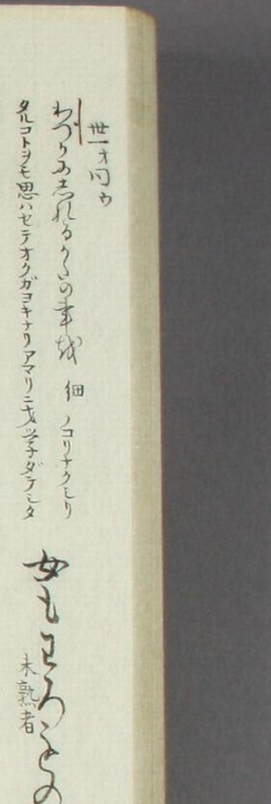
わらはべ　細ノコリナクシリタルコトヲモ思ハセテオクガヨキナリアマリニ戈字ダアニタルワロキナリ

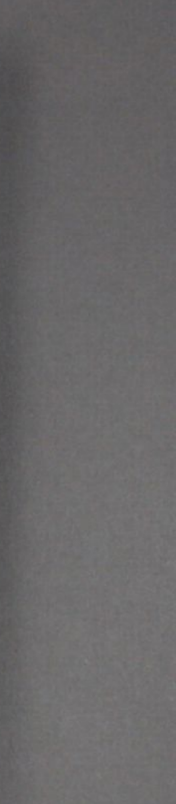
三史　弄史記　漢書　後漢書　五往　毛詩　礼記　春秋　一日九傳　尚書　也　女トシテカヤウノ道々シキ昏ダアキラメムコソ愛ナセラメ無下ニ世コヲ誰カハシラサウムトノ心ナリ

わざとなく　オホヤケ私ノコトニシケテワザク習ヲハネドモ又カドアル人ノヲトメ目ヲトムルホドノ女ノヒダミモ自然ニオホヤケ〻サヤウニアリトテ又女ナドヲ真名ニヨキナドセムハアシカラムトナリ　コレハ淮戈アル人ニテイフ紫日記ニ兄惟矩史記ヲナラフ式アハカタ〻間居ヲオボエタルヨシアルガ如シ

そらすまふ　紫日記ニ人クネミ侍ルヨリテ一トイフ字ヲモカズ深風ノ字ナドモエヨマヌサマニセシヨシアリ自ノヤウニヨリカク昏タルナリ







うれたくる　今俗ニスクメルトハ縮メルヲチリホヒ縮メルニテ音便ナリサテ物ヲ専ラ多ク取用ルヲ花ズクメ玉ズクメナド云ガ如コヽハ文字ズクメニ昏タルヒコハ右ノチヾムヨリ轉ジテソノモノ一所ニチヾマリアルヲイフナリ

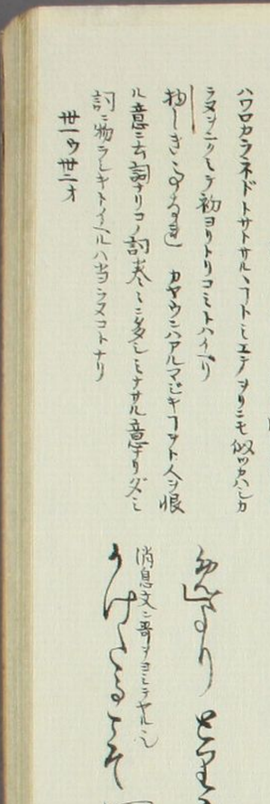
イニスヽメトアリスクメハコヽシヤ体カ女ドチノ文ニテバスギテ真名ヲヨキスクメタルナリ

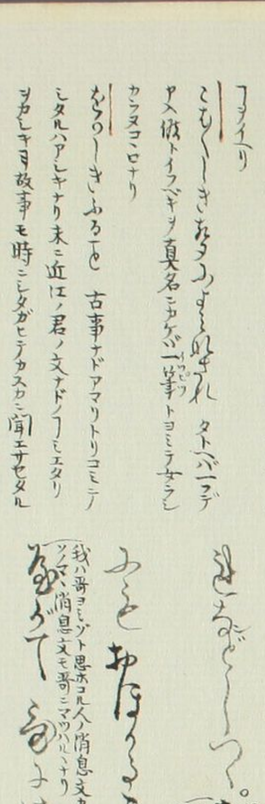
らの人のゝたまふ　此人タヤカニ文ナドヨキタラバヨカラムトノ心ナリ此タノト昏タル本モアリコカタモ文ヨキコトヲイフナリ

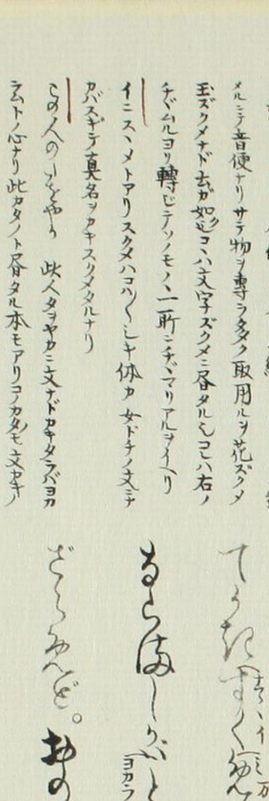
こもゝしきなるみふすまの　タトヘバ一フデアル人ガトイフヲキヲ真名ニカヘバ一筆トヨミテ女ニカラヌコヒナリ

をろゝしきふること　古事ナドアマリトリコミテシタルハアシキナリ末ニ近ヒノ君ノ文ナドノコトニエタリヲカシキヨ故事モ時ニシタガヒテカスカニ聞エサセタルハワロカラネドトサトサルヽトシエテヨリシモ似ツハシカラヌヲシクシテ初ヨリトリコミトハイフリ

わしきこゝろ　カヤウニハアルマジキコトト人ヲ恨ル意ニテ詞ヲリコノ詞葉ニシ多シミナサル意ヲリ父ニ詞ニ物ラシキトイフルハ当ラヌコトナリ







五月の せちゑ　五月五日ノ節會天皇アメノカヅラヲカケ玉ヒテ武徳殿ニ行幸アリ内弁外弁当寺郎會ヲトシ宮内省献菖蒲内侍献人漬命鑿ヲ群臣ニ玉フ三献ヲハリテ六府騎射ノコトアリ 何歟原ガコトヲヒケル歟ニ

何のあやめをしぬまひもつめられぬふ　花也

アヤメハアヤメモシラヌ恋モスルアヤノ心ト同ジ出仕ヲ大臣ヲオモフ心ヨリテ其外ノ臣ノ心ニツカヨヘシ

えもゝぬぬ　所只ナラヌ根トホメタルナリ端午ニハ九節ノ菖蒲根ヲ用ヒバナリシトヨリ哥ヲヨミヤルコトヲ云ヘリ（或説ニ艶ナラヌ根トアレドモ只ナラヌ可然カ

九日の宴　花　重陽ノ宴ニハ天皇南殿ニ出御アリテ内弁外弁当寺アリ文人博士ヲ召シテ題ヲ奉ラシメテ各韻字ヲ探リテ詩ヲ作テ文章ノ上ニテ講ズルナリ三献アリテ氷魚ヲ玉フ御帳ノ左右ニ菓蕚ヲ結ツヽ御前ニ菊ノ花ヲ献ニシテ立ツル近代宴ノ儀タエタルヨリ宜陽殿ニテ平生トテ上御以下着座シテ菊ノ酒ヲ玉フヨシオホセラルソヨシバカリナリ云々

ほそきるきいとるゝふのもせ　アルセノ意ガイノ如シ俗言ニユフナイメアスルトモフナリサテコハ五月ノセチニ云ヘ九日ノ宴ニ当テ合テイルミライメ紙内セムトスルヲリカタキ詩ヲ妄スルニ他ハ心ハナラシカメキソレニ似ツアヌイトナレヨセヌルナリイトヽハ因吾ヲアレスルシ云ナリ

ともゝ〜ばし　其ハキナラデモノ心ヨリソノツキナギヲノナラデ後ニ静ニテ思ズシバ面白クアサレル哥ルヲカイソガハシヒヲリニハツキナノ目ニトマラストナリ サナラデモハ必其日ナラズ花ソ日ギヲ静ヲリテ後ニヨミオホセタリキヨルベキ物ノ意ヘオウセラトハヲヅアヤメ根ニ五月菊露ハ九日ノ其時節ニテアヒヨシヤノ日ハスギテ後ナリ此日ヲカシハツカヘ意ニテイヘリ

元日馬踏哥アナルベシ

こゝもとの ゆづと宴ニ特勝ナモノシ

（コヽモトノユヅトヨ宴ニ特勝ナモノシ）

（コヽ則次ニイフ五月ノ宴ノ事ヲマツイフナリ）

何黒白ヒキヒヒワヌナリ（アヤメハソノ縁ノ詞ニモ支ナリ）

（アヤメハソノ縁ノ詞ニモ支ナリ）

（下ノ菊ニ對ヒタリ）

（アヤメノ根ト云ニ恨ヲカケテヨロフツキナレバコヽモメヅラシキセチニ妄ル人ヘエナラヌネブヒキカヘテ哥ルヒヒヲ）

（ノキクノ露ヲ云ヒトテフヒヒヒ）

（カネテヒヒヒヒヒヒ）

（アヤメノ根ノフフヒヒヒ哥ヲヨヒヨヒヒヒ）

（引カヘトアヤメノ根ノ縁ノ詞ニイフヒヒ）

（カクヒトハ九ノ詩ヲ思メヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ）

（ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

日のパ〜きるものなくふ出り　細此モノ字ヲ市型モハテ〜アメモハタルヲトセタリ

サテテコメテイリトモコハミエズヤ

おくとの〜はん　オホイドノトカ本モアリ葵上ノ父オトヾナリ同事ナリ左大臣ノ〜心ニハ源氏ヲイタヽモシテ里スミシタテ奉ムトオボス故ナリ

ふとぐむ。細コノ品々イヅカタニ定スルトモナクテ明ハツルナリ

くらゝあや　異本アヤシキ論ドモニトロく

ゆてゆふ〜日乃ゆ〜さ　細長雨暗間ヲキト前ニ有シトロくシリ

雨ヤミ

さふ〜ひのふを　左大臣

ねぼ殿のぢん　左大臣ノ方ノ上ニシテ　源　ゆ〜ぶ　内裏退出シタマ

イモフレイ　キノドク

ぢ。葵上ノサマ　げざやうふ　アザヤカシ　キハヲタテタルシ

ハツキリ

ゆ〜ぶ　源　ゆ〜ぶ　ゆ〜ぶ　ゆ〜ぶ　ゆ〜ぶ　ゆ〜ぶ　ゆ〜ぶ

ゆ〜ぶ

紀伊守ハ源氏ノ家人ナリト云説アリ　古ハソノ家ニ任ズル家人トハ諸民ニテイフ名ナリ　今ノ様ニ職事ノ親王ハ一品以下四品以上皆文學ナ家　今拭書史等アリ　今源ハ親王ニカハセネドモ別勅ニテ親王ノ下大臣ノ上ニ座スルホドノ人ナレバ文學以下ノ玉ハルベキカ　ハベソレノ中ニ考ヘニテヒ昇進シテ国守トナルモアレ　又サクトモ女房ナドノヨシアリテ名簿ヲサヲ・ウセテ家来ノヤウニテ従ヒ申ツカフルモアレ　心ハ家人ト定ル　オボツカナシ

中河のわたり　細　中川ハ賀茂ノ東　桂川ハ西京　松川ハ中央ニテ中河ナリ　花栄花物語第四ニ中川ニクラノカミスケブノ朝臣トイフ人スミケル　他ヤリ水山ナドアリテ　ヲッカシ　ヲツクリタテテ　栗田殿ノ　ヒロタタガ　処トイフに思タチケル家ナリケム　今案ニ此モノガタリノ中川ノ家ハ紀伊守ガ家ニヤリ水セサイナドアリテ　ヒロタタガ　処ニテシリ　栄花物語ト相違アリ

（原詞）桐壺更衣ノ里ニ下ル源氏ノ御所ヘ

ありしかたちにもあらずいたくなやみたまへりとのみ聞こえ給へば　師　御衣ヲキヲカシ玉ヘ　ウツクシ

ものはかなくあるかなきかのほどにて　細　此方ヘ通ヒ出ナバ悪キコト　コノ間ニトヤウウセリ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウイヤウヤト云シ玉ヒテ

ことわりなれば　紀伊守源氏

ものもおぼえず　ウツクシ

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

（原詞）

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

（原詞）

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

（原詞）

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

（原詞）

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

（原詞）

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

（原詞）

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

（原詞）

ものはかなくあるかなきかのほどにて　ウツクシ

ものをのみおもほしなげきたるを　ウツクシ

ことわりなれば　ウツクシ

ものもおぼえず　ウツクシ

なほすすみたまへ　長花ニ紀伊守ガ詞トアリ　ヨロシタハフレテ去リオマシ　処トハ其木丁ノウシロニト玉ハルニツキテイハルナリ

他ノ思ヒ人カタ　オハスコトナキ人ノオボサヒハトシ　御出アルハイカヾノ

今夜は出んずなりとおぼせど　御出ヒ仰ラルナリ

五　退ナリ

きぬぎぬにて　紀伊守ガ文　実ハ分ル　下ハ六ウ

ものうらめしくなりぬべかめるを　源氏ノ心前ニテハ心請申ス

空セミヨ去

内室ヲ女房トスルセルシ　今イフ女ニ房ニアラズ

貴人ヲ人並ニシラフサマナルヲイフ

氏キ玉フナリ

或抄　源氏ノサゴトニノ玉フナリ

ソノ女房ノウシロニワヒヲオケトノ心ナリ

細　侍ノ人ヲ一申ル

ネサセテクレヨシ

紀伊守ガ家ノ侍フ　遣ノ人ヲ遣ステリ

即座所ナリ

イ参ラム

てことさらふ。ことぐさらるの所を旨ふいそぎ出さ
まくぐ。（アルジノ左大臣モ〜俄コナル故〜）（コンナマしこセメ紀ノ守〜アマリウワキタテヌサキニ）
まづきうぶりきておもしろの。（紀伊守）（上イソギ出モ〜ミヨル三ナシテ）かくふいりふと
わびまどの。（源ニヨレリ）（紀ノ供ノ）（メシモ）きん撥のゑむむがし（モヤハトリツクラウ）（晴ノカナリ）（アイダモナケレバ）（東ノ庇ニテ代ウヒサレトアリ）
（紀伊守ノ侍ヲドモノトリモチテ〜タテルサマナリ）
（ナニギカド）
ゆきて。（コヲノ女ドモニ）
ひしくり。（泉水）水乃んぐへなど。（納涼ナドノタタナリ）はぐふをうしく志れ
しくり。ぬなす。高ぐつきして。前栽など
（当坐ノ サヒアタテ オマノコトシ）
こうこぐえて。（木草ヲ）ふをぐしゅて。（其ノ所詩シ）
（ドコニアヤトカフナキ）（ドコカシコフナシニ）
とれきむしの（ケライナノサマミル）（秋ノ虫ニアラズ）ふぐ。ほうこるきぐゆくとびま

あるぐもちるるもくむと。何ノマダしノ
ヲダメヲナカシスエテアルじハうモトヤ。サカナモナキニサカ
ナモトメニヨルギノ（サガミ）殘ニワカメヤリアリゲニ八俗細注無ト
ミヤルじハ化粧すりヨノ詞物すり

うの木乃ふもとり出て。細 前ノ品定ノ中ノ品ジオク
ベギズリザウトイヒテ人ノ國ニアラヒナドイヒシコトヲ此
家ノアリサマヲ原ノほうしビテ覚シメシ食スルナリ

ゆかしあるまり。細 空モヒヨハ父母ヘ參ラセ
ムナド思ヒヒトナリ 空蟬ハ今ノ伊予介ガ妻ナニスス
メトイルハイガバルナウナレドモ是ハ思アガルヤウニ前
王ヒシハ人ノ娘ニアリしホドノナビバタガルつし伊与
介ガ娘ノ一カモ思ヘドすニアラズ

きめのるるひ。細 夏ハミナスぐしすんべギホド
ニ音アルマビギトカ說アリサレド夏モヒネリカサネトテ
下ノカサホハイダビギナリオトアルべし又ハリ袴ヒイタビ
きすしバオようくふハナブベカラズ

ぐひてをかくと絵おすり。（作供ノ人ニナリ）（アタドノシタタ通リテ庭ノ流ノ出泉ノ）わくごのよりゆさる
ゆづくこ乃ぞ紀ぬてさけ乃む。（臨）（ロウカ）（亭主）（タニツカヒノ人ナニズ）「さう乳も
くもと。（相撲名所ノ）（ヨ信）ことあ（域ニイヒカケタリ）さだのもそぐあるく（用意シアルナリ）ほど。美（上ニアタル）のど（アイタ）
やうふなすぐあんのて。（女房ナンマアリシウル頃ニテトアニ当コリ）ち乃中の志るふとる出てしれ。
（受領ト云テ人ノ国ノ国ノ司ヲサフヒイトナニテ品サダマリタルサマニスギシクアリ
ニ中ノ品ノケニツアリタエリイツモコロホニトアルニテ〜ミル〜べし）
こと乃なミるる（クノ中）むらーとおぐ。いづ。（帝）（タテマツラムナド）ぶ乃れ
るるるーとて。（ナラズニ）ぽて（空蟬ノイフナリ）ゆをるるるぶぷらーゆ
（人ムスメニアリシモキ主ニナリ）（オクエカレイン）
てぷみぐぶんうるくるふぷ。おとてふぞ人のなぐ
（俄ノコニテアリアヘネバ）
（キヤクエ）
乃ぬるるとて。（喧嘩紀ニヒ ソフナニ ソベナニスナドノナニ）（女房ノコヨアルナリ）わらとるるど
（音アルカ）
てぷみぐぶんうるくるふぷ。おとてふぞ人のなぐ
（切夏モスベニハリヒトヨ）
るる乃ぬるるとて。
（サカハイフモくヤスリ）さんぐぶ志のびて。（ものいひ五月）
（ユミワラフ〜メエカナレエナノユミ）

さゝじのくゝりゑ〜　椎が木　五モオコナメニカヨフサウビノハモノ方ニカヒガネシ名ル処ニ炎ノスコシアキメルヲミオキ王ヘリ　細ニ障子ノ紙ノヒマヨリノ意ナレドトカハ非ナリ次ニユヤトオボセドヒマサシナケレバトアルニテモヒビシ

ゑや　身屋し　身ヲ若ハムト云ル例多シサテムトモトハコトニ近ク通フ言ニテモヤトイヒセルヲ母ノ女子ヲカリテ母屋ト書ルソハ母ヲオモヤ故ニカリテカケルミナリオモヤ多入シトヲ説ハワロシサテ身屋トハ屋ノ内ノ真中ニアリテ主トアル所ナルヨシノ名ナリ俗言モ物ノ真中ヲ身ト云ニ同ジ

式アマの宮の姫君　細　桃園式アマノ宮ノ御女樣齋院ナリ是ヨリサキニフナシ前ニアリツルコトト心ヒシ此類ヨノ物語ノ格ナリ

ちゝゆうきて　ホヽノ意ハマタ思得ヒドモユガムコミテカノ哥ナドヲ正シクモアヌアヤリ交リニカタルナリ何ニ心メ細孟ナドニホシ加ノ意ニ注セラレタルハガコシ又ホイニ頬ヒトシテ頭ヲカタムクヒバホノユガムナリトイフモリヒナリ枕草帋ヲ川名ドセモ頬ノ意ニハアラヒカコノ詞タトヒ本ハホノユガムヨリ出タルモアレ必モ頬ノユガムヲ云ルニハアラヒコモ物ノタテ間メマフナレバソホタユガメルハミユヒクモアラズ

くつうぎゝゆ〜く　細きい師　源氏ノ浩出夜ナレバヒヒアルベキコトナレヒ哥ヒシヒカチルモ女ノ上ニテコノマヒヤメトヽろ〜　今ノ俗ニヒヲクヒスナド云ハ崩ロギノ意カコハモノカヒトイヘドアマリニソツロギタルハヨカラヌ物ノサマナリ　フ説クツロギノ見ヤウタガヘリ俗意ナリ

ときより帳 細 催馬樂ノ詞家哥ノ吾家ハアバリ帳ノモカタルヲ大君キマセムコセム。ミサタハアヨケムアスピサタヲカセヨケムドヽイフ詞ナリ今源氏ノ玉フ公ハ今夜ヲ然ルソヒブシサマヲセヨトナリ

源詞

さるゝのゝしるくて、 見モノ大君キマセ給ヒセムトアル心ヲモチテノ玉フナリ用意モナク奥ナキアルニナラムトナリアルヒハ御髪ヲ

ナルタノマウケモアレヨシトネビヒアマタルニソノマウケノナキヲ心モトナシトナリカクノ玉フハミナタハブレナリ

何よんとも 見モカノ催馬樂ニテ紀守ガ心ナリサバラノ詞ニテ合タルヲミテイカニシテヨク侍ラム思ヨリ侍ラズト申セル意ナリウケ玉ハラズハエ承諾シ奉ラズナリ ヲ說クサズ女ノ玉ノ玉ヲサヲヲノ詞ナリ

● 表 童殿上 問云帰木系伊予介ガ子ノ殿上スギヨシミエタリイカヤウノ品アル人ヲ心ウベキニカ 一答云昔種姓サダマラズ或地下堂上時ニヨガナリソノ子童昇殿シタルヲ殿上ト云ナリ父ハ地下ニテモアルベシトネ

いとのまゝの子 細 見ハ紀守ガ父ナリ 紀

伊予ノカミ介トイヘハ長官モ職掌ハ同キ故ニ諸国ノ守ノ例時ハスケ長官ノコトヲトリ行フナリ故カヨハヒニスケトイフ須ヲ尤ノ長官ニ大貳ヲ帥トイヘルカ如

伊与介 上ニイヨノ守ノ朝臣トアルニヨリテ花鳥ニ守ナルヲカヒニテ介トイヘルナリト注セルヒタルハダカリ実ハ介ナルヲ上ニハ守トカルナリ九ヲ介ヲ守トカハ云ハヲネノナルヲ守ヲ介トカルトアルモオナジ

源詞

大君キマセムコセムトカヒナリヲ思ヒ女ドモアルヲ南ナ殿ヲ詞ノナガメノ心ヲシケモアルヒネビヲアタルニヲノマウケ

何ことゝかとぶく 天者、 戲ノ

と仍し

なくてとらん。めぐ奥ノナメメ

なるもとのまを。

食ノ一ナウブリ

紀守 何ヨカムトカ詞ナリ

ドウヒメヲヨカラムトモ思ヨリハベラヌトシ

サルタノカミトアルニ当ヒリ

五ワロシ

エ承諾シ奉ラズ

オノレイツチ

さぶらふ。ヒサシナリ

源氏モ仮ニネ玉フナリ

コミテ固有奉レルナルベシ

是ヨリ御殿所ニテ侍ラ御物語聞ルナリ

細 紀守ノ詞

コヽハオネマヘオイリアハバスシ

ぬるもあり。源詞ヒ誰ガ子ノ誰ノ子ト問ヒ玉フナリ

紀守詞

殿上ニテ昇殿シタル人ヲ殿上ト云ヒ昇殿ニテ殿上ヲ殿上ノ人ヲ殿上ノ人ヲ殿上ノ人

女のまくせ　細　世間ノ是ナキ中ニモ女ハ一段ハカナキトナリ　孟　女トイフモノハ上ニナリシモニナリルホドニ不定ノモノトナリ

いくばくかの　細　さし出しシウトイハムハ源氏ノ市尚ニハバカリアル故ニ私ノトイフ會尺ノ詞オモシロシイカヾハ切テヨムベシ上ニワタクシモニオモシロシトアル私ニ同じサテ君上ハモトヨリアル故私主トハイヘリ

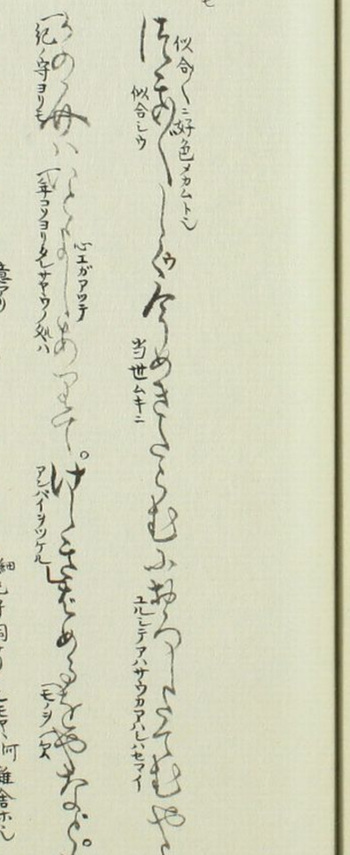
とりともすまゝしたもの　紀ノ守ガドハイカニツキヾシク今メキテゾムトモ空蟬ヲスルシテアハセジヨ伊与分ハ得テ事ニタルハケシキバシヨシアル男ゾトメハフシテノ主フナリ　註ニヨシアリテケシキバメルトカニアメヲズ又上ノメヨリノウツリモヨシカズヒガ〇ナリ

おろしてもむやハ　紀守モスキ心アラムニ父伊与分モ心ヲユルスベカラネバ空セミヲオロシタテマウチマセマジキト載宣フナリ

やゝきだめるをや　伊勢物ハ由アルケシキニモモヲアシクハ紀ノ守心ヲユルサジトノ心

ゝろ〇まやふきと　実ニ下屋ニオロシタルニハアラズ源氏君ノワタリ玉ヘルニ女房ヲ所ヒキ処ニオクハ悍アル故ニカク申スメリナリ其故ニエヤマリオリ五ザラムトナリ下屋ニ其ヘ申附テ待ヒ居ル様ノニ待ベイマタエオリアル侍ラズヤアラムト申スナリ　紀守ノ初ニ人ヲ立ラセタリシハリノ心シラヒキユルザマニカケルナリ

いづくゝよ　孟　何ガ如イ「イカナリシトキクル」ノヨダイダヅネニヨクルシトイフカム



物けのもの　モノケ玉ハ人ニ呼カケテ物ヲ問ヤウノけノ詞ナリ　狩衣ニサテリ〳〵先オマヘニ申サムトテ立ヒテ足音イトオビウ〳〵シウチカフダニヨラズ道中ヨリ物ノ玉ハル姫君ノオマヘニ男入侍テ侍リイカヾツカフマツラムトスルトイフヨエノイト高キニ高ク取カヘバヤ物語ニナシヨリテモノケ玉ハルトアル声ニ打オドロキテミ上タマヘバタヾ人時ダニイミジウハヅカシゲニオボロゲノ人ミエニノキヅマイテ思フ心アリ打ホヽエミテコレハイカヾゴラムズルホシコシテミテオモフベシ　ヤドリ木　九五ウ　アナタノスノコヨリ童キテ高〳〵モノケタマハル　ろ〳〵

●仁賢紀曰古者丕三兄弟長幼女妹留別称兄男以女称妹

或云和名抄備中國賀茂郡庭妹　ホ比世　又下道郡宇盛西世コシ妹トハ男ヲヨバヒヨシテ世トイリ姉ヲモカヨハシテイイモト〻ヒコニテミルベシ

女君ハ〻ごろの　細　源氏空蟬ノエアリ障子推シタマフナリ障子ハ寝殿ノ母屋ノ南面ト北面トノ中ヲ隔テタル障子ナリスヂトヒタルトハ今夜源氏ノ寝殿所ハ寝殿ノ東ノヒサシナリ前ノ詞ニシヒデノ東オモテニトアリ空セミノタタハ北面ナリ前ニ此北ノサウジノアナタニ人ノケヒスルトアリサビ源氏ノホシマス東オモテ方ヨリハ空セミノ卦処ハ北面ニスヂヒタルベシ

なげ〳〵　夕良ニオマヘナカクモエガラヌツマシサニサゲシモエガラズ賢木ニスバカリ引テナゲシニオカリテ宿木ニ引トネサシイデナドカヽナゲシニオカリテオハスベシ〻

かすがのもうでうし　アナタヨリサヾヅリケリ上三四ウ
紀守詞ニヨノカヒノ朝臣ノ家ニツクレル侍テ女房
ムマカリウセルコロニテトアレバ空セニハタヾ〻バリアリスマヒ
テ紀ノ守ノ家ニヲウセルホドヒバコノ家ノヤウスハザカ
シラネバカヽシシテアキ人モワカヌ処ノアケガネモサ
ヾシテネヌルナヾシ此コトハ上ハ イカヾアカラムト
オモヒツヽヲサヒドケトホカリケリトコノ人ノイル詞ニ
テシラルヘシカリケリトアルニ心ヲウケテミル〻

あるじのうし　是ハ草子ノ地ナガラ原氏キ
ミ心ニナリテ有ケリ前ノ大カヾケナドスヾシトアルモ
同ジ丸テヨノ類皆作者ノ時ノ人心ニナリテカケ
ル故ニテヅカフヨムモノヲモマアタリシルガ如クニ覚
ルナリ

中将めしほれば　原氏斎宮中将ナレバ女房
ノ中将ヲ空セシノイツクヾト尋ネシヲキヽ玉ヒホド
ニタクヒナリトリアヘズヨキ詞ナリ

くしげのうし　人ヒヌ思ノシルヒトカ
古今恋一ほ物ナドニエタル口ルシラヌ何カアヤナク
ワキテイハ思ノヒコソシルヒナリケレノ哥ヲトリテカレタ
ルナリヨノ證ハ次ノ四五行ニタカフヾクモアラヌ心ノシルヒヾノオモハヾニモカヽトアルニテ知ヒヒヨノ物語凡テ伊勢ヲトルニ一オホシ心ヲウヾ

うちつけうし　但　原ノウチツケナルヤウニヨノ
オモヒタマフラメ我ハ年月ノ思アルニヨリテコソ今夜方
遠モアリウレトトリアヘズノ玉フ

たゞふべくもあらぬ　人々がへスベクモアラズ　皆オモフ心ザシヲシルベシテキタリツルモノヲ　思ノホカニモオボヅキ玉フトナリ　古今ニ引ルニヲヌ何カアヤナクワキテイ公　思ノミコソシルベナリケレトカ如ク思ヲシルベシ　ミヽキヽ　人々ガ　アラズトナリ　ワレガ思ガシルベシテアクタツイトイフ意ナレバコノワレガ　ガシルベシテオマヘガ中将トヲバヤタデナイカトイフル意ナリ

見えなるゝし　コヽハ世上ニナルオシツケガハタレガセモノゾヤト云意ニテヨモシ工奉ラジト昏タレバヨモトアルヲ　専用サレドヨミモトカラ畧テヨニトモヨモトモイヘバヨニトアルモ誤ニハアラズ

やゝと乃めるゝみ　アカツキニ御ムカヘニモセヨモトトテカリヨビカケ玉ヘルナレバ　再ウセバコノ事ヨシ

詞トモ方四ノホイトアザマヒキニカヒ合ヨシ

あぢきなくもあるかな　空ヒトノオモヒヨラズキモヲ肖シタルサマナリ　キエナルアワニ　ウロタ　ヤウス　コヱタテズナリ

ワレガコトニアラジト申ナリ　人ガヘテ　ヒサラシヤウニモハシマス　心ヅクシ　空ヒトノオモヒヨラズキモヲ肖シタルサマナリ　ヤドク

ワレガ　アナイテ　シラヌガホニモ　ミモ　ヨモ　ヨモ　ヒトカ　ワレガ　オボツカナイノオボシ　イヒナ　人ガヘヲスルヤシナノデナイ

カハユシケレバ　オソラク　百日　ミラ　ルマイ　心ヅクシ　空ヒトノサマナリ　バカリイフニ

ねやより　ダウハ原ハ中将ヲトシリ玉ハネバシ　デアラウト思フ　アハシ　コヽ中将ヲ源氏メシヨセルサマナリ　アイ〜トヨビカケ玉フシ

源氏ノ御座　空蟬ヲサソヒ玉フシ

空詞　ゐぐ源ノ

細ハ中将ナリ　フシギナコトト思フテ　クラダリテ　源氏ノ御衣ノ白ヒカリ

源氏ニマレマス　ヒシヒシ

中将ガ心ナリ　アタリヌ　コヽハ　ナヒトシクテ　ヤト

中将ガ心ヅヒヲアケタリ　ナヒテノ人ト志ナリ　ヒキナグルニシテ　ヒトシクテ　ヒトシクテ　ヒトシク

万永我ハスシアル身ナルヲイカニカズナラネバトテカヤウニオシタチテ源ノアワヒタマフハト腹少チシタルナリ

いくさくさハ　サキニ源ノ君ウノヲリヲマナイテダルモサテニアサハアラジト思ナシタマ〳〵トノ玉フ詞ノタ〳〵ナリ我ヲ思クダシテカヤウニシタマフヲイカデアサクオモフマジキヲトナリ

いとこのやうなる　細花ニ上鶴下鶴ノ上ノ衆シタル表ニ三重ヲタシ

キハヲイチリトゐ〻ヲ出カ

女ノヨスガ定タル身ハシダリガハシキコトハナキトイフヲスナリ　祇心ヲシアルモニハアルタハブレセヌ習ノヨシナリ　花鳥ノ説ヨロシカンヲ細又祇説ノゴトクナラバ下ノソキヘクヨミトイフルヲイカヾトクベキ

なぐさめ　空蟬ノ詞　源氏ノ君ヤウシ玉フコヲタノマウナリトコト故ニユメ〳〵カヲ思ハシテ

師朽是〻

ホウラウガマシイ物デアラウカハ　ソレハアヤシクルシイ物デアラウカハ

アサイトフシズルトシ

無理ノ押ニ立

見下シアナヅリ玉フモノシトコハ腹ヲ立タルイヒザマナリ

ムゴサウナ　タハ　イタム

双子地

ヒワヒアシノヒラフルホド

万アリ

細空セミ心シ　アキレセツメ

ナホハフクナサアナクヌシハツハナテイトアザマシヨリ空セミノ詞〻

ドヤウニ

ソンキハソンシツルコミニアラ侍レトナリ

万ナシ

ムドクシンナ

万ナシ

マライ

原ノ詞

ナリフリ

いくさのやうに　カヤウニ深急テアルマジキフルマヒヲシ侍ルモシカ〻ギ前生ノ因縁ヤトナリ

あぶなさの　細　カ〻シクイニオトサレナリ　私

阻ノ字ハハバムトモヨムカフセグ心ナリ又ハダルトイフヨミアリ是ハ制止ノ義ニカナヘリ

いくさびいろき　下三度中川ニヤドリタマフトキ空ノ思ヲウケトケ人ケナキアリサマヲ見エ奉リラモアヤキナクトアルニコモ同ジクタグヒナキ源ニ身ヲハヂツマシ且夫アル身ノモトヨリノ貞心タ〻シテ思定メテ情ナキモノニナリテアラムトオモフナルベシ

ちくさのやうに　下三度中川ニヤドリタマフトキ空ノ思ヲウケトケ人ケナキアリサマヲ見エ奉リラモアヤキナクトアルニコモ同ジクタグヒナキ源ニ身ヲハヂツマシ且夫アル身ノモトヨリノ貞心タ〻シテ思定メテ情ナキモノニナリテアラムトオモフナルベシ

笑源市若年ニテ世ノアリサマヲイマダワキマヘズトシ

世ヲ思シラヌヨノツネノ好色人ノヤウニトシ

ヒトヽホリノ

初事シ

コウエヌ

ヒヨヒノヒザギワイ

ガサ

イヨ〳〵ハイレウ

ナヒヤウ

キ〻オロンダーモアラウニ

サヤウノカタハスキヒバ

今マデカヤウナムリナ

一更ニナラヌトシ

万アリ

レタハナイヲ

コシナムリヲスルモ

カヤウニイヒサルベキ前世ノ縁アルニヤトシ

アハルアハダ〻ノ円ヒアハタモアハダナルベシ

是決ノ字阻ノ字四義ナリ

イシネン

マヨヒニ

上ノフロクエチラサルヘヲイフ

アサ〻シウシテコマレ

ウキハルカヤリ

源ノ空セミ道理ヲケテノ玉フ詞ン

道理

マヨヒヲ

フレギナホドニ

サ思ハレル

実ラヒウ

空セミノ心ン

ルキノナイ

ツラケレバ

何カニツケテ

ウツクシイ

上六オスクヨカテフヨナラヌルノケシキトアルモツイリ俗言ケンソナ物イヒデエナンニ当シ

オモハレ

キワト

ムドクシンナ

情ノカタノイフセナキモノニナリテ過サムト空蟬ノオモフナリ

身ホドヒラスカヒナカラス

フガイナイ

ラチノアカス

系者勝強トイフリ

タワヤカ

タワム

師ヲレアクキモノ二方件トモイフ

空セミ心

源ノ押立タルフルマヒヲネタク思フナリ

言語同断

イハウヤウモナイ

源心剛尊アリサマライタハシク思ルセドナリ

寅事アリテ上ナリ

カクアモシタルトハツカセシトクメニキイドクシトアヒニスバクナフアモシタルトハツカセシトクメニキイドクシトアヒニスバクスアツメナフバ

ナフアモシタルトハツカセシトクメニキイドクシトアヒニスバクスアツメナフバ

空セミ心

源ヲアヒタルフノタシザマニ

ツライフ

源ノ詞

ウテシバトカクウチトケヌ故ニ

コトヅ

イハエアルフ二ハアレド

ラヘキナル

男女ノカタラヒヲ

カツテ

有イ

乃

ウクカヲシ

空セミ詞

伊勢ノ介ノ妻ニテアヌ昔ノ身ニテアラバ

ツライトイフニアラズ

エビヅカヌ

ハツキリセズ

オホ〻オホウカナ〻ノオホモオボ

キツウツライフ

コヾトライハシ

空セミ詞

イヤヒキ身ナリ

ツライトイフニアラズ

ヌナラバ

我タニアハスフナガラ

源氏ニシテ思ハヒトタノム

ハツキリセズ

コヨハシヌモナイモノニ思ヒメストモ

ヌスキアンバアルモノガナト

ナサケノ

松ノウキネト思ヒハ

サハヨツヒニスヒニケリ

「ウ」ハアルヒキフナガラ卑下ノ詞ナリ

カヤウナフ二

アハヒモセウト

一度ニテアイシツカヒ王ラトモ意ムベシ

ルヤモナウツラフ存ヒテ

空セミ思ハルヤナリ

アヒマヨ

例ノナリ

ケフライミヌシニテアルナト

去

サノキエヌ

世ヲシルハ男女ノタラヒヒシルナリオモヒラストイフフモタヒラヌトカニ同ジ

孟空オボレ心ナリ師世ノ心ヲモヒラヌヤウニスル心ナリ

笑不思ノ矣ノ會コヒ段フタキ契因縁ナトシ

オモヒカケイヤウナフ

コトヅ

ラヘキナル

男女ノカタラヒヲ

カツテ

有イ

乃

ウクカヲシ

空セミ詞

伊勢ノ介ノ妻ニテアヌ昔ノ身ニテアラバ

ツライトイフニアラズ

エビヅカヌ

ハツキリセズ

オホ〻オホウカナ〻ノオホモオボ

キツウツライフ

コヾトライハシ

空セミ詞

イヤヒキ身ナリ

ツライトイフニアラズ

ヌナラバ

我タニアハスフナガラ

源氏ニシテ思ハヒトタノム

ハツキリセズ

コヨハシヌモナイモノニ思ヒメストモ

ヌスキアンバアルモノガナト

ナサケノ

松ノウキネト思ヒハ

サハヨツヒニスヒニケリ

「ウ」ハアルヒキフナガラ卑下ノ詞ナリ

カヤウナフ二

アハヒモセウト

一度ニテアイシツカヒ王ラトモ意ムベシ

ルヤモナウツラフ存ヒテ

空セミ思ハルヤナリ

アヒマヨ

例ノナリ

ケフライミヌシニテアルナト

去

サノキエヌ

源心

マコトニナウケヤト思ヒフテ道理ニオボシメス

能チタルモノカナニ　イキメキハ人ヘネコイジナリ

ネスガシタメ

コノ人打トアタルヿヲ思シテ行末ノ笑ヒシ又逢テ後イヨ〳〵

女心ヲサメタメスキヲロ〳〵ヒトアサメ玉フナリ

女心フキヒントリヨフ

双子地

オロソカナラズ

「ハ心鳥　ウグヒス

トウ

なきあ

オトモ

紀守ミ今テツレヅカニトまく

女ドノ方遠ミヨイ

「かくもいでおれて。女などの

匂ヒ　源氏シブミヒウセ玉ヘトナリ

インギ玉ヘギガイヅギハ玉ヘ

ソウヒヤ　ヒ男君ナレバソノヤウニ

源氏ノ君ナリ

別ナレ有イ

ソギカリ玉ヘトシ

イタシテオカ〳〵リヨウイセヨ

源氏ノ君ナリ

アリクナイ

マサトイカデカトシ

サシヅキテハ

「そて。いらでは

ドウデマタ

コレニテ上カヨウスモタセルこ

御自ニ当シ

カヨハカム

「又なぞ。

ナリニクイ

空蟬ノ官女ナリ

「くの中納言

空セミヌケチ玉ハヌシ

万ナシ

メイワクガシバ

源

ハナシ

「ことの

源詞　文ナドモイタヾシテカツタヘムトナリ

ヒダスシ

ドウシテ

マア

イハヾ

「ものの

セケルサノナイ

「あさの

一世ノ

オモヒノシケサ

万ナシ

メツラシイ

「ものの

イウ

「なるもの

ゴヤウス

「ものの

去

「ものの

「くなるふ

通河周章

「あさて〳〵ものて」

唱シ歌前ニ本ハ女ナレバ女ハ男ニヨリテ女ハ男ニヨリテ

「鳥とは

トミアクリリミタレドリ

ヒナヤカナ

「とあ

フシクモイヒオボスアケタルタニ

「とあ

ナルニ

「とあ

メヅナマナス

「とあ

イカデカ

マタ〳〵テキルマモナウ

「とあ

細空セミ心

「とあ

「とあ

源氏ノ逢タルヿヲ下心オセフ故シ

ニウカハシカフヌ

「とあ

マフイ

ハツカレイ

アカカアケフヌ

「とあ

源

ミツカハシカフヌ

「とあ

「とあ

「とあ

分のくきとろ　豆モ鳥ヲソヘタリ師　空蟬ノ公

マノ女ニテ伊与ノ妻ニナリシ　カクヌシヲタヨリ名身ニテ
源氏ニトシテ又アリシ方ノ身ニアリ源氏ニオモハマ
サセバトトリ丸サマホシクオモフ　アドクヤキ　ヒゲキヲオモフ
ニアタヌウチニハヲクワシウゾル　ヨサヘスバイヨ〳〵ウキア
ントリカサネテネヲナクナリ　コ哥源君ヲモテ
ヌガニ別レナシキ心ヲアクメタリ空セミ君始終ノ
情ヒテコノ心ベナリ
さくあらくるるいち　コトハ何ニミレソア
ヨコトヽスル意ニトリタテヽアクルナリ家特集ト
イフモノニスル哥アキ瓜ハコト吹来テ白タヘノワガトキ
衣ヲ人ハナシトアルモオボ
名アフサノ名ヲダタメニヨシ
カドモ（ダツル意ナリ　ツクモアルカナ　細コノ哥心ハ
河　伊物語ニ恋ハマサリヌ天ノ川ノダツルセキヲ今ハ
ヤメヨ　細コノウタハ障子ナヘダテヽ哥ニハ能治リ

四五オ　オヤノオキテヲモ心ユカヌヤウニ河見合
或物　健ヘフクカル意カ

（或物　住国ニテ今ノ国ニアリ）

（障子ノ上ヨリミル）

（空蟬　夫ノ定メシ身ニテ源君ニ逢ヌルヲキコエ思ヒシビクミアヲハケキノアマリ　アリテイヤダツキヲル意ニトリ
ドウイフ　アラソコキミワロク
ケンソナ
テウソナ
ケンソナ
ヒヲ寄ガ変ニナリ
ヒヲ寄ガ変ニナリ
（タフイデ）
（アルヲフトトシテヲウル意ニ心ヒヒ寄ヲ明ルトカニ同ジ）
（モノハフトリヲヲテイアクルナシ）
（外）
（原ヒリ玉ハトヲ）
（ハシ）
（高欄シラヒシ）

（障子ヨリ）

細女ノカタナリ

（ソヘメアゲテ）

（方ヲツイメテ）

（御京ヘイハヌニ心ヲツクベシ）

（ヒヲツ女ノ心ナリ）

（ハヲキ）

（ヒヲ）

（月ノアリシキユルシ）

（万モシ）

（空ニハ差別スル心ハナシトモ）

（艶）

（九ノモ皆ヒトシ人ノ心ノ時ニシタガヒテ花ニモ目ヲツケ心ヒリ）

（原氏シ）

（ニシラレヌ）

（万）

（万）

カミハ紙ナリ前ニモヒタリ野分悉ニモアリ皆オナジ見ハアタリ障子ニミヲウスキ紙一重シバヌヲヲヲ

殿ふらへり　細　此殿ヤウノヒビアリキノカサニ三条院シトカ説ヲ誤リ是葵ノ上ノ御所ヨリ来ノ詞ニモミエタリ

くるまるくゝとかつめるみろくの　カノキザミ〳〵アリテ中ノ品ノケシウハアラヌエリイヅベキトイフコヽロ思アハセ玉フ

うのほくふたい殿ふのし　細　此詞ニヲ前殿ニカヘリ玉フトアルハ二条院ニアラザルコトニエタリ

万ナミ。うゑりこがちめていでゐる。オホイドノナリ　イコリオホイコヤ

トクノ轉

ゆるしてかろくのぞふてむんろゐ。空蟬ノ

シヤウノ

いうなるすとんぐるゝ。おぐるゝ。空セミノサマヲ思ヒヤリ

カタチヲハスグレネドモモテナシ用意ナドヨリ人ヘ

受領ノ女ヲ中ノ品ト馬頭ナドノイヒ故

中乃ちゐ。

左大臣ナリ

大殿ふろ。

オホイドノトヨノヘ

上ミニ可見合

中納言乃子　花　上ハ故右衛門督ノ事トイヒコヽハ権中納言ノ事ト云ヘリ　花ノ誤シ

自イフコトヲノタマヒトハコヽハ源君ノ御事ヲ傳ルコトナル故ニイフカ又ハ敬ヒタル詞ニテモアレド今世ニモウヤマヒテ云詞ニハオノガ方ニモ御ノイフコトヲ添ルタグヒナレバカ

そのあくみきみのあそんの　細　朝臣トハ前ニマウトアリシ類ナリ賞敬シテノ詞ナリ花ノ寄ニテノ詞ナリ　空セミノハラニ子ノアルカナキカヲ寄モテ空セミノ子アラバ紀守別腹ノ者ナレドシラズ

おやめおきて　細　空セミノ父ハ宮仕ニトコソオモヒニサモテクテ受領ノ妻ニナリシ一心ナカスナリ

中納言の子

源詞

小君ヲ源氏ニシルマジキカヒ

御門ニ殿上モセナセム前ニ殿上ドモ

孟　伊与ノ妻ニナリテ二ケ年ニ

宮仕ニトコソ思ヒニサモナクテ受領ノ妻ニナルコヽロナヌ

是上ツネハイトスヽシウ心ツキナト思ヒアヒ云ニヨリ

細　源詞ニ

世のことわり　河　請君撥蜂君莫撥壺君父子成材狼白集　此外和漢ノ例多タリ　師ニ経母樓上ニテ蜂ノ身ヲサスヲトレトテマヽ子ニトラセテ父ニハワレヲアサレト説セし古文ナリ　文集ノ句後母ノニクムコトナレバコヽカハヌヤウニコレハタヾ継母ニ親ホ想セレコ和漢トモアルコトナレバ用意シテ近ヅカズトカノミヤコノ守下心ヲクルヨリ却テカノイフナラム　河海ニ白氏文集ヲヒロタルハサルコトナレバ見ハ心セカノホ文ヲサしテ古ニハアラズタヾ世中ニイヒエラハレタル事ヲ世ノ譬トハ云ナリ

ヨイカ　細　化学詞　孟　惟　万　次ノ詞ニ　ヒウバンノアウタ　丸ニマニ　地　ヨウ　ヒロ　ヨウ　ヒロ　ヨウ　ヒロ

心えぬ　そぐせ　細　受領ノ品ニ定ルコマタ源氏ノカヤウニ宣テドヲオモフナリ

受領ノ妻ニたルバカリノウキ身ナルニ又源君ノ如クナルスグレタル御方ニカヤウニ思ハ奉ルコハ心得ガタキスクセノソルトナリ

源ノ瓜情ナツクシタル艶言ノサマナリ

めもはなりそぐ　旧ニクレテキリフメダルトカナレイ

（マブイクマチナイフニイ心スメ）

ものはかなくもてなしたるもの　ガテレノユカヌ

旧ニクフンデモエヌ

そぐせ　上ニイトカウカクノウオネノホドブ思待ルニタシヒナク思フドルルトカテ源氏ニアヒタルモコノ心意ナリ

源

その日　小君　空セミ詞

細　小君ノ

細　空蟬詞　サヤウノヲトナメキタルコトハイハヌコトゾトナ

ヤアコレ　マセタコ

君

ものはかなくもてなしたるもの　旧ニクレテキリフメダルトカナレイ

ガテレノユカヌ

旧ニクフンデモエヌ

そぐせ　上ニイトカウカクノウオネノホドブ思待ルニタシヒナク思フドルルトカテ源氏ニアヒタルモコノ心意ナリ

源

その日　小君　空セミ詞

細　小君ノ

細　空蟬詞　サヤウノヲトナメキタルコトハイハヌコトゾトナ

ヤアコレ　マセタコ

君

申上ジ

万

細　空蟬詞　サヤウノヲトナメキタルコトハイハヌコトゾトナ

ヤアコレ　マセタコ

君

申上ジ

万

タヲワイ

万

細　空蟬詞　サヤウノヲトナメキタルコトハイハヌコトゾトナ

ヤアコレ　マセタコ

君

申上ジ

万

タヲワイ

万

コトヨ

カナレイ

万

細　空蟬詞　サヤウノヲトナメキタルコトハイハヌコトゾトナ

ヤアコレ　マセタコ

君

申上ジ

万

タヲワイ

万

コトヨ

カナレイ

万

孟　サラバシ

ソレナラ

細　空蟬詞　サヤウノヲトナメキタルコトハイハヌコトゾトナ

ヤアコレ　マセタコ

君

申上ジ

万

タヲワイ

万

コトヨ

カナレイ

万

孟　サラバシ

ソレナラ

小君ノ詞

ドウシテ

細　空蟬詞　サヤウノヲトナメキタルコトハイハヌコトゾトナ

ヤアコレ　マセタコ

君

申上ジ

万

タヲワイ

万

コトヨ

カナレイ

万

孟　サラバシ

ソレナラ

小君ノ詞

ドウシテ

源ノ　源氏ノメスニハイヲデカマヘルマジキゾトナリ

ハツトクイハレテ

くびげそ　素ヒトシホヒヅルシ我ヲヒヅミ物ゲナトテトリテゲスキ伊勢ニナレテワヒヲフケリヌルトハ君ニカナシクオモハセムトナリ

空蟬ナリ

モ

マチフザルギ

孟　河追従

細　ニ年ノ似合ヌアハヒノコト

ウツセミニ心ヲカケテ

孟

万

小君ヲ化粧ヒテアリクベシ

ソレ故源ノ北目ニモトマリタルナリ

ココハソレヲコトワリテ段ニ落ヲウケタベシ

小君モ源氏ヲオモフベシヤトベシ

（或抄　源ノメヤウニメスホドハ小君ガオモハヌトナリ）

源氏ノ立ヲ支ヘイカニトベシ

源詞

ヤウス

源氏ノ文ヲ又玉ハル

源詞

ラチアカス

フカイアイス

源ノツリブトノ玉フナリ

万ニウマニフクマヲトフクマヲ大馬トモキメシ大クタラマシキヲイフ
太ノアトカ古ノミテ物ノ太ノ夫夫ノ意ほきし侯こまし夫ニアコニカヤズ
なつかしうなるまで」まくあてぬぐやあなばり
みるまあり。ちるとをはるといつるるにてをあはせ。
伊与守し
うのしるもしぐら。ゆくさきぐらかはるもの
年老タル人ナビナリ
のまくら。佃小君ガ心中しさるやこまるまでいまじりなるもられ
サラモアツタテラフリ
シカタノフルカタクハナハタヒアツタ
ことをと。ぬるしと」ぬぬるぬるのまくまつ。
原心
ヤウスナル
小君し
うちふるもあてまするなどもぬぬぐぐぬ敬
あの袖て。小君ニ有セモラ
仰ラレテ
ぬくなどもせきせるる。万ワカナミヲヨアヒヨトヨセ
まとるり
ヒ封ヲウケテカケリ
ぬやめきてあつらひの。「ぬかゆこいたるひふあり。され
ノヤウニ
市返事ハスルヒジ
佃空蟬ノ貝返事ヲルヲイフナリ
どうのふをいるをさる。んよりぬぬ
或ハ返事申メキ心モアルモ小君ノナナヒハネトシチフヒナドシテハトナリ
思ノ
ぬちりをせば。
つこが

源氏ニホノニアヒタルヲニ歎カシキニソノ名ヲナガサムトし
うぐ〳〵しくとりそなへて。多久ぬぬぬぬと
ナリサカリタルトマヌカヤウナル身ノホドヒラス
契
セケンノオモワクヲ
ヌヒ定ル身ヒビ
ぬ。
ナガ〳〵
ぬ色ハ恨ムヤウナリ
つくとなるうくぬ
下セニノ身ノ源ガドニ依返事ニツカヒシカラヌナリ
ぬ。万古ヌニウタル語ヒ身ニ相應セヌ〳〵ハイヒ〳〵ナリ
ぬぐ。めでくさとるもわぐ多くう
ニヨリテ
そそとぬるそ」て。うちるくるるぬいくるるぬ。
トカワケハ
大ガイニ用ヒ古スフヒヒテ
ほのうなりしぬぬいひあつまるぬ。多ふなるぬて
ナベテノ源氏ニ非ズトナリ
世中ノ人メデ間ヒモゲニナリ
みやるぬぬひぬきこえぬふとあくるぬど。をう
アル中ヌトホリまくナリ
晴ニモ有サマヨシ
しくさぬぬをえぬまてくも。何ふいなるぬきれ
ミラヒ
ど行ぬるひうるぬ。
ノヤワイ
双テノ地ヨリイヒ
時乃ぬくぬなく。ぬぐるくくるくくるくしぬぐいい。
源心
逢奉リしコヲカケラモアルマジキコトイミジ
シキコトオモ(ソノ次ユノソ)ノケシキナリ
ぬ。
注ニ源君ヲオモハヌコハアラザリしナルベシトラハコニサハズ
オモハラサ(カタクハ)
ぬるるぬ。ぬるるぬ。

前ニモ今ハキトナカケリトテ
オモハルサマケイトコトワリナリトアル詞ヲウケテカケルナリ
空セミキガ源氏ヲオモハヌニアラザルヨシナルベし

四七オ四ウ

ほのうちりしはかいし　ミケシキハワスレガタケレドモアルマジキコトバナリ空蟬ノ意アリ

ぬりしくるき

さうべきりゝと　或抄禁中より大トノゝ三条院ノモカタフダヲムヨリヲマチイデ玉ヒテナリ

ふゝ　ニカニハオシマセタリ〈カシ〉ル俄ニマカニデ玉ト云ニアラズマネシテ心方ヲタガヘユクマネブシテナリ

やゝ水のきゝ　源君ノコノ家ニ初ニオシマシタリシモ水ゼキ入テ涼シキ陰ニ侍ルト人申セシニ依テオバヌヲ度モオシマセタルヨヤリ水ノ面目ト云ルナリ

なゝ　ばゝ

ゆゝ　源氏ノ用捨心アヒニ

人目ぞ　ツキナキヤウノ心ナリ

ソワトシノンデ

ふゝ　ものゝ　裏

いゝ　或抄禁中ヨリ退出シ玉フ通ミチカタフダガリタルヲ思出タル体ニテナリ

先日ノコトクシ俄ニヤリ〈マウテ〉玉フヤウニシテナリ

ぶゝより　おいゝ　オシマセ〈カシ〉マシタリ〈カシ〉

水の　源氏作出ヲヨコブン

方遠ニヨソヘテ中川〈オハスベキト約速ニ玉ヘル〉

常ニ小君ヲ召ナスベキヲヨビコヨヒ中ノニテ先ヒタルシ

めゝ　いゝ

方遠ニヨソヘテ是〈オセシ〉ヲアサカラズ思シドセトゝ

小君ヒテコヨニオハスベキヨシ告玉ルナリ

空セミ詞

ばゝ

ハビノ方遠ノ時ヒ参ラヒコトヲ云ヘコノ詞ヒテソノ夜賢事アリシコトハヒラセタリ

ハゲナキサマニテ源君ニ工奉ラガハツカシクテアマバユキナリ

小君源氏作前ヘ召サレキタル間ニトシ小君ニワガ有処ヲシラセジトノ心ヲセナリ

小君ニカクレタリ

ゝ　ゝ

源氏ノ作座ト程離テ居〈トシ〉

四十八オ同ウ

人ぞ　師空セミノ身ヲ里下シテワガカヒ人ゲナキサマヲウチトケマシエマヰラセムモアヂキナクトナリ

一説主定リ給身ヲ又源氏ニハ一貞女道ヲネバゲキ有ヲトナリ

上ニイトタグヒナキミアリサマノイヨ〳〵ウチトケキエシ一ツビシケビスクヨカニフヅキナシトハシエ奉ルトモサルカタノイフカヒナキニテスガシニシトオモヒテト云ルヒ同ジ世ニ類ヒナキ君故ニ安中々ハヂツシマルニナリ

なほそゝてすもつけ　只ニカタテノミアラバツコヘ

源氏オハスベシ〈ヒ〉ヒサウニ源氏ヲマチツケムヒ人ノオモハクハツカシケビトナリ

イタクタガヘリ　コノホトイフハ右ノホシタガヒテオハセシアサカラズオモハマネケアツルベキヒ人ヲ又思フニ人ガナキアリサマヲヨクミエ奉リテモロタ且マヲ逢奉リシ後ノ歎ニ又カヲネムモイカバトコノ二ツイヒビシニセムト思ニビテ思ヒニ思ニオモハエクマチツケムヨリモマダ〈カシ〉クシなるカタヨレト思定メテカクルニシ

けだうかまぶくいらい〳〵　源氏作座ニテタクアハバアリアリトイヒシテ空セミノ居所ヲカルナリ

四十八オ同ウ

四六ウ 四七オ

カクレトハカクレタル処ヲイフ　カクレ三ヲ　上説ヨシ　下説俗意ナリ

空セミヲヒトナシト小君ガオモヒテナグルホドニイフ心バヘヲイナムル詞ナリ

空蟬ノ故ニ　ホシトアナヒノ用意ニテ云ヘシ

中将ガ局ニ空セミノカクレ居タル処ヘメツネ行タル

童ノ様スルハ世三世ダ忌フゾトオボセレバ　サルヒヂトアルニハアラネドト小君ヲオドストテツクレル

万一説ニ不下世女房ヒヲザウシオボヘモサ

四七オ 四七ウ

孟空セミノ心中ニ侵ル心ガツマナヌヌキミテ父ノ処ニアリナガラカヤウニマチウケテマウラバトコロナリ

孟原カヤウニオボシメスヲ思ヒヌカヌニ消スモノニラズノヤウニオボヂムモ心クルシキトナリ

細美日　女ノ思ヒタル心殊勝ナリヨリモアヒクモ一度伊与ノ介ノ妻ニナリテハ新ナルコトニモ心ヲバウツスマジキトヽ

孟空蟬ノ詞

孟今ハナザシ

万一説ニ不下世女房ヒヲザウシオボヘモサ

受領ノツマ

ナダマリタル事ヲイフヽ

原君ノ心ヲ思ヒ出ル身ノチドヲシラヌヤウニナリ

万一説ニ空セミノ身ヲドシラヌヤウニナリ

原ノ程ノ理ナリトテモ身ノ程ヲ思ヒテカヤウニ

カノ思定タル人ノカタキナリ大方コヽアシ光源氏ニヨヒテ奉ルニナホカヽルソヒ上ノ品定ニトリナセバアダシクトイフコトトクモノヽミヨクスル女ドモ一夜ノ愛ナドミテハ打トケナビキ侍ルナラヒナルヲコノ女コソダビナレコ物語ノ初ニ書イダセヒ心事カヽコソアレカシトテタチケムモノナリ

思ヒトイフコトニハナルルナリ

[illegible] 細 不用ゝハ君ガ[illegible]ヲ不用トシ云ヘリ 孟 モチヰガヨシヲ申スナリ 不益ノ字ヲヤクヲ延今ヤウトイヘリ凡テモ無ヤウト云ハ無益ニテエキナシカヒナシト云詞ヲ同ジ意ニ用ルナリ今モ無ノ益ノ一ヒヤウノ一ヒキミノ知シ後世ノ人ハ不用ノ字ナリアワヒヒヤウトイフ音ノ意ヲエヌ俗ノヨザナリ依テコレヲヨバフヤウトカヾシフヨウトカハワロシ上ヒヤウナキトモイヘリ

源氏小君ガ我見ヲ心モトナクオシメスナリ

[illegible] 源氏 [illegible]

[illegible] 小君詞 コトカハヒヒヨシトリ

[illegible] 源氏

[illegible] 空蟬ニキラハルヽコトヲノ玉ファツ ヒラヌシヒラ今

[illegible] 空蟬ニ [illegible]

[illegible] 源氏

[illegible] 源詞 今ハ[illegible]ヒナクヒナトカヲチ玉ハルナリ 源心ヌケシヒヒヲフコヒヒヒ物シ見オボスギヲコメタリ

[illegible] 空蟬シ 家ナスガ三字眼ナリ

[illegible] 源氏

[illegible] 源詞

[illegible] 源氏

[illegible] 源氏

[illegible] 源氏

空蟬ガアル処ヘナホミチビキ申セトシ

所ナマムサクトシテ人モアマタワドニ年テ侍シバサル処ニイシ奉ラムハアマリオシ多キヨシ申セルニテ所ノサマノ原氏君ヘオシアルナリ於イノ説中々ニワロシ

或ハムサクトシテキレイニモナキ意ナリ

オンビガマシトイフナリ

ムサクニシタ中ニ

小君ニ源ヲ思ク

原詞 空セミコソ原ヲ

ミスシ故ナリトモセメテナステソトシ恨ワビタル詞ク

本意ノ空セミヨリハナホアハレトンビナリ

原細 空蟬ヨリハナリ

ハンヅンビ

タダリツタヘタル

タガヘリ

トゾトハ紫式アガワガカキタルヲソシラセビノクメナリ

ヲノ物語好色ノモテイフヤウナレバ人ノ心モチサヲミヘ何シノ書ニモカヤウナルハアルマジキヲナリ心ヨクツケテミルベキヨトヽろヽ

オボメキタル詞ニテカヤウニカタリ傳ヘタリト昔物語ニテシタル詞ナリ

コノ注タガヘリシラセジトテニハアラズタヾコトサウニ

湖月抄本十五丁オ二行

田五月雨ヨリ　イツモノトヒヨリ

なごりの日数のつもりをいとゝてはるゝ方形又

つもるにしたがひぬ　源ノ六條院ノノ時分ハヤリコト

まゝ　絵ナドカクコト

ゆくすゑ　明石ノ今紫ノ上ノナヒ玉フシ　ツノ嘗リ下ニタヽミ

ゆくすゑ　玉カウフノ居処ヲ云シ

和のたいすいまてゆくすゑ　ヒツヤクベシ　ウルフウルマシイジイソガシウト

ヲモハレリ

のさぶらひ　絵　物語　イトナブカリ　アヤミスルナミスルナドノ

ナミモ同ジカリシ

コノ一ウシテ上下ノ間ヲモタセタル文法ヒヒベシ

ヨシナリ

つきぬ若人　サヤウスルスヂノイミモ　玉ノカミニサヤカハレカラスデハナイ

玉ヨシナカラムヲタスクルニ玉ニツケタル人ノ考ヒ

サルヤウノヂキスデナイ

ちるゝ人のよるゝ　ミルニツケテ思マヒヤヒヒベ

アルラム　マタ

玉葛君ノ古モノ語ヒヲヒタマヒテノコヒ

宣云コヒ

住吉の姫君のこと　宣云スミヨシ物語ヲヨミテワガ身ノ上ニ昔アリシヲオモヒハセテフナリ

廣云玉カツラノ君ノ一夕ガホカシ玉ヒテ右近モオドロカルホドニ乳母ノ夫ガ貧ニナリテ少貳ノマヅトイヒシテ下ルニツレテ玉ノ四ツナルヲツレテ乳母ヲ太宰府ヘ下ル少貳任ハテ上ルベキニナリテツクシニテ身マカリスイロ〳〵サシツカヘアリテ肥前ノ國ニノトシヲオクルウチ玉世バカリノコロ肥後ノ国ニイキホヒアル大宰大監相当正六位下ニテ後五位下ニ叙シタル三十バカリノムクツケキツハモノイタクシタヒテ肥前ニコエキテ故少貳ノ子ノ二郎三郎ヲタヅネテシヒテムコニナラムトスルヲトヤカクト云ヒノガレ難ガシバシバムコイリノ用意ニカヽリタル程ニ太郎ノ豊後介ソヲヲツレテヌケ出テ一マツ京ニノボリサテハツセニテ右近ニマウデアヒテ右近ノ手ビキニテ今ハ六条院ニウツラセ玉ヒテ源ノムスメニナリテ斗玉フナリ

ゆ〳〵しき姫　ハナダシカツタマウスヲ云ヒ廣ノ云アトニテリノセラルヤウニ思フベシナリ

なでしこ　伊物アキノヨノチヨノ一夜ニナゾヘテヤチヨニネヤアクトキノアラム、カシ　アキノヨノチヨノ二夜ナセリトモコトバノコヲシテトリヤナナム、コレニテナゾヘノコロヲシルベシ

殿ばらのふるまひ　宣云殿ハ源ノカムモノ所ニハ古物語ノ本トモヨイフ

あなむつかしのふるまひ　宣云コヨリ源ノ玉ニノタマフ詞ナリ　イウヘノタヲヤスクロノモノガタリハミルニウルワキモノナルヲウルサシトモオモハデメヅルハ女ト云モノハ人ニアザムカレシタメニウマレタルモノニコソドナリ　カノ玉フハマヅスコシダムシテ古モ

又いとあ〜ものがたりの〜たり〜　宣云コレ又古物語ニアル二種ノコトナリ上ノゲニサモアラントカ〜ハミテアハレト思ハル一種ノコトハミルニオドロ〜シクメヅラカニオモハルヽコトナリ目オドロキテアトヨカレキフシトヅクナリ見ルトイヒ聞クトイフハ自ラミルト人ニヨマセテキクトニテ同ジコトル元ヲ余リメヅラシクオドロ〜シキコトハ今ノヤビシヅカニ見キク件ハウルサキモノナリ尓シモソレモ又一フシノ興ヅトナリ下ノ心源氏物語ニカケルコトヲ共ヲニクサニワケテソノ心ヲノベクリソノニクサハ上ニイヘルケニサモアラムトカヽコレ一種ニテヨム人ノ心ヲ感ジメ物ノアハレヲシラセタリ心ウゴクトイフ則モノアハレニ感ズルナリサテコヽイフオドロ〜シキコレ一種ナリカクテ上ノ一種ソコノ物語ノ本意ニテ後ノ一種ハタヾマレノ興ニ書タルヽトナリサル故ニシヅカニキク件ハニクシト云テコノ物カタリノ中ニサルオドロ〜シク目サムルヤウノコトハイトマレニノミアリチダヾアハレヲミセタルスヂノミブオホカル尓ルヲセヽダバアヤシクメヅラシキコトヲ書タルフミブクミコノミメデヽナダラカニアハレヲトセタルコトナドヲバ興ナキガゴト思フメルハモノヽ心モシラヌ人ナリカシ　廣云コノ論大カタハアタレリ尓ルニ寄モ同ジコトワリナルヲ公羽ノ古今集ヲ大ヨソニミシテ新古今集ノオドロ〜シキヲコノマレタルハイカニ心エラシダルニカイトアヤシ

「この侍ろ〜」　宣云画モノ語トカモノマヅハカナキモノアソビナレバ女童ナドノヨムモノニテウナマセテハ男ナドノワザトミベキモノニハアラザル故ニヤク女房ノヨムタチキケバトハ云ナレ玉ヘルナリ尓レドモマコトニハサノミニモアラズ男ノモツネニヨミメヅルコトニテタレモ〜トモスレバ古物語ヲモノヽタメシニ引出ルヽコノ物語ニモ所々ニミエタルガゴトシ下ノ心卑下ナリ　廣云古物ガタリトコノ物語トハクレル趣意ノチガヘルコトニ心ヅカレザリシハクチヲシ伊勢物語モコレニ近シクハ

別ニ云ベシ

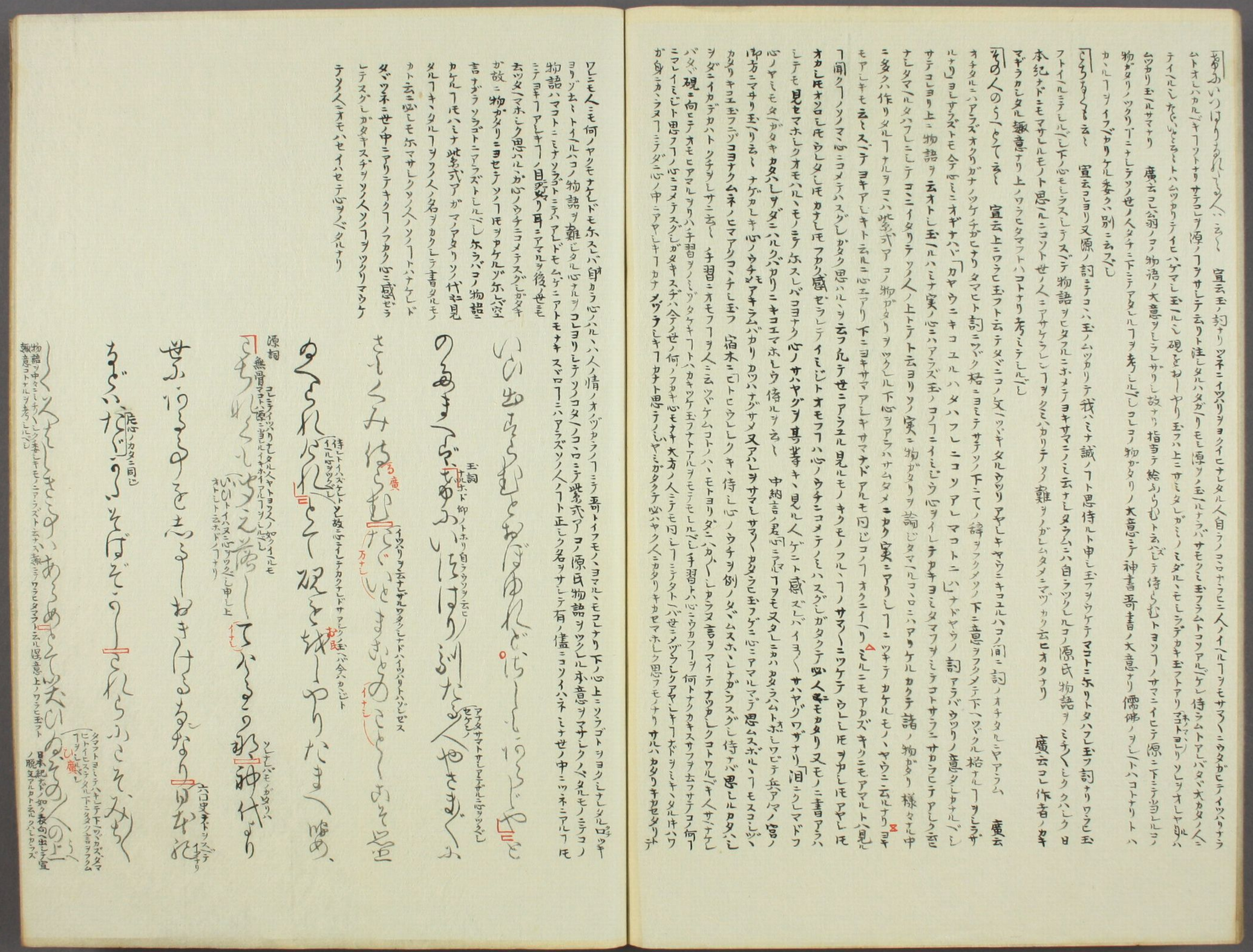
「あすくいりの〜ち〜」　宣云ソノゴトゾトハシリナガラゲニトオボエテ心ウゴキヌアルマジキコト思ナガラフトヲヤシクオモハルヽヤウニカキナセルハセニハウラゴトヲミナレテタヾミ侮ヲヨクイフモノヽアルニコソト思フハイカニトヒカケタルナリ。さ〜し〜ひ〜〜ドヤトハサハ思ドモサモアラヌニヤトムヨリ下心ヨムモノハ難ズルナリカクテコノコヌノコロハ次ノ詞共ヲヘタテヽ下ニノベタリ

[illegible]ふいのけりなれども人〻云〜　宣云玉ノ詞ナリツネニイツハリヨクイヒナタル人自ラノコロナラヒニ人ノイヘルヲモサマ〳〵ニウタガヒテイツハリナラムトオこハカルベキコトナリサテこレ源ノコヲサしテ云リト注しタルハタガ[illegible]リモミ源ノ玉ルナラバサモクミ玉フラムトヨソアルベケレ侍ラムトアレバタダ大カタノ人ニテイヘルしたいとるミトハムツカリテイヒハゲマこ玉ルし硯をおーやり玉ハ上ニサミタレガミノミダレ〻もしラデカキ玉フトアリ[illegible]ソレヲオしヤ見ハムツカリ玉ルサマナリ　廣云こ公羽ノコノ物語ノ大意ヲしるザりし故ナリ指当テ給ふりむトふべテ侍らむトヨソフノサマニイヒテ源ニ下ニテ当レルヨノ物タリノツクリヅニナしテソノ世ノ人タチニ下ニテアタレルフヲ考しルベしコレヨリ物カタリノ大意ニテ神書哥書ノ大意ナリ儒佛ノヨしトハコトナリトハカヘルフヨリイフベカリケル委〻別ニ云スベし

[illegible]ちもくも云〜　宣云コヨリ又源ノ詞ニテコハ玉ノムツカリテ我ハミナ誠ノフト思侍ルト申し玉フヨウケテマコトニホリトタハフ玉フ詞ナリワヒ玉フトイヘルニテしルベし下ノ心モミラスしテスベテ物語ヲヒタフルニホメテヨキサマニノミ云ナしタラムニハ自ラワろしルコノ源氏物語ヲミテくしクハしクヨ本紀ナドニモマサレルモノト思ルニコソトせノ人ニアサケラレンフヨクミハカリテソノ難ヲノガレムタメニマヅカク云ヒオクナリ　廣云こ作者ノカキマギラカシタル趣意ナリ上ノワラヒタマフトハコトナリ考ミテしルベし

[illegible]その人のうへとて云〜　宣云上ニワラヒ玉フト云テタダニコノ文ツヾキタルウツリアヤしキマウニキコユルハコノ間ニ詞ノオチタルニヤアラム　廣云オチタルニハアラズオクリガナノツケチガヒナリタマヒト詞ニヅヾク裕ニヨミテサテソノ下ニテノ辞ヲフクメソノ下ニ意ヲフクメテ下ヘヅヾクル裕ナルフヲしラザルナリヨしサラズトモ今ノ心ミニオギナハバ「カヤウニキコユルハタハフしニコソアレ　マコトニ」ナドヤウノ詞アラバウツリノ意タしカナルベしサテコヨリ上ニ物語ヲ云オトし玉フルハミナ実ノ心ハアラズ玉ノコノフニイミジウ心ヲイしテカキヨミタマフヲミテコトサラニサカラヒテアしク至ナしタマルタハフしこしテコニイタリテソノ人ノ上トテト云ヨリソノ実ニ物カタリヲ論じタマヘルコトロハアリケルカクテ諸ノ物カタリ様々ノ中ニ多クハ作リタルフナルヲコハ紫式アコノ物カタリヲツクレル下心ヲアラハサムタメニカク実ニアりしフニツキテカケルモノヤウニ云ルナリヨキモアしキモ云トスベテヨキアしキト云ルニ心エアリ下ニヨキサマアしキサマナドアルモ同じコノフノソマ心ニコメテハスグしカタク思ハルヽヲ云フ凡テせニアラユル見ルモノキクモノフル〻フノサマ〳〵ニツケテウしロヒヲカしロヒアヤしロヒオカしロヒオソロしタしロヒカナしロヒフカク感セラレテイミジトオモフフハ心ノウチニコメテノミハスグしガタクテ必人ニモカタリ又モノニ書アラハしテモ見セホしクオモハル〻モノニテ尓スレバコヨナク心ノサハヤグヲ亨茅キ見ル人ゲニト感ズしバイヨ〳〵サハヤグワザナリ「泪こしマドフ心ノヤミモタ（ガタキ　カタハしヲダニハルグバカリニキコエマホしウ侍ルヲ云〜　中納言ノ君ノ心ニフヲモ又タしニカハカタラハムトボしワビテ兵アマノ宮ノ御方ニマサリ玉ハリ云〜　ナゲカしキ心ノウチモアキラムバカリカツハナグサメ又アハレヲサマしサマ〳〵カタラヒ玉フゲニ心ニアマルマデ思ムスボルいフモスコしヅヽカタリキコエ玉フニヅコヨナクムネノヒマアクコ〻チし玉フ　宿木ニ「ヒトヒウしクキ侍しし心ノウチヲ例ノダベムスホしトカラヌ言ヲマイテナツかしクコトワルベキ人サナケレヲダニイカデカハトクチヲしサ云〜　手習ニオモフフヲ人ニ云ベケムコトノハ、モトヨリダニカ〳〵しカラヌ言ヲマイテナツかしクコトワルベキ人サナケレバダベ硯ニ向ヒテオモヒアマルヲリハ手習ヲノミヅタケキフトハカキツケ玉フナトアルヲモテモしルベし手習トハ心ニウカフフヲ何トナクカキスサフヲ云フサテコノ何フニマレイミジト思フフノ心ニコメテスグしガタキスヂハ今ノせノ何ノフカキ心モナキ大方ノ人ニテモ同じフヲ人ニテクトハバせニメヅラしクアヤしキフ不ドヲミキ〻タルトキハワガ身ニカハラヌフニテダニ心ノ中ニアヤしキフカナメヅラしキフカナト思テノいヤミガタクテ必ハヤク人ニカタリキカセマホしク思フモノナリサルハカタリキカセタリテ

ワニモ人ニモ何ノヤクモナケレドモ尓スレバ自カラ心ハル〻ハ人ノ情ノオヅカラノフニテ哥トイフモノ〻ヨマル〻モコレナリ下ノ心上ニソフゴトヨヨクしナしタルロツキヨリソ云ナレバワタクシナドハイツハリトハンゼス物語ハマコトニミナソラゴトニテハアレドモムケニアトモナキスヾロフニハアラズソノ人ノフト正しク名ヲサしテ有ノ儘ニコソイハネミナせノ中ニツネニアルフモ云ツタ（マホしク思ハルガ心ノウチニコメテスグしガタキカ故ニ物カタリニヨセテソノフモヲアケルゾ尓心空言ナラソラゴトニアラズトしルベし尓ラバコノ物語ニカケルフモハミナ紫式アガマノアタリソノ代ニ見タルフキ〻タルフヲフノ人ノ名ヲカクしテ書タルモノカト云ニ必しモ尓マサしクソノ人ソノフトハナケレドダベツネニせノ中ニアリテキフノフカク心ニ感ゼラレテヌグしガタキスヂヲソノ人ソノフヲツクリマウケテソノ人ニオモハセイハセテ心ヲノベタルナリ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のみるものゝ云〜　宣云人ノミカドハ異朝ヨリさえハ人ノ呼名同ヨリスゾテ物語ニ学問ノヲヾえトイフリ　ほくりやう　ハナニモノ、ツクリヤウトモタニカナフズコハザエノフミノツ
いえれるトハザエノカハルルトツクリヤウノカハルルトヲ一ツニイフルナリ　廣云カクイフテハほくりやう　ハナニモノ、ツクリヤウトモタニカナフズコハザエノフミノツ
クリヤウト云心ナルベシ　オアル人ノツクルルト見ルハ文ニカナハズサテザエノカハリ　ツクリマウノカハリ　異口ノ人ノ呼名同ノオモムキ書ノツクリヤウトコノ物語
ノ趣キ作リヤウハ同じカラズイタクコトナルヲイフ　廣云コハ異口ノ書ノ上ノ一ニテイフルニテコナタノ物ガタリノ一ニハアラズ　物語ハ唐ノ日本紀ナ
ド、カハルヨシニイフルニテソレヲイハムタメニ異口ノ書トイフモソレ〜ニカハリアルヿヲコトワリオキタルナリ　仏ノ書ノ中ニモ方等経ノ中ニ方便
多クアルヿヲイフルヲモ考合セテシルベシ

廣云大方異口ノ昏ハヒタスラ人ノ善悪見非ソキビしクコチタク論ニモノ〜道理ヲウガチテサカしゲニ人ゴトニワしカしコニ云キソヒテ凡雅ノスデ
ノ詩障多クヒトイフモ皇口ノ哥ハコヨナクカハリラナホ情ノオクノクマヲバカクしテアラハニハノズズウハベヲツクロヒガザリテトニカクニサカしクワクリナセル
ヲ皇口ノ物ガタリブミハせノアリサマ人ノ情ノアリノマニ書出タル故ニ大方モノハカナクしドケナルヿノミニテ　ヲしクサカしダチしタ、カナルヿハ
キキコ異口トツクリヤウノカハルナリ　廣云ソモ〜道ヲソナヘタルマコトノ道ナリ

ものがたりやうのこと　宣ノ民　モロコシノ書ノカハルノミナズコノ同じ皇口ノ昏トイフモ昔ト今トツクリヤウカハルナルベシトノコロロし　廣云カクテハ今ノニトイフルノフノテニヨハ叶ガタし」サテ白王口ノ昏ト云ハ上ニモ出タル日本紀ナドノタグヒヲ云ヒソ
ハ漢文ニカキテコトノサマモ物語トハイタクカハルナリ今トハ物ガタリ昏ナリ「廣云イカハ紀録実録ノタグヒナリ」カノ日本紀ナドノ古キニクラブレ
バ古モノガタリモ近キ世ノモノナレバナリ　下心ハ今ノハ今作ルルコノ原氏物語ナリ「廣云イカハ」

ふうきこゝろ　宣ノ民　事ハ二ツ共ニ文詞ニテ深キヿハ異口ノ書又日本紀ノタグヒノ女童ナドノタヤスク心エガタキ漢文ナルヨイフリ
廣云アカキヿハダベ日本紀ナドヲイフルニノ異口ノ書ニアヅカルヿニハアラズ」アサキヿトハ物語ブミノツネノコトバノマニしドケナクアケル女モ
ビナルヨイフリアカキアサキトノミハイハデヿトイフルナモテ文詞ノサマヲイフルヿナリ　下心ソノ人ノ上トテト云ルヨリコレマデ上ニソフヿナリトテ
ひがぶるふあ〜　宣ノ民　ヿノコロタカフトハ俗言ニ心エタガヒナリト云ホドノヿナリ　下心ソノ人ノ上トテト云ルヨリコレマデ上ニソフヿナリトテ
難じタルハ巻ノコロナル故ニカク云テムスビタリ　サテコノ次ハソフヿトテモヒタブルニステハツルハ心エタブヒナリト云證ニソノ例ヲヒケルナリ
佛のいとうるはしき云〜　宣ノ民　クルハしキハ俗言ニキツトシテ正しキト云コロナリ　仏ノ正しキ心ヨリトキ正しル仏法ニソフヿハアルマじキヿナレモ夫ニダニ
方便トイフヿノアルナレバマしテダニ人ハコトニヨリテハナドカ方便ニハナキヿヲモツクリイハザラムトナリ　サテ同じヿナガラソフヿト云ト方便ト云トハコロバヘ
カハリソフヿハイハユルヌ語ニテ云テアルキヿト方便ハキク人ニ益アラムタメニ云フ言ナリ　下心上ニソフヿトイフルハモノガタリブアレク云ナセル詞ナヲ夫ニ
巻テコハヒタスラニソフヿトイフベキ表ニハアラズ諸ノヨキヿアキヿヲ書アラハしテ人ニモノハアルベカラしメムタメナレバ佛ノ方便ト云ヿノタグヒヲ
トナリ

さとりちきこと　宣云仏説ノ方便ノ本意ヲサトル智ノナキモノハコニトケルト　カしコニトケルト　タガフヿノアルヲウタガハムトナリ　下心ハタベコノ物語ヲ
アレクイフ意ニナリ　廣云アレクトハニアラズアレクオモフマヒキヨしこイフルナリ

方等経　廣云赤倶々曰天台五時ノ説ハ小乗ヲ鹿ムタメノしと言テ方等ノ称ハ方廣平等ノ義ニテ凡一切ノ大乗経ノ總名ナリ阿含
部ヲ除ク外ハ華厳般若法華涅槃モ盡ク方等ナリソ證諸経ニタクミ立テ法華ニ一部八巻二十八品ソ文至テ繁シトイフモソノ要ハ
方便ノ品ニスギズ云〜ソノ余ノ諸品信解ハ是ヲ譬喩ニ授記ハ是ヲ授記乃至流通ハ是ヲ流通ニテ全ク他説ナシ
尓ラハコノ方便一品如何ナル甚深微妙ノ説カアラムトオモフニ唯有一乗法无二亦無三ノ大話ノミナリ云〜久シクハ本書ニツキテミルベシ　サテコニ
イフル方等経モ法華ナドヲモイハシタルコトナラス考ベシ

菩提と煩悩との云〜　宣云一ツムネトハ即コノボダイトボンノウトヲサシテ云リ　仏ノ方ハ方便
サマ〜アリテコニカしコタガフヤウノヿモアレモキハマル処ハ実説モオナジヿニテボダイトボンノウ
トノヘダヘルノ間ノヿヲトケルヒトツムネニオツトナリ
サテコノトイフヨリ右ノタトヘヲ物ガタリ〜合セタルニテコノトハ物ガタリ書ヲサシテ云ルナリ　人ハ物
語中ナル人ニナリカハリケルトハ物ガタリ共ニ人ノヨキトアレキトノカハリタルサマヲ書タルハカノ佛
説ノボダイトボンノウトノダヘリヲトキタルガ如シトナリ　或人問ケラクしカラバ物ガタリモキハマル
処ハ人ノヨキアレキヲしメセルナレバコレスハチ勧善懲悪ニテ経文ノ書ヒト同じキヲ物語ハ儒
仏ノ書ト撥イタクコトしト云ハイカヽ答フ上ニイ
ルゴトクモノガタリニイフヨキアレキハ儒仏ノ書ニ
云善悪邪正是非ハ同じカラザルヿ多キ故ニ
ソノオモムキイタクコトナルナリ下心モ表ノゴトし
廣云善悪是非ノタガフヿハ儒ハ儒老〜老
仏ハ仏ソレ〜ニテタガヒバ物ガタリノ上ニテ云
ルハタガフヿハサラナレド公羽ノ説モみベナヒタキ
ヿ別ニクしクイフリサテカハル姫君ナドニ物ガタル
コトバニ人ノミカドノ云〜仏ノウルハしキ云ミナド

人のみかどの　異朝　呼尚ノ書物ノサエノフミ　五経ナドカハルニテモしルベシ　ノイロハニ

やまとだましゐのことのはもてことのはたねとして　文佛法ノコナダ

日本紀紀録ナドノ　経文ノモノ〜しキ物語ノ假字ブミニテ物ハカナゲニテ

ふそうあまたのこと　宣云ノ物語ヲ何人ノトテモヒコカしタガフヿナリ

なまものいとうるはしきこと　宣云方便ハ実説トハコトナルヤウナレモキハマル処ハ一ツ中ニ
オツトナリ

りちぎ　コノ書ノオモムキ〜コノヿヲアテ考ベシ

ふかきこゝろ　アアリケルトイヒオサメル　上ハヒメタルナリニテ見

とさまかうさまのこと　アしカラヌモノヲ

ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ

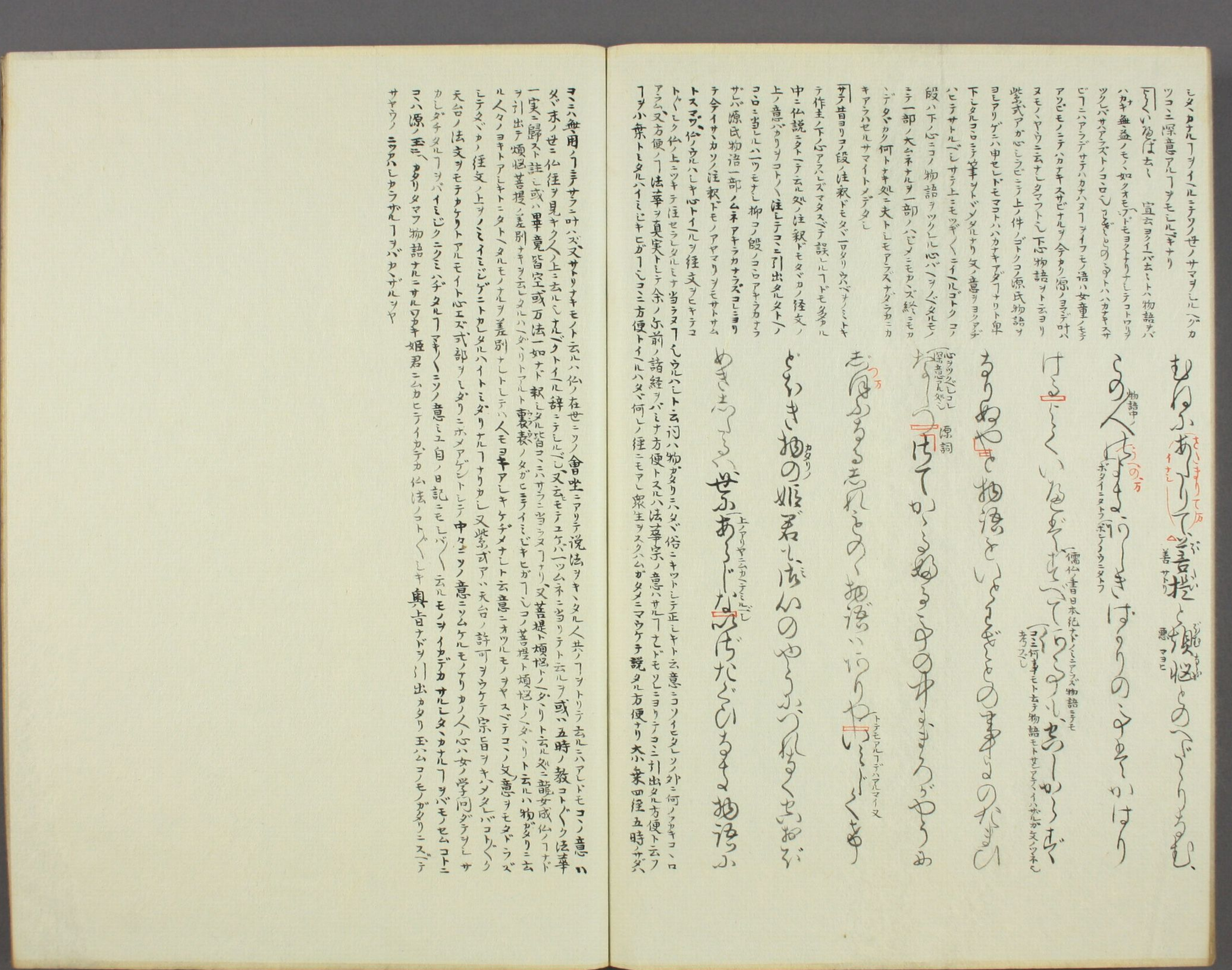
佛のいとうるはしきこと　マコトハモノガタリハソノ世ニウキテヤリタル好色ノ文ヲモテソノ世ノ人ヲワガ
ロノミナニイザナハムトスル方便ナリトノ下心ヲイフルナリコレニテコソ日本紀
ヲヨクミタルニムト仰ラレケメ

ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ　ほとけ

疑をおきつべし　方便ノ方等経ノ中ニトニ多キヲ云

方等経の中ふかきこと　方便ノ方等経ノ中ニトニ多キヲ云

五時　花厳三日阿含十二年方等十六年般若十四年法華八年



ミメ ヨナルコトヲイフニテソノセノサマヲヒルヘグカツコニ深意アルコトヲモシルヘキナリ

ミくいなぢは去〜　宣去ヨクイハ去ミトハ物語ヲハカキ無益ノモノ如クオモフドモヨクトナリナレトテコトワリヲツクレバサアラズトノコロシうぎしとのミタトハカナキスサビフニハアラデサアハカナハヌコトヲイフモノ語ハ女童ノモテアソビモノニテハカナキスサビナルヲ今タノ源ノヨマデ叶ハヌモノヤウニ云ナシタマフトシ下心物語ヲトヲヨリ紫式アガ心シラヒニテ上件ノゴトクコノ源氏物語ヲヨモアリゲニハ申セレドモマコトハカナキアダコナリト卑下シタルコロニテ筆ヲトヾメタルナリ又ノ意ヲヨクアヂハヒテサトルベシサテ上ニモツギ〳〵ニイフルゴトクコノ段ハ下心ニコノ物語ヲツクレル心バヘヲノベタルモノニテ一部ノ大ムネナルヲ一部ノハジメニモカヽズ終ニモカヽデタヾカク何トナキ処ニ大トシモアラズナグラカニカキアラハセルサマイトノデタシ

サテ昔ヨリコノ段ノ注釈ドモタヾ一ロタリ次ベナノミトキテ作主ノ下心アスレズマタスベテ誤シルコトドモ多タル中ニ仏説ニタトヘテ云処ノ注釈ドモタヾカノ経文ノ上ノ意バカリヲコトノヘ注シテコヽニ引出タルタトヘコロニ当シルハツモナシ物コノ段ノコロアヤラカナラザバ源氏物語一部ノムネアキラカナラズコヽヨリテ今テイサヽカソノ注釈ドモノアヤマリヲモサトサムトスマヅ仏ノウルハシキ心トイフルヲ経文ヲヒキテコトヾくヒク仏ノ上ニツキテ注セラレタルミナ当ラヌコトシウルハヒトシ又方便ノコト法華ヲ真実トヒテ余ノ示前ノ諸経ヲバミナ方便トスルハ法華宗ノ意ハサルコトナドモソヒニヨリテコヽニ引出タル方便ト云フコトハ葉トミタルハイミジキヒガコトシコヽニ方便トイフハタヾ何シノ経ニモアシ衆生ヲスクハンガタメニマウケテ説タル方便ナリ大小乗四経五時ノサダメニハ無用ノコトニテサラニ叶ハズ又サトリナキモノト云ルハ仏ノ在世ニソノ會坐ニアリテ説法ヲキヽタル人共ノコトヲトリテ去ルニハアレドモコヽノ意ハタヾ末ノ世ニ仏経ヲ見キク人〳〵ノ上ニ云ルシルベクトイフル辞ニテシルベシ又云モテユケバ一ツムネニ当リテト云ルヲ或ハ五時ノ教コトヾく法華一実ニ帰スト註シ或ハ畢竟皆空或万法一如ナド釈シタル皆コヽニハサラニ当ラヌコトナリ又菩提ト煩悩トノ分ヘリト云ル処ニ龍女成仏ノコトナドヲ引出テ煩悩菩提ノ差別ナキヲ云シタルハヾヘリトアルト裏表ノタガヒミテイミジキヒガコトシコヽノ菩提ト煩悩トノ分ヘリト云ルハ物ガタリニ云ル人タノヨキトアシキトニタトヘタルモノナルヲ差別ナシトシテハ人モヨキアシキケヂメナシト云意ニオツルモノヤスベテコヽノ文意ヲモタドラズシテタヾカノ経文ノ上ヲノミイミジゲニトカシタルハイトミダリナルコトナリカシ又紫式アハ天台ノ許可ヲウケテ宗旨ヲキハメタルバコトヾくク天台ノ法文ヲモテカケリトアルモイト心エズ式部ヲシダリニホメアゲントシテ中タヾソノ意ニソムケルモノナリカノ人ノ心ハ女ノ学問ダテヲシサカシダチタルコトヲバイミジクニクミハヂタルコトマヘリ〳〵ニソノ意ミユ自ノ日記ニモシレバ〳〵云ルモノヲイカデカサルヒタヽカナルコトヲバモノセムコトニコハ源ノ玉ニ、カタリタマフ物語ナルニサルワキ姫君ニムカヒテイカデカ仏法ノコトヾくしキ奥旨ナドヲ〳〵出カタリ玉ハンコノモノガクリニスヾテサヤウノニクハシカラザルコトヲバカヽザルヨヤ

玉詞

原詞

原

特歌ニ心ヨツゾシ

原詞

不孝

ぬけねぞ（イヨ〳〵ナカノヨリテ）なげかきやりつゝいみじく
恨（ツレナキヲ）こゝろあまし（ぞ）からくて
（玉）（仰ノトナリソタクミモ）ふるき（ト）ひとを（モガタリニテ）あはれ（ぬる）ぞ（スルトド）あやふなり
（子ト此ヲコシモカネタリ）（掛ル心ト如是有トモカネタリ）
なほ（ぞ）この世ふかふかの心はときこえぬるも、
こゝろをづからはいとふるくてみざれぬべ
（コヒテノワキ云カウシヒタリ）
いく志て、いまるべき（万ナシ）ほどにはあらぬ（ヲ）ふるのよ（ヲ）、
姫君の心はいつゝ（心ヲツベシ）ふとりまさりて（カキヨミナドシテ）物語、搖籃く
（源ノ紫ノ方ノ御ウツリアリテ）
たぶ〳〵（ト）ふり（ト）（明石ノ上ノヒタチタルベシ）
（枕草帝ニモ物語ノ名ニ出セリ去ト不傳世ナリ）
（源詞）
おもはのあま（ト）の（ト）ふるさと（ト）ふる（ナリテ）いと

よく（ト）ふきふる（ト）ふる（ト）ふる（ト）は（ト）ぬ（ト）ふき（ソノ物語ニ）女君（ト）、
何心もなくて、京殿志ぬる所を、若君（ト）抱
おぼし出て、（紫）女君（源ノヒルサマニヨリ）（源詞）（コレモソノモノガタリニアルベシ）かゝるわらはどもだに、
いふ（ト）（アヒノアハヒカヒタルベシ）（今俗ニヤヒタト云ニ同ジ）（むる万）（ト）（是ナリ）すゝろ（ト）て、物あはれ（ト）ふ志つゞく、
んのどかきこゆ（ト）（紫ノ初ツカタニシラハヒカニシテアヒテタルヨシノモノ）ふ似さりあま（ト）（昔ノコヲ）えいぐぬ（ト）
（源河）（サテイツク御覧アリテ仰ルニ）
ずめたるの（ト）（ビツニ）
（ハヒノ心ニ明石ノヨシアリテ玉ヲヒトヒメギミ
ノ御方ニ奉ル玉フトイヘルヲ考合スベシ）
（物語ドモノサスナリ）
ぬ（り万イ）ま（ト）の（ト）
（カクダケタカニヌ物語ノアマタアツマリタルモ）
姫君の（ト）（ワスルドナニ一ナノ如キモノガタリノ中ニテモ）
（ふ）て（ト）お（ト）（世）
（万イ三）
なる物語ども、なほ（ト）こゝ（ト）ぬ（ト）そ（ト）（万イ三）みはらぶつ（ト）

廣云コノげぬトイフルワネニナルホドトツツストハイヤ〳〵カヨ
ニテ「ロツ」ニトイフホドノ処ヨリ曾帝本ナリ「ゲニサレムカヒ
テミムホドハサテモラウタキカタニツミユルしし」ギヲ
云〳〵トアル「ゲニ」ニ同じかんでし旧説何ノコトモワリ
ガタし

（モノガタリニ出ダル）

（ユシキハ大切又ナト云ヒ同じモト忌々シキナリ）

（カヤウニ仰ラルルコトヲ）

（ミツカ心ツキヤメルナドノ）

（一せノ源氏ニテ右大将マサヨリト云人）

（ミツカ心ツキルナドイフヤウノ人マネノ）

（姫君ノ）

（ヒメギミヲオボシメスコトハ、カノツノ国ヤト云ヒドモヤセヤリ）

（玉）

（実ノ御女ニハヨシアタノチカフニツケテ）

（万ナシ）

（オモハルコトギヤ）

（紫ノ上ノオヨタクニハ仰トホリ）

（味示詞）

（ヨシ然ニテマシ）

（コノ物語ノ中ニモ）

（物語ノ）

（アマリ）

（是ナリ）

（万イモ）

（アマリカタクシクツナヤウニオモハルヽヨシナリ）

（偏ニ心ナリ）

（源氏物ガタリノ上ニナラズ）

（コレニ限ラズ意アリ思ヒワクベシ）

（ヤワラヒテアマリニカマヌノガ）

（廣云イカヘタニアラズ）

ヨシガナイカヽシテモモトノタテタルオモムキダニタしカナラバ

ヤワラカニシテモヨシハアルモノヽト、

（ふ万）

（ふっ氏）

（ジテアケタ）

（ライチノアカヌ）

（土ノケシキモナウテタヾ大ヤウニテ子供クサイノヲ）

コノ論ハ紫ノ上ニ明石ノ姫君ヲアヅケオキ玉ルカラノコヽロヨツグベし

（サマヾ）

（ソノ交ガリデハナウテソノオ名ヲシメタテタル）

（ツネノ）

（くちイ）

（ソノ女ノスグレタル処ノアルハ）

（オボシメテタル）

（フリアヒ）

（ソダテラレタル女ノ）

上ノゲニ同じ

（ソノ）

（オボシメテタル）

（面立シテ面ブセノウフナリ）

（面目アルコトヲ云）

（ソノテアケタ）

（乳母ヤ媒ナドノ人ヲ警ルコトイフカ）

（や万是ナリ）

なあるものの（源氏物ガタリノ上ニナラズ）

（ふ万）

（ざ）

（万イモ）

（ヤワラヒテアマリニカマヌノガ）

（ふっ氏）

（ジテアケタ）

（ライチノアカヌ）

（ふっ氏）

（ソノ交ガリデハナウテソノオ名ヲシメタテタル）

（ツネノ）

（くちイ）

（ソノ女ノスグレタル処ノアルハ）

（オボシメテタル）

（フリアヒ）

（ソダテラレタル女ノ）

上ノゲニ同じ

（ソノ）

（面立シテ面ブセノウフナリ）

（面目アルコトヲ云）

（ソノテアケタ）

（乳母ヤ媒ナドノ人ヲ警ルコトイフカ）

（や万是ナリ）

（ツクヅクノ）
はきてるゆ、有る虫なるもだ、白虫なるもの中より、

（ナルヤドキイノメニカハヤト）
あるとうえきこゆるゆ（ナイノバ）（ミキイタヨリ）ゆんおとりたる

仕業　詞寄ナド

（心エウスイ乳母女房ナド）
ゑだちりまさ（心ニ故ニ）ごくよりぬ人る、いうだ（ドウヅ）、（ヒメギミヲヨソノ人ニ給ヒテ）ひめ

させ（ヒ）ごまるどいたくらの姫君のてむつられるゆふ

（紫ノ上ヒメギミノマヽハナヒバ紫ノ上モソノ心ヨキ）
まゞくといそ（ソヲテダイト）ゆ思ひぎたるき、

（上ニ云ケン住吉モノガタリナモ下ニオモハセタリ）
芳樹酒も多くりるを、んそそふ（ミラレ）（心ニイフヌ）づきるゝと

（ツキナキコトヽ心ニオモハルヽコヽロ云）

（アマダノ物ガタリノ中ニテ）
あだきだはいくくとりつれ物、今、

（サルカタナルハノケテ）
弱ちどもるもゝ（ハ）ゝ紫ノ上カ）ちせ、

（ゆゆ）

言幸舎門人中川清之助しるす所をもとに書しつ

明治二十一年三月五日

三崎氏樹再